国立国語研究所学術情報リポジトリ

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』形態論情報規程集

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-06-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002843

国立国語研究所内部報告書（LR-CCG-07-04）

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』形態論情報規程集

小椋 秀樹・小磯 花絵・冨士池 優美・原 裕

平成20年3月
大規模汎用日本語データベースの構築とその活用に関する調査研究
©2008 独立行政法人国立国語研究所

正　誤　表

ページ	行	誤	正
33	32	補則４　植物名	補則４　動植物名
57	43	あどけ（ない）（アドケ（ナイ））	あどけ（ない）
57	44	あやふや（アヤフヤ）	あやふや
57	48	いんちき（インチキ）	いんちき
57	49	ウバメ（ガシ）	ウバメ［ガシ］
58	10	際どい（キワドイ）　際どい（キワドイ）	際どい（キワドイ）
58	34	なまじっか（ナマジッカ）	なまじっか
65	38	｜おざけん｜	削除
66	17		（４．２として以下の規定を追加） ４．２　姓と名とを共に略して結合した呼称は，全体で１短単位とする。 【例】　｜おざ=けん｜　｜橋=龍｜
74	29	※印として示したように「債権の所有者」と考えても	「債券の所有者」（債券＋〔（所有）＋者〕）と考えても
82	33	連用修飾成分となるもの	連用修飾成分となるもの。可能性を示すものであって，実際に単独で，又は句や節による連体修飾を受けて連用修飾成分として使われているか否かは問わない。
97	18	なさっ（た）	なすっ（た）
108	43	書く／書ける	書ける／書く
110	7	外来語については次のとおりりとする。	外来語については次のとおりとする。
116	24	書く／書ける	書ける／書く
130	49	終止形	連体形
143			（参考文献に以下の文献を追加） グループ・ジャマシイ(1998)『日本語文型辞典』くろしお出版 国立国語研究所(2001)『現代複合辞用例集』
(40)	31	「そうだ」が接続するときの	「そうだ」「過ぎる」が接続するときの

国立国語研究所内部報告書（LR-CCG-07-04）

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』
形態論情報規程集

小椋　秀樹
小磯　花絵
冨士池優美
原　　裕

平成20年3月
大規模汎用日本語データベースの構築とその活用に関する調査研究

© 2008　独立行政法人国立国語研究所

目　次

はじめに　1

第１章　『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の言語単位
小椋秀樹　冨士池優美　3

第１　語彙調査の調査単位 …… 3

第２　BCCWJの言語単位の設計方針 …… 5

第３　採用した言語単位 …… 6

第４　長単位・短単位の概要 …… 6

第５　長単位・短単位の長所 …… １１

第２章　長単位　冨士池優美　小椋秀樹　１３

Ⅰ　文節認定規程　Version 1.0

第１　文節認定規程 …… １３

第２　複合辞・連語 …… ２１

Ⅱ　長単位認定規程　Version 1.0

第１　長単位認定規程 …… ２７

第３章　短単位　小椋秀樹　小磯花絵　原裕　３５

Ⅰ　最小単位認定規程　Version 1.3

第１　最小単位認定規程 …… ３５

第２　和語の最小単位認定に関する規則 …… ４４

第３　最小単位の分類 …… ６１

Ⅱ　短単位認定規程　Version 1.3

第１　短単位認定規程 …… ６３

第２　最小単位の結合の例 …… ７４

Ⅲ　付加情報

第１　付加情報の概要 …… ８１

第２　品詞情報の概要 …… ８２

Ⅳ　同語異語判別規程　Version 1.0

第１　同語異語判別規程 …… １０１

細則１　名詞と接辞の判定基準（１） …… １１８

細則２　名詞と接辞の判定基準（２） …… １２２

細則３　助数詞の判定基準 …… １２６

細則４　動詞連用形と動詞連用形転成名詞の判定基準 …… １２７

細則５　終止形・連体形の判定基準 …… １３０

細則６　出現形「に」の品詞分類 …… １３２

細則７　助詞「か」の分類基準 …… １３４

細則８　出現形「で」の品詞分類 …… １３７

参考文献　１４３

資料　要注意語　（１）

「―が～」 …… （１）

「―の～」 …… （１）

助詞 …… （２１）

助動詞 …… （２８）

接頭的要素 …… （３４）

接尾的要素 …… （３５）

全体で１最小単位とするもの …… （５１）

はじめに

国立国語研究所は，明治時代から現代に至るまでの日本語の全体像を解明するため，大規模言語コーパスKOTONOHAの構築を進めている。この構築計画では，まず2006年度から2010年度までの５か年計画で1976年から2005年までの30年間に出版された日本語の書き言葉を対象とする『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（*Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese*, 以下BCCWJとする。）を構築する[1]。

BCCWJには，国語学・日本語学・情報工学をはじめとする幅広い分野での活用を目指して，様々な研究用の付加情報を与える。このうち形態論情報については，まず言語単位として，コーパスからの用例収集に適した「短単位」とBCCWJに格納したサンプルの言語的特徴の解明に適した「長単位」の２種類を採用した。この２種類の言語単位に基づいて，更に代表形・品詞等の情報を与える。

本書は，BCCWJで採用した長短２種類の言語単位の認定規程，短単位に対して付与する各種情報の概要等についてまとめたものである。

以下，第１章でBCCWJの言語単位の概要について述べた後，第２章において長単位の認定規程を示す。第３章では，短単位の認定規程について示した後，短単位に付与する付加情報の概要と同語異語判別規程を示す。資料「要注意語」には短単位の認定に当たって注意すべき語を一覧にする。

なお，BCCWJの形態論情報に関する各規程には，未整備の箇所がある。そうした箇所については，今後BCCWJの構築を進める中で，順次整備していく予定である。本書を参照するに当たっては，このことについてあらかじめ了解されたい。

1 KOTONOHA計画の概要については前川喜久雄(2006;2008)，BCCWJの設計については山崎誠(2007)を参照。

第１章

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の言語単位

小椋秀樹　冨士池優美

本章では，まず国立国語研究所がこれまでに行ってきた語彙調査における調査単位を概観し，続いてBCCWJの言語単位の設計方針，BCCWJで採用した言語単位の概要について述べる[2]。

第１　語彙調査の調査単位

国立国語研究所は，これまでに，マスメディアにおける書き言葉や話し言葉を中心に，合計１０回の大規模な語彙調査を実施してきた。この語彙調査に当たっては，当然 語というものを規定することが必要となる。しかし，語の定義については研究者によって様々な立場があるため，語彙調査において語（調査単位）をどのように規定するかということは常に大きな問題となる。

国立国語研究所がこれまでに行った語彙調査では，調査単位の設計に当たって，語とは何かという本質的な議論の上に立って調査単位を設計するという立場は取っていない。それぞれの語彙調査の目的に応じて最もふさわしい単位を設計するという方針の下に，一貫して操作主義的な立場を取ってきた[3]。そのため，表１．１に示すように，複数の調査単位が使われてきた[4]。

表１．１　国立国語研究所の語彙調査における主な調査単位

	単位の名称	語　彙　調　査　名
長い単位の系列	α単位	現代の語彙調査・婦人雑誌の用語
	W単位	高校教科書の語彙調査，中学校教科書の語彙調査
	長い単位	雑誌用語の変遷，テレビ放送の語彙調査
短い単位の系列	β単位	現代の語彙調査・総合雑誌の用語，現代雑誌九十種の用語用字，雑誌２００万字言語調査
	M単位	高校教科書の語彙調査，中学校教科書の語彙調査

2　本章の内容は，国立国語研究所(2006)，小椋ほか(2007)，冨士池ほか(2008)に基づくものである。
3　ここで言う「操作主義的な立場」とは，「これこれこういうものを「～単位」とする，という規定をするだけで，その「～単位」が言語学的にどのようなものなのか，単語なのか，単語でないとすれば，どこが単語とちがうのか，といった問題には，まったくふれない」(国立国語研究所1987:11)という単位設計上の立場を指す。
4　単位の概略と例については，林(1982:582-583)，中野(1998:171-172) を基にした。

【調査単位の概略】

（1）長い単位の系列 ： 主として構文的な機能に着目して考えた単位。おおむね文節に相当する。

α 単 位　文節を基にした単位。「｜小学校｜卒業｜」「｜男児用｜外出着｜」のように長い語を分割する規定を設けている。

長い単位　文節に相当する単位。「テレビ放送の語彙調査」の長い単位は，複合辞を助詞・助動詞として扱っていること，人名・地名のほか書名・番組名・商品名なども固有名詞として扱っていることから，「雑誌用語の変遷」で採用した長い単位よりも長くなっている。

W 単 位　非活用語及び活用語のうち終止・連体形，命令形，中止用法・修飾用法の連用形を１単位とする。また，それらに接続する付属語も１単位とする。

（2）短い単位の系列 ： 主として言語の形態的な側面に着目して考えた単位。

β 単 位　原則として，現代語において意味を持つ最小の単位（最小単位）二つが，文節の範囲内で１次結合したものを１単位とする。

M 単 位　β単位と同様に最小単位を基にした単位。漢語は，β単位と同様に二つの最小単位が文節の範囲内で１次結合したものを１単位とするが，和語・外来語は１最小単位を１単位とする。

【調査単位の例】

（1）長い単位の系列

α単位：　型　紙｜どおり　に｜裁断　し　て｜外出　着　を｜作り　まし　た｜
W単位：　型　紙　どおり｜に｜裁断　し　て｜外出　着｜を｜作り　まし　た｜
長い単位（雑誌用語の変遷）：
　　型　紙　どおり｜に｜裁断　し｜て｜外出　着｜を｜作り｜まし　た｜
長い単位（テレビ放送の語彙調査）：
　　型　紙　どおり　に｜裁断　し　て｜外出　着　を｜作り　まし　た｜
　　その｜問題について｜検討している｜

（2）短い単位の系列

β単位：　型　紙｜どおり｜に｜裁断｜し｜て｜外出｜着｜を｜作り｜まし｜た｜
M単位：　型｜紙｜どおり｜に｜裁断｜し｜て｜外出｜着｜を｜作り｜まし｜た｜

調査単位の設計に当たって，操作主義的な立場を取ってきたのは，「必要以上に学術的な議論に深入りし，実際上の作業がすすまないことをおそれたため」（国立国語研究所1987:12）であり，「学者の数ほどもある「単語」の定義について，まず，意見を一致させてから，というのでは，見とおしがたたない。」（同:12）からである。

このような立場に対しては，当然のことながら「語というのは何なのか，調査のため便宜的に設けられた単位にすぎないのかという問題が残る。」（前田1985:740）という批判がある。確かに，語というものを定義しようとする以上，語とは何かという本質的な議論を積み重ねていくことは重要なことである。しかし，国立国語研究所（1987:12）に，「原則的にただしい定義に達したとしても，それが現実の単位きり作業に役立たないならば，無

意味である。語い調査というのは，現象の処理なのだから。」と述べられているように，語彙調査においては対象とする言語資料に現れた個々の事象を，的確に処理するということも極めて重要なことである。このことから，これまでの語彙調査では，語とは何かという本質的な議論よりも，言語現象を的確に処理することを重視してきた。

このような立場を取って，各種の語彙調査を進めてきたことにより，「同じ資料の語彙調査を短単位と長単位との両方で行ってみてどのような違いが出てくるかを検討したことなどは，単位の区切り方を曖昧にしたまま「語彙調査」を行なうことに対する反省を促す」(前田1985:740)など，日本語の計量的な研究を進める上で先駆的な役割を果たしてきたと言うことができる。国立国語研究所の語彙調査における調査単位の設計方針には批判もあるが，それにより現実の言語事象を的確に処理してきたことは，十分に意味があったと言える。

第２　BCCWJの言語単位の設計方針

BCCWJの言語単位の設計に当たっては，語彙調査における調査単位の設計と同様の立場を取った。つまり，まずBCCWJを日本語研究に利用するために，どのような言語単位が必要か整理し，その上で設計方針を立て，その方針に基づいて言語単位を設計したのである。

このような立場を取ったのは，語とは何かという本質的な議論の重要性はもちろん認めるところではあるが，コーパス構築という実務を考えた場合，BCCWJに現れる言語事象を的確に処理できる単位を設計することの方が，より重要であると考えたからである。このようにして大規模なコーパスを処理した結果をまとめておくことは，今後，言語単位論を進める上での基礎的な資料になると考えられる。

我々は，BCCWJの言語単位の設計方針として，次の三つを掲げた。

方針１：コーパスに基づく用例収集，各ジャンルの言語的特徴の解明に適した単位を設計する。

コーパスの日本語研究への活用としてまず考えられるのは，コーパスから用例を集めることである。そのため，BCCWJを日本語研究で幅広く利用できるようにするには，用例収集に適した単位を設計する必要がある。またBCCWJは，新聞・雑誌・書籍といった複数の媒体を対象としたコーパスであり，内容も政治・経済・自然科学・文芸等と多岐にわたっている。このようなBCCWJの構成から，媒体別・分野別の言語的な特徴を明らかにしていくことが重要な研究テーマになると考えられる。したがって，そのような分析に適した単位を設計することが必要になる。

方針２：『日本語話し言葉コーパス』と互換性のある形態論情報を設計する。

国立国語研究所が既に構築したコーパスとして，現代の話し言葉を対象とした『日本語話し言葉コーパス』(*Corpus of Spontaneous Japanese*, 以下CSJとする。)がある[5]。KOTONOHAの計画では，BCCWJ・CSJは，KOTONOHAを構成するコーパスの一つとして位置付けられている。そのため，BCCWJとCSJとを統一的に扱うことのできるような，互換性を持った単位を設計する必要がある。

方針３：国立国語研究所の語彙調査における知見を活用する。

国立国語研究所は，1949年の『語彙調査 ―現代新聞用語の一例―』以来，合計10回の語彙調査を実施した。その中で，調査単位の設計や言語事象の処理に関して，様々な知見を蓄積している。そこで，BCCWJの言語単位の設計や単位認定の際に，これら語彙調査の

5 CSJの言語単位の概要については，国立国語研究所(2006)を参照。

知見を活用していく。語彙調査の結果は，日本語研究でも様々に活用されており，言語単位の設計等に語彙調査の知見を活用していくことは，BCCWJを使った日本語研究を進めていくためにも有用であると考えられる。

第３　採用した言語単位

以上の方針の下，BCCWJの言語単位について検討した結果，次のような結論を得た。

BCCWJの言語単位には，方針１で挙げた，用例収集・各ジャンルの言語的特徴の解明という二つの利用目的に応じて，次に示す２種類を採用する。

(1) 用例収集を目的とした短単位

(2) 言語的特徴の解明を目的とした長単位

この短単位・長単位は，いずれもCSJで採用した言語単位である。また短単位は国立国語研究所が行った現代雑誌九十種調査のβ単位を，長単位はテレビ放送の語彙調査の長い単位を基に設計したものである。このようにして，CSJとの互換性の保持と，国立国語研究所の持つ語彙調査の知見の活用とを図る。なお，長単位・短単位認定規程は，CSJの規程をそのまま用いるのではなく，書き言葉用に修正・拡張を行っている。長単位認定規程の主な変更点は４．１．３節に，短単位認定規程の主な変更点は４．２．３節に述べる。

第４　長単位・短単位の概要

ここでは，長単位・短単位の概要について述べる。それぞれの単位の詳細については，長単位は第２章を，短単位は第３章を参照されたい。

４．１　長単位の概要

長単位は文節を基にした単位である。長単位の認定は，文節の認定を行った上で，各文節の内部を規定に従って自立語部分と付属語部分とに分割していくという手順で行う。そのため，長単位の認定規程は，文節と長単位，二つの認定規程から成る。

本節では，文節と長単位の認定規程の概要及びCSJの長単位認定規程からの変更点，コーパスの言語単位としての長単位の長所について述べる。以下，例文中の文節の境界を「┃」，長単位の境界を「｜」とし，注目している境界を「‖」，切らないことを示す場合には「-」を，中でも注目している部分には「=」を用いる。また，注目している単位には下線を付す場合がある。

４．１．１　文節の認定

長単位の認定に当たっては，まず文節の認定を行う。

文節は，一般に付属語又は付属語連続の後ろで切れる。BCCWJでは，CSJと同様に複合辞も付属語として認めた。文節を認定する上で問題となることの一つに，固有名，動植物名，「―の～」「―が～」で1短単位と認める体言句がある。これらについては，内部にある助詞・助動詞の後では切らないこととする。

┃源=頼朝┃　┃虎の=門交差点┃　┃タツノ=オトシゴ┃　┃ユキノ=シタ┃
┃案の=定┃　┃油絵の=具┃　┃万が=一┃

４．１．２　長単位の認定

長単位は，文節を規定に基づいて分割する，あるいはしないことによって得られた要素を１単位とする形式であり，文節を超えることはない。

以下，長単位認定規程の概要を示す。

〔１〕区切り符号は１長単位とする。

｜湾岸戦争後｜、｜英｜、｜仏｜など｜と｜

ただし，区切り符号のうち，①中点等，②数字連続の中に現れるもの，③それがないときに全体が１長単位となるものの中に現れるものは，１長単位としない。

｜芸術家=・=文化人｜　　｜１７=．=３％｜　　｜小=、=中学生｜

〔２〕語と同じ働きをする記号・記号連続及びそれらを含む結合体は，全体で１長単位とする。

｜２，０００=㎡｜　　｜ＷＨＯ｜　　｜ＰＨＳ｜

〔３〕付属語（複合辞を含む。）は１長単位とする。

｜公害紛争処理法｜<u>における</u>｜公害紛争処理｜<u>の</u>｜手続｜<u>は</u>｜，｜原則｜<u>として</u>｜紛争当事者｜<u>から</u>｜<u>の</u>｜申請｜<u>によって</u>｜開始さ｜<u>れる</u>｜。｜

〔４〕体言及び副詞に形式的な意味の「する」「できる」「なさる」「いたす」が直接続く場合，体言及び副詞と「する」「できる」「なさる」「いたす」とを切り離さない。

｜<u>往復運動=し</u>｜ている｜　　｜<u>きちんと=できる</u>｜

〔５〕並列の関係にある語は切り離す。

｜<u>公正</u>｜<u>妥当</u>｜な｜実務慣行｜

(1)並列された語のうち，①中点でつなげている場合，②漢語の最小単位の並列，③和語の最小単位二つが並列した語のうち，『岩波国語辞典』第６版（岩波書店），『日本国語大辞典』第２版（小学館）のいずれか一方で見出し語になっている語は切り離さない。

｜官=・=財｜　　｜前=後｜　　｜市=町=村｜　　｜あち=こち｜

(2)並列の関係にある体言連続のうち，並列された体言全体を受ける，若しくはそれら全体に係る体言的な形式や接辞がある場合及び形式的な意味の「する」「できる」「なさる」「いたす」がある場合は切らない。

｜英語=日本語-間｜　　｜芸術家=，=文化人等｜

｜新-学年=・=学期｜　　｜在学=・=在校する｜

〔６〕同格の関係にある体言連続は切り離さない。

｜<u>機関誌=計量国語学</u>｜が｜発刊さ｜れ｜

〔７〕数を表す要素を含む自立語は，以下のように長単位を認定する。

(1)数を表す要素は，単位の変わり目の後ろで切る。

｜平成｜１５年‖９月‖１５日｜午後｜７時‖３３分｜

(2)数を表す要素の前で切る。

｜延べ‖２３時間｜３０分｜

ただし，数を表す要素と前の要素とを受ける体言がある場合，数を表す要素と前の要素との間に中点がある場合には，数を表す要素と前の要素とを切り離さない。

｜果汁=百パーセント-オレンジジュース｜　　｜７業種=・=４２品目｜

(3)数を表す要素とそれに続く体言・接辞とは切り離さない。

｜週｜<u>４０時間=勤務</u>｜　　｜９６年｜３月｜<u>３１日=以前</u>｜

〔８〕括弧内に注釈的な語句等がある場合，括弧をいったん読み飛ばして単位認定を行う。

｜大学院レベル｜の｜若手研究者｜の｜短期受入れ（文部科学省若手外国人研究者短期研究プログラム）等｜を｜実施し、｜

⟶｜短期受入れ=等｜を長単位として認定する。括弧内は別途単位認定を行い，｜文部科学省若手外国人研究者短期研究プログラム｜も長単位とする。

４．１．３　CSJの長単位からの変更点

（１）記号に関する規定の追加

CSJの書き起こしテキストには用いられていなかった句読点等，区切り符号を含む記号を１長単位にする規定を追加し，書き言葉に対応した。

（２）数量を表す要素に関する変更

CSJでは数量を表す要素は分割せず一続きとしていたが，長すぎるという指摘があった。

CSJ ：｜１ｍ=８０ｃｍ｜

BCCWJでは前述のとおり，単位の変わり目の後ろで分割することとした。

BCCWJ ：｜１ｍ‖８０ｃｍ｜

（３）係り受けが関係する規定の簡素化

CSJでは「体言連続の一部分が連体修飾語を受けている場合，その後ろで切る」「２文節を受ける，若しくは２文節以上に係る接辞はその前後で切る」という規定があった。

CSJ ：｜項構造｜の｜曖昧性‖解消｜
　　｜円形劇場｜とか｜水路‖等｜

これらは，語と語との係り受けを厳密に考えたところから作られたものである。しかし実際に単位分割をする際には，体言連続の一部分が連体修飾語を受けているかどうかの判定が難しいものがある。そのため，特に判定が難しい「体言＋以降，間（かん），ごと，自体，達」という形式は，

CSJ ：｜住ん｜でる｜人=達｜

のように，体言と「達」などとを切り離さないという例外規定を設ける等，煩雑な規定となっていた。このことが単位認定のゆれにつながっていたため，BCCWJでは規定を簡素化することとした。

BCCWJ ：｜項構造｜の｜曖昧性=解消｜
　　｜円形劇場｜とか｜水路=等｜

（４）語中の注釈に関する規定の追加

書き言葉では，括弧を付して注釈的な語句・文を示す形式がしばしば見られる。このような形式のうち，

まとめて登録（申請から登録まで最短１日）可能になるほか

のように，長単位の中に注釈的な語句・文を示す括弧が入る場合の扱いが単位認定上，問題となる。この場合，括弧内の語句・文をいったん読み飛ばし，括弧がない形式（上の例では「登録可能」）を長単位として認定し，括弧内の語句・文については別途，単位認定を行うこととした（上の例では「｜申請｜から｜登録｜まで｜最短｜１日｜」と分割）。これは過去の国立国語研究所の語彙調査の方針に基づくものである。

４．２　短単位の概要

短単位は，言語の形態的側面に着目して規定した言語単位である。短単位の認定に当たっては，まず現代語において意味を持つ最小の単位（以下，最小単位）を規定する。その上で，最小単位を長単位の範囲内で短単位の認定規程に基づいて結合させる（又は結合させない）ことにより，短単位を認定する。そのため，短単位の認定規程は，最小単位と短単位，二つの認定規程から成る。

本節では，最小単位と短単位の認定規程の概要及びCSJの短単位認定規程からの変更点，コーパスの言語単位としての短単位の長所について述べる。以下，例文中の最小単位の境界を「／」，短単位の境界を「｜」とし，注目している境界を「‖」，切らないことを示す場合には「-」を，中でも注目している部分には「=」を用いる。また，注目している単位には下線を付す場合がある。

４．２．１　最小単位の認定

最小単位は，現代語において意味を持つ最小の単位であり，和語・漢語・外来語・記号

・人名・地名の種類ごとに，次のように認定する。

和　語　：／豊か／な／暮らし／に／つい／て／
　　／大／雨／が／降っ／た／の／で／
漢　語　：／国／語／　　／研／究／所／
外来語　：／コール／センター／　　／オレンジ／色／
人　名　：／星野／仙一／　　／ジェフ／・／ウィリアムス／　　／林／威助／
地　名　：／大阪／府／豊中／市／待兼山町／　　／六甲／山／　　／琵琶／湖／
記　号　：／図／Ａ／　　／ＪＲ／

上記のように認定した最小単位を短単位認定の必要上，表１．２のように分類する。

表１．２　最小単位の分類

分　類		例
一　般		和　語　：豊か　大　雨… 漢　語　：国　語　研　究　所… 外来語　：コール　センター　オレンジ… 数　一　二　十　百　千…
その他	付属要素	接頭的要素　：　相　御　各… 接尾的要素　：　兼ねる　がたい　的…
	助詞・助動詞	う　だ　ます　か　から　て　の…
	人名・地名	星野　仙一　大阪　六甲…
	記　号	Ａ　Ｂ　ω　イ　ロ　ア　ＪＲ…

上記の分類のうち「付属要素」とは，接頭辞・接尾辞・補助用言のことである。ただし，すべての接頭辞・接尾辞・補助用言を付属要素に分類するわけではない。現代雑誌九十種調査やCSJに出現したものの中から造語力が高いなど注目されるものを付属要素に分類している。今後，BCCWJに出現した接頭辞・接尾辞・補助用言からも，造語力が高いものなどを追加していく予定である。

なお，最小単位は短単位認定のために必要な概念として規定するものである。そのため，BCCWJのサンプルを最小単位に分割することはしない。

４．２．２　短単位の認定

短単位の認定規定は，表１．２の分類ごとに適用すべき規定が定められている。その規定に基づいて最小単位を結合させる（又は結合させない）ことにより，短単位を認定する。なお，最小単位を結合させる際には，長単位境界を超えないという制約を設け，長単位と短単位とが階層構造を持つようにしている。

以下，一般・数・その他に分けて，短単位認定規程の概略を示す。

［１］一般

《原則》

（１）和語・漢語は，２最小単位の１次結合体を１短単位とする。

｜母=親｜　　｜食べ=歩く｜　　｜言=語｜資=源｜　　｜研=究｜所｜
｜本=箱｜作り｜

（２）外来語は，１最小単位を１短単位とする。

｜コール｜センター｜　　｜オレンジ｜色｜

《例外規定》

（１）省略された外来語の最小単位の扱い

①省略された外来語の最小単位は，和語・漢語の最小単位と同様に扱う。

｜パソ=コン｜　　｜塩=ビ｜　　｜ピン=ぼけ｜

②省略された外来語の最小単位と省略されていない外来語の最小単位との１次結合体は１短単位とする。

｜エア=コン｜　　｜マス=コミ｜

（２） １最小単位を１短単位とするもの

①最小単位が３個以上並列した場合の各最小単位

｜衣｜食｜住｜　｜松｜竹｜梅｜　｜都｜道｜府｜県｜

②類概念を表す部分と名を表す部分とが結合してできた固有名詞のうち，類概念を表す部分と名を表す部分とが共に１最小単位の場合の，それぞれの最小単位

｜さくら｜屋｜　｜歌舞伎｜座｜　｜のぞみ｜号｜

（３）最小単位の３個以上の結合体を１短単位とするもの

①３個以上の最小単位からなる組織名等の略称

｜日経連｜　｜通総研｜

②切る位置が明確でないもの，あるいは切った場合と一まとめにした場合とで意味にずれがあるもの

｜大統領｜　｜不可解｜　｜明後日｜　｜殺風景｜
｜輸出入｜　｜国内外｜　｜原水爆｜　｜市町村長｜
｜大袈裟｜　｜大丈夫｜　｜二枚目｜　｜十八番｜

ただし二つ以上の漢語の最小単位が並列して１短単位と結合している場合は，次のように短単位を認定する。

｜中｜小｜企業｜　｜小｜中｜学校｜　｜都｜道｜府｜県｜知事｜

［２］数

「数」以外の最小単位と結合させない。「数」どうしの結合は，一・十・百・千のとなえを取る桁ごとに１短単位とする。「万」「億」「兆」などの最小単位は，それだけで１短単位とする。小数部分は１最小単位を１短単位とする。

｜十｜二｜月｜二十｜三｜日｜　｜七百｜五十｜二｜万｜語｜
｜五｜分｜の｜二｜　｜二三十｜回｜　｜〇｜．｜四｜五｜

［３］その他

１最小単位を１短単位とする。

付属要素　：｜筒｜状｜　｜扱い｜兼ねる｜
助詞･助動詞　：｜豊か｜な｜暮らし｜に｜つい｜て｜
人名　：｜星野｜仙一｜　｜ジェフ｜・｜ウィリアムス｜　｜林｜威助｜
地名　：｜大阪｜府｜豊中｜市｜待兼山町｜　｜六甲｜山｜　｜琵琶｜湖｜
記号　：｜図｜Ａ｜　｜ＪＲ｜

４．２．３　CSJの短単位からの変更点

CSJの短単位や現代雑誌九十種調査のβ単位では，「一般」の外来語の最小単位も，和語・漢語と同様，２個の１次結合を１短単位としていた。つまり，「コールセンター」「オレンジ色」を１単位としていた。ただし，(1)欧米語の冠詞・前置詞に当たるものは１最小単位を１短単位とする，(2)β単位では最小単位２個の１次結合が７拍を超える場合，短単位では同じく10拍を超える場合，結合させずに１最小単位を１短単位とするという例外規定を設けていた。

しかし，外来語の最小単位２個の１次結合を１短単位とすることについては，CSJの構築当初から和語・漢語に比べて長すぎるのではないかという指摘があった。このような指摘を踏まえ，上記(2)の拍数による例外規定を設けたが，10拍を超える場合としたことに言語学的な意味があるわけではなく，そういう意味でこの例外規定にも問題があった。

以上のことから，BCCWJでは「一般」の外来語の最小単位は，原則として１最小単位を１短単位とし，和語・漢語の最小単位とは異なる扱いにした。

第５　長単位・短単位の長所

ここでは，長単位・短単位がコーパスの言語単位として，どのような長所を持つのかについて述べる。

５．１　長単位の長所

一般に単位を短くすればするほど，取り出した単位はいわゆる基本的な語となる。反対に，より長い単位とすれば，当該資料の性格を反映する特徴語を取り出せるようになる。短単位は基準が分かりやすくゆれが少ないため，用例収集を行う上では便利な単位であるが，合成語を構成要素に分割してしまうという問題点がある。

中央省庁刊行白書の人手修正済み短単位データ（約20万語）を基に，白書を安全・科学技術・外交・環境・教育・経済・国土交通・農林水産・福祉に分類した場合，どのような語と結合するかという点から，ジャンル別の差異を見る。以下，「生活」という語を例に説明する。20万語中，「生活」は211例見られる。そのうち「生活」単独で使われた例が42例，合成語の構成要素として使われている例が169例と，「生活」という短単位は，合成語の構成要素として使われることが多いことが分かる。

ここで，経済と福祉それぞれのジャンルでの「生活」を見てみよう。経済では「生活」は７例使われており，そのうち，「生活」単独で使われた例は１例である。一方，福祉では「生活」が126例用いられており，そのうち「生活」単独で使われた例が27例である。

以下に，「生活」が合成語の構成要素として使われている例を示す。

【経済】
国民生活選好度調査　消費生活　人間生活　生活不安度指数　労働者生活

【福祉】
ＷＨＯ国際生活機能分類　加齢、食生活、日常生活環境等　家庭生活
基礎的生活コスト　共同生活　国際生活機能分類　国民生活センター
国民生活選好度調査　市町村障害者生活支援事業
施設サービス・精神障害者生活訓練施設　自立生活　社会生活　消費生活
消費生活センター　障害者就業・生活支援センター　障害者生活訓練
食生活環境　食生活関連情報　生活コスト　生活する　生活できる
生活確保体制　生活環境　生活教養テレビ番組　生活訓練・就労・住居等
生活支援　生活支援体制　生活施設　生活実態　生活上　生活水準
生活全般　生活相談　生活満足度　精神障害者地域生活支援センター
知的障害者生活支援事業　地域生活　地域生活支援　日常生活
日常生活支援体制　日常生活上　避難生活　別居生活

上に挙げた中で，下線を付した語はそれぞれ経済のみ，福祉のみに出現しているものである。つまり，「生活不安度指数」「労働者生活」などは経済の白書を特徴付ける語であり，「障害者生活訓練」「生活コスト」「地域生活」などは福祉の白書を特徴付ける語であると言うことができる。このように「労働者生活」を「労働」と「者」と「生活」とに，「生活コスト」を「生活」と「コスト」とに分割するのではなく，全体で一つとして扱う長い単位を使うことで，各分野の特徴的な語を把握することができる。長単位は各ジャンルの言語的特徴を解明するという目的にかなう，各媒体・各分野の資料的な性格を反映する単位と言える。

５．２　短単位の長所

短単位の長所としては，次の２点が挙げられる。

長所１：基準が分かりやすく，ゆれが少ない。

これは，短単位の基礎となる最小単位の認定に当たり，個人によってとらえ方に幅のある要素を基準に持ち込んでいないことによる。

なお，基準が分かりやすく，ゆれが少ないという短単位の長所は，作業効率の向上につながるだけでなく，コーパスの使いやすさにもつながる。基準が分かりやすければ，利用者が語を検索する際，どのように検索条件を指定すればよいか迷うことが少なくなる。また，ゆれの少なさ，つまりデータの精度の高さは，分析結果の確かさにもつながる。

長所２：取り出した単位が文脈から離れすぎない。

上で短単位はゆれが少ない単位であると述べたが，実は最もゆれが少ない単位は，短単位ではなく，その基礎となっている最小単位である。それにもかかわらず，最小単位を言語単位として採用しなかったのは，最小単位は文脈から離れすぎるため，日本語の研究に使いにくいからである。

例えば，短単位「気持ち」は「気」と「持ち」の二つの最小単位に分割することができる。もしこのような最小単位でコーパスが解析されていると，動詞「持つ」を検索した際に，「荷物を持つ」などの「持つ」とともに，「気持ち」の「持ち」も検索結果として得られることになる。

しかし，動詞「持つ」の分析を行う際に，「気持ち」の「持ち」まで検索結果に含まれるのは望ましいとは言い難い。それは，実際の文脈の中では，動詞「持つ」として機能していないからである。したがって，コーパスから用例を収集し，分析することを考えた場合，正確に単位認定ができるとしても，最小単位のような単位では問題が多いということになる。

以上のように考えた場合，短単位は，基準の分かりやすさ・ゆれの少なさという条件を満たしつつ，用例を収集して分析を行うという利用目的にもかなう単位と言える。

第２章

長 単 位

冨士池優美　小椋秀樹

長単位は文節を基にした言語単位である。長単位の認定は，文節の認定を行った上で，各文節の内部を規定に従って自立語部分と付属語部分とに分割していくという手順で行う。そのため，長単位の認定規程は，文節と長単位の二つの認定規程から成る。

《 凡 例 》

1．以下の規程に示した例は，コーパスに現れた例又は作例である。
2．文節・長単位の境界を示すために次の記号を用いた。
　文節の境界　……　|　　例：|国立国語研究所の|
　長単位の境界　……　|　　例：|国立国語研究所|の|
　長単位の境界（当該規定で着目している箇所）
　　……　‖　　例：|国立国語研究所‖の|
3．文節・長単位について分割しないことを特に示す必要があるときには，次の記号を用いた。
　文節・長単位のつなぎ目　……　-　　例：|機関誌-計量国語学が|
　文節・長単位のつなぎ目（当該規定で着目している箇所）
　　……　=　　例：|きちんと=できる|
4．着目している文節・長単位が分かりにくい場合は，当該箇所に下線を付した。
5．2007年7月作成の「文節認定規程・長単位認定規程（案）」からVersion 1.0への改定で修正した規定には「(◆ver.1.0修正)」，追加した規定には「(◆ver.1.0追加)」と表示した。

Ⅰ　文節認定規程　Version 1.0

第１　文節認定規程

1　句読点（句読点として用いられているカンマ・ピリオドを含む。），スペースの後ろで切る。

【例】　|低コストで|機動的に|商業施設として|活用する|例なども|ある。‖
|米は|湾岸戦争後、‖英、‖仏などと|ともに|国連安保理決議を|
|実包八百五十六個等を|発見、‖押収すると|ともに、‖
|この|ような|社会情勢の|下で，‖公害に|関する|法制の|整備が|急がれると|ともに，‖
|第２部　‖森林|及び|林業に関して|講じた|施策|

1．1　次に挙げる読点，カンマ，小数点の後ろでは切らない。

（1）数字連続の中に現れるもの
【例】　|大学院には|約２万５=，=０００人が|在籍している|

｜年に｜１=、=２日間の｜活動を｜義務付けたり、｜
｜大都市（政令指定都市）は｜１７=．=３％であるが、｜１０万人以下の｜市や｜郡部（町村）も｜２０=．=７％と｜なっている。｜

（２）それがないときに全体が１文節となるものの中に現れるもの

【例】　｜小=、=中学生では｜内容的に｜早すぎる｜ものが｜あるからだ。｜
｜銀行取引停止｜避け｜自ら｜転=、=休=、=廃業選択｜
｜文化庁文化交流使事業は，｜芸術家=，=文化人等，｜文化に｜携わる｜
｜こう｜した｜動きを，｜名目=，=実質ＧＮＰの｜構成要素としての｜

２　助詞・助動詞・接尾辞連続（言いよどみの助詞・助動詞・接尾辞も含む。）の後ろで切る。助詞・助動詞には第２「複合辞・連語」の表２．１，表２．２に挙げた複合辞を含む。

【例】　｜観光立国を‖推進するに当たっては‖日本の‖魅力の‖確立が‖必要であるが，｜
｜地域住民に‖よる｜ネットワークが‖形成さ=れ=にくい‖状況が‖生じており，｜
｜その｜目的が‖個人に‖絞られ‖過ぎている‖傾向が‖ある｜

２．１　助詞相当句・助動詞相当句の中に副助詞など（言いよどみの助詞・助動詞も含む。）が挿入された場合も，文節認定の上では全体で一つの複合辞と見なす。

【例】　｜お友達には｜からかわれて=ばかり=いる｜三枚目で=も=ありました。｜

２．２　助詞・助動詞連続の後ろであっても切らない場合は，補則１に示す。

３　助詞・助動詞を伴わない自立語は，以下の各項に該当する箇所で切る。

３．１　主語・主題の後ろで切る。

【例】　｜空気まで｜碧く｜染め変えてしまった｜ような｜緑‖あふれる｜風景の｜中に、｜
｜気持ち‖悪いから、｜ばかていねいな｜物の｜言い方を｜するのは｜
｜源泉徴収だけで｜確定申告は｜原則｜必要‖ないが、｜

３．２　連用修飾成分の後ろで切る。

【例】　｜柔らかい｜日差しに｜きらめきながら｜空‖高く｜飛んで｜行った。｜
｜山‖深く｜谷‖深く、｜数十年前までは｜なかなか‖入って｜いく｜ことの｜できなかった｜秘境です。｜
｜彼は｜事故報告を｜正しく‖しなかった｜ことに｜なりますので、｜
｜自分で｜行動するなど、｜とても‖できは｜しない。｜
｜終わったら、｜やっと‖パン‖食べられる！｜
｜今日‖来てらっしゃいますけども｜
｜平成十四年六月十八日‖ＩＴ戦略本部決定｜

ただし「消滅する」「紛失する」「死去する」の意の「なくなる」は切らない。

【例】　｜親と｜同居する｜ことにより｜支出する｜必要が｜なく=なるもの｜

３．３　連体修飾成分の後ろで切る。

【例】　｜この‖資格には｜３級から｜１級まで｜あり、｜

｜繊細で｜突き詰めて｜ものを｜考える‖タイプながら、｜
｜第二次大戦中に｜存在した｜大きな‖軍事基地の｜名前に｜ちなんだ｜

３．４　用言の中止法・終止法・命令法の後ろで切る。
【例】　｜ちょっとした｜山も｜あり‖緑｜溢れる｜
｜何か｜(F あの)｜頑張れ‖池田高校ナイン｜

３．５　接続詞の前後で切る。
【例】　‖しかし‖退職金制度などの｜整備状況の｜違いや、｜
｜内閣府を｜中心に、｜我が国‖そして‖世界の｜科学技術の｜進歩の｜一翼を｜担い、｜

３．６　感動詞の後ろで切る。
【例】　｜はい‖そうです｜(M 金沢に｜旅行したいので)という｜ような｜内容に｜

３．７　体言の独立格の後ろで切る。
【例】　｜犬の｜方から｜(Fあー)｜お父さん‖起きてよという｜ような｜ことで｜

３．８　規定３．１から３．７に該当しても切らない場合は，補則１に示す。

４　文節の認定上問題となる点については，以下の規定に従う。

４．１　擬音語・擬態語の類は一続きにする。
【例】　｜わいわい=がやがや｜

４．２　同じ要素及び類似の要素の繰り返しは切り離す。
【例】　｜はい‖はい｜え｜はい‖はい｜(F あ)｜分かりました｜

ただし，次に挙げるものは切り離さない。

あとあと　ごくごく　さてさて　ただただ　どうこう　なおなお
まずまず　またまた　まだまだ　よくよく

【例】　｜ごく=ごく｜簡単に｜申しますと｜
｜まず=まずの｜着順を｜受けて、｜

４．３　体言に形式的な意味の「する」「できる」「なさる」「いたす」が直接続く場合，体言と「する」「できる」「なさる」「いたす」とを切り離さない。
【例】　｜まるで｜１つの｜光点が｜往復運動=している｜ように｜
｜まほろば連邦が｜具体的｜どんな｜活動=してるか｜
｜私は｜この｜予選を｜１位で｜通過=できると｜信じている｜
｜久保田藩内を｜巡回=なさっている｜わけですな｜

国語辞典でサ変動詞語幹としての用法が示されていないものについても，形式的な意味の「する」「できる」「なさる」「いたす」が直接続く場合は，「する」「できる」「なさる」「いたす」を切り離さない。
【例】　｜青空に｜桜の｜花が｜満開=してる｜様子は｜
｜ぷらぷらと｜(F あのー)｜ウインドーショッピング=する｜

４．３．１　「お（ご）＋動詞連用形（名詞）＋する・くださる・いただく・なさる・いたす・ねがう・もうしあげる・あそばす」については，全体を一続きのものとする。

【例】　｜ご理解と｜ご協力の｜ほど｜よろしく｜お=願い=申し上げます。｜
｜いかが｜お過ごしでしたか、｜お=聞かせ=ください。｜
｜民事訴訟の｜ご専門としての｜ご意見を｜お=聞かせ=願いたいと｜思います。｜

４．４　体言＋用言という形式のうち，『岩波国語辞典』第６版（岩波書店），『日本国語大辞典』第２版（小学館）のいずれか一方で見出し語になっているものは，体言と用言とを切り離さない。

【例】　｜しかた=なく｜洗ってもらったら、｜やっと｜もとの｜通りに｜なりました。｜

４．５　副詞に形式的な意味の「する」「できる」「なさる」「いたす」が直接続く場合，副詞と用言とを切り離さない。

【例】　｜「何が始まるのかな」と｜目を｜きらきら=させた｜
｜需要に対して｜供給を｜きちんと=できる｜社会で、｜

４．６　並列された語は切り離す。

【例】　｜企業会計の｜標準的な｜ルールは，｜公正‖妥当な｜実務慣行を｜集約した｜ものという｜意味で｜

４．６．１　並列された語のうち，次に挙げるものは切り離さない。

（１）並列された語を中点でつなげている場合

【例】　｜頭が｜ちっさくて｜長身で｜手=・=足が｜凄く｜長く｜
｜官=・=財の｜腐れ縁を｜断ち切りたいと｜いうが、｜

（２）漢語の最小単位の並列

【例】　｜この｜(M と)の｜前=後が｜どれだけの｜大きさを｜持った｜
｜東京の｜郊外の｜市=町=村と｜言うか｜

（３）和語の最小単位二つが並列した語のうち，『岩波国語辞典』第６版，『日本国語大辞典』第２版のいずれか一方で見出し語になっている語

【例】　｜あち=こち｜連れ歩いて｜よく｜遊んだ｜ものである。｜
｜他に｜何が｜あるだろうという｜ことを｜あれ=これと｜思いました｜
｜皆｜とても｜頭が｜ちっさくて｜長身で｜手=足が｜凄く｜長く｜

※　並列の関係にある語の間に読点がある場合，規定１が優先的に適用され，次のように文節が認定される。

【例】　｜東京の｜郊外の｜市、‖町、‖村と｜言うか｜
｜とても｜頭が｜ちっさくて｜長身で｜手、‖足が｜凄く｜長く｜

４．６．２　並列の関係にある体言連続のうち，並列された体言全体を受ける，若しくはそれら全体に係る体言的な形式や接辞がある場合は切らない。

【例】　｜昭和５５年=、=５６年に｜全国平均で｜それぞれ｜前年比１２．３％増｜
｜英語=日本語-間の｜会話文の｜翻訳を｜行なう｜ことが｜できます｜
｜学習データー=入力データー-共｜マスク値で｜置き換えた｜

４．６．３　並列の関係にある体言連続のうち，並列された体言全体を受ける形式的な意味の「する」「できる」「なさる」「いたす」がある場合は切らない。

【例】　｜各語の｜状況っていう｜ものを｜観察=整理-しました｜
　　｜職業能力開発大学校に｜在学=・=在校する｜場合で，｜

※　並列の関係にある体言の間に読点がある場合，規定１が優先的に適用され，次のように文節が認定される。

【例】　｜下草や｜低木等の｜下層植生が｜減少、‖消失し、｜

４．７　同格の関係にある体言連続は切り離さない。

【例】　｜機関誌=計量国語学が｜発刊され｜
　　｜機関誌=計量国語学-発行の｜年に｜

※　同格の関係にある体言の間に読点がある場合，規定１を優先的に適用して読点の後ろで切る。

【例】　｜民間の｜信用調査機関、‖帝国データバンク｜大阪支社が｜十四日｜発表した｜
　　｜悲願の｜名人位を｜つかんだ｜加藤に｜二十一歳の｜青年、‖谷川が｜挑み、｜

同格の関係にある体言連続全体に係る，若しくはそれら全体を受ける体言・接辞がある場合も規定１を優先的に適用する。

【例】　｜１カ月前から｜始まった｜Ｂ２９の｜首都、｜東京-空襲。｜

４．８　数を表す要素は一続きにする。
また，数を表す要素とその直前直後の要素とは切り離さない。

【例】　｜昭和十三年=八月=八日の｜荒木文部大臣の｜発言や｜
　　｜ところで｜朝=八時から｜もう｜色んな｜人に｜紛れて｜
　　｜平均値=三．〇六という｜ような｜値に｜なって｜
　　｜日米韓=三国の｜対応｜
　　｜パチスロの｜場合だったら｜一箱=三万ぐらいなんですけど｜
　　｜十年以上=前までは｜(F ま)｜規則合成っていう｜方式が｜
　　｜知床には｜熊がですね｜推定=三百頭｜いると｜言われています｜
　　｜月々=平均=二十五万ぐらい｜掛かるんです｜

※　数を表す要素とその直前の要素との間に読点がある場合，規定１を優先的に適用して読点の後ろで切る。

【例】　｜平均値、‖三．〇六という｜ような｜値に｜なって｜
　　｜知床には｜熊がですね｜推定、‖三百頭｜いると｜言われています｜

補則１　規定２・規定３の例外規定

次に挙げるものは，その内部が規定２・規定３で切ることになっていても切らない。

（１）資料「要注意語」の「―が～」「―の～」「全体で１最小単位とするもの」及び表２．３に挙げられた語

【例】　｜そこが｜万が=一｜倒産すると｜
　　｜この｜油絵の=具を｜いっぱい｜買わされて｜
　　｜たくさんの｜歴史的な｜建物が｜至る=ところに｜残っています｜

｜よく｜この=頃｜テレビで｜番組が｜出てますよね｜
｜凄い｜我が=ままな｜患者さんに｜
｜結局｜もう｜毎日｜我が=物顔で｜来る｜もんだから｜
｜あて字と｜思われる。｜そう=して｜その｜ゴサンは｜少なくとも｜

（２）短単位認定規程の補則６に挙げられた語

【例】　｜クライアントは｜得て=して｜２つの｜予算を｜持っている。｜
｜これを｜どうするかっていう｜ことで｜すったか=もんだした｜訳ですけれども｜

（３）次に挙げる固有名

【例】

〔人名（芸名・しこ名・あだ名などをふくむ）〕
｜源（みなもとの）=頼朝｜　　｜千代の=富士｜

〔国名〕
｜グレートブリテン=及び=北アイルランド連合王国｜

〔行政区画名〕
｜目黒区内にですね｜(F あの)｜自由が=丘等の｜(F あの)｜町が｜ある｜
｜お茶の=水の｜私｜あんまり｜お店の｜名前とか｜よく｜覚えてなくて｜
｜この｜北区の｜西が=丘に｜こう｜やって｜研究所という｜ものを｜

※　行政区画名が連続する場合，以下のように分割する。
｜東京都｜北区｜西が丘｜三丁目｜九番｜十四号｜

〔地域名〕

〔地形名〕
｜場所は｜丹沢の｜塔の=岳が｜使われます｜

〔場所名〕
｜更に｜丸の=内線も｜乗り入れています｜
｜虎の=門交差点を｜先頭に｜二キロの｜渋滞です｜

〔略称〕

〔建造物名〕
｜浅草寺の｜境内に｜ある｜五重の=塔なんですけれども｜

〔組織名（社名・会議・委員会など）及びそれに関連する肩書〕
｜国立少年自然の=家｜　　｜独立行政法人=国立国語研究所｜

※　組織名等が連続する場合，以下のように分割する。
人名の前にある肩書と人名とは切り離す。
｜国立国語研究所｜研究開発部門｜言語資源グループ｜
｜国立国語研究所｜研究開発部門｜言語資源グループ‖前川喜久雄｜
｜アメリカ合衆国｜大統領‖ブッシュ｜

〔歴史的できごとの名称※〕
｜関ヶ原の=戦い｜　｜蛤御門の=変｜　｜明治十四年の=政変｜

※　戦争・革命・事件などで，日本史・世界史の教科書において，慣用的に一定の名で呼ばれるもののみとする。

〔祝日※〕
｜毎年｜五月五日｜子供の=日(D2 は)に｜なると｜

※　「国民の祝日に関する法律」(1948年7月30日法律第178号) に定められたもの。次の例のように，同じ日を指していても，同法で定められた名称と異なれば，固有名としない。
｜憲法記念の‖日｜

（4）動植物名
【例】　｜タツノ=オトシゴ｜
｜ユキノ=シタ｜　｜ワレモ=コウ｜　｜ヒカゲノ=カズラ=科｜

（5）分数の読み上げ
【例】　｜三分=の=二に｜するくらいは｜できる｜
｜格の｜一致度は｜ルート五分=の=四と｜いたしました｜

公式の読み上げの類のうち「一分の～」という形のものも同様にあつかう。
【例】　｜(F えっと)｜後続単語種類数分=の=先行単語頻度(D んな)の｜関数｜

（6）分割すると意味が不自然になるもの
【例】　｜しかたが=ない｜　｜しようが=ない｜

補則２　「対」の扱い

「対」を含む形式は，「対」が結び付けている形式によって，次のように文節を認定する。

（1）「対」が結び付けられている形式が共に１文節，若しくは一方が１文節である場合は，「対」の前後で切らない。
【例】　｜阪神=対=巨人の｜試合を｜見る｜
｜地域用水環境整備事業の｜採択に当たり｜費用=対=効果分析を｜試行的に｜実施した。｜
｜星野監督｜率いる｜阪神=対=巨人｜

（2）「対」が結び付けている形式の一方が２文節以上である場合，「対」の前後で切る。
【例】　｜星野監督｜率いる｜阪神‖対‖昨年の｜覇者巨人｜

（◆ver.1.0追加）

補則３　注釈的な語句・文を含む括弧の扱い

括弧内に注釈的な語句・文がある場合，括弧をいったん読み飛ばして文節を認定した上で，読み飛ばした語句・文についても別途文節を認定する。

【例】　｜大学院レベルの｜若手研究者の｜短期受入れ（文部科学省若手外国人研究者短期研究プログラム）等を｜実施し、｜

⟶　以下の二つの文節を認定することになる。

｜短期受入れ=等を｜

｜（文部科学省若手外国人研究者短期研究プログラム）｜

参考　文節の例

｜平成４年度に｜創設された｜定期借地権制度は、｜借地契約の｜更新が｜なく、｜定められた｜契約期間で｜確定的に｜契約が｜終了する｜借地権制度である。｜貸し主（土地所有者）にとっては｜予定時期に｜土地の｜返還を｜受ける｜ことが｜保証されると｜ともに、｜一定期間の｜地代収入が｜安定的に｜得られ、｜また、｜借り主にとっては｜土地を｜取得するよりも｜少ない｜負担で｜土地を｜利用できる｜ことから、｜双方にとって｜メリットが｜あり、｜借地の｜供給拡大に｜よる｜土地の｜有効利用を｜促進する｜ものとして｜期待されている。｜定期借地権には、｜一般定期借地権、｜建物譲渡特約付借地権、｜事業用借地権の｜３類型が｜ある｜（図表１－５－４）。｜

｜定期借地権制度創設時に、｜事業用借地権の｜対象として｜主に｜想定していたのは、｜量販店、｜飲食店等、｜経済的な｜耐用年数が｜比較的｜短い｜ものであり、｜事業用借地権の｜存続期間も｜１０年以上｜２０年以下と｜されている。｜しかし、｜近年、｜物流拠点や｜アウトレットモール等、｜従来｜想定されていなかった｜用途での｜活用も｜行われる｜ように｜なっている｜（図表１－５－８）。｜立地についても、｜従来｜想定されていた｜ロードサイド等での｜活用に｜限らず、｜多様化しており、｜都心から｜数十ｋｍ以上｜離れた｜場所に｜立地する｜大規模アウトレットモールや｜臨海部に｜相次いで｜立地している｜大型の｜商業施設の｜ような｜ものも｜ある。｜この｜ような｜商業施設では、｜土地取得費を｜削減する｜ため、｜借地に｜よる｜立地を｜進める｜場合も｜多く、｜特に｜大規模アウトレットモールにおいては、｜事業用借地権を｜用いている｜事例が｜目立っている｜（図表１－５－９）。｜

第２　複合辞・連語

BCCWJでは，CSJと同様に複合辞・連語を１長単位と認めた。複合辞・連語は，現代語の研究や日本語教育でよく取り上げられるものである。国立国語研究所（2001）では複合辞として助詞相当句83語，助動詞相当句42語を挙げている。またグループ・ジャマシイ（1998）では大見出しとして1,087語を挙げており，そのうち，空見出し・活用語尾（例：かろう）・活用形（例：よかろう）・呼応の副詞（例：ぜんぜん…ない）・定型的な表現（例：をして…させる）・短単位に合致するもの（例：ばあい）等を除くと，複合辞・連語が約600語ある。この中に類似形態・異形態が多く含まれる（例：なきゃ・なくては・なくちゃ・なくてはいけない）としても，複合辞・連語が多く認定されていると言える。

BCCWJでは，複合辞・連語の選定に当たって，ゆれがなく認定できるものを選ぶ，長単位は短単位を基に自動解析するため，この自動解析で高い精度が維持できるものを選ぶという方針を立て，複合辞・連語とするものを先行研究よりも限定した。

具体的な手順としては，まずグループ・ジャマシイ（1998）の大見出しについて，短単位に合致する見出し語や文節を超える見出し語を削除し，類似形態・異形態を整理した上で，国語辞典等での採録状況を確認し，採録されていない語を削除した。このように絞り込んだ見出し語について，生産実態サブコーパスの入力済み書籍データ[6]（約500万語）を対象に用法の調査を行い，形式の面から複合辞・連語としてゆれなく判定できるものを選んだ。これにCSJで認定されていた複合辞・連語を加えた上で，書籍データで頻度200以上の語を抽出し，BCCWJにおける複合辞とした。

ここで，頻度200としたのは，技術的な理由による。複合辞を高精度で自動解析するためには，学習用データとなる人手修正済みデータ100万語の中に最低50例（使用率0.005%）出現することが必要である。書籍データ500万語で使用率0.005%に当たる250例よりも若干低く基準を設定し，200例とした。

複合辞に関するCSJからの変更点として，異形態の扱いが挙げられる。CSJでは体系性を考慮して複合辞の異形態を認定した。例えば，助詞相当句「に関して」の場合，異形態の連用形「に関し」，異形態の丁寧形「に関しまして」，連体修飾型の普通形「に関する」「に関した」，連体修飾型の丁寧形「に関します」「に関しました」をリストに加えていた。また，助詞相当句「として」では，異形態の丁寧形「としまして」のほかに「といたしまして」，連体修飾型の丁寧形「といたします」「といたしました」もリストに加えていた。これに対して，BCCWJでは，対応する異形態であっても頻度200未満であれば選定しないという方針を取った。例えば「に関して」については，頻度が高い「に関して」「に関する」をそれぞれ代表形として選定したが，「に関して」の連用形「に関し」や「に関する」の丁寧形「に関します」，過去形の「に関した」は頻度が低かったため選定しなかった。その一方，丁寧形であっても頻度が高い「かもしれません」「ではありません」については，それぞれ代表形として選定した。なお，融合形の扱いについては，CSJから変更はない。頻度と関係なく，融合形全体で１長単位とする。「において」など代表形が「は」を伴わない形で示されているものの末尾の助詞「て」と助詞「は」とが融合したもの，「においちゃ」のような形式が，これに当たる。

その結果，CSJでは助詞相当句79語，助動詞相当句57語，その他連語90語を１長単位とする複合辞・連語として認めていたが，BCCWJで選定した複合辞・連語は，現時点で助詞相当句24語，助動詞相当句39語，その他連語12語である。

6　現時点では，学習に用いる予定の人手修正データが未整備であるため，入力済みデータ量が多く，幅広い分野をカバーすると考えられる生産実態サブコーパスの調査を基に，複合辞・連語を選定した。生産実態サブコーパスについては，山崎誠（2007）を参照。

表２．１　複合辞・助詞相当句

代表形	代表表記	品詞	接続	意味・用法
トイウ	という	助詞-格助詞	１．文あるいは文相当の語句に付く。 ２．単語（主に名詞句）に付く。	「ＡというＮ」と連体修飾に用いられ，Ｎの具体的な内実・内容を示す同格的な関係を形成するのが基本である。用法を細分すると，名づけ・言い換え・婉曲・伝聞・引用・未知（よく知らない事物を取り上げる）・感嘆（事物がプラスの意味でもマイナスの意味でも並はずれた状態であることを強調する）などに分かれる。数詞について意味を強め明確化する用法もある。また，「ＮというＮ」と同一の名詞を繰り返す形で「全部のＮ」を表す。
トイッタ	といった	助詞-格助詞	１．文あるいは文相当の語句に付く。 ２．単語（主に名詞句）に付く。	「ＡといったＮ」と連体修飾に用いられ，Ｎの具体的な内実を唯一それだけとするのではなくて，幅を持たせて示す関係を形成する。ＡはＮの例として複数挙げられることもある。
トシテ	として	助詞-格助詞	名詞（名詞節を含む）に付く。	問題にする人・物事などの位置づけを示す。どのような位置づけかで，資格・立場・部類・行為の意義づけ（名目）などを表すものに下位区分される。
ニオイテ	において	助詞-格助詞	名詞（名詞節を含む）に付く。	「ＡにおいてＢ」という形で，動作・作用の行われる場所，あるいは状態が存在する場面もしくは，時を示す。また，意味が一段抽象化すると，「～という点で」といったような意味で，事柄が云々される次元・範囲などを規程しても用いられる。
ニオケル	における	助詞-格助詞	名詞（名詞節を含む）に付く。	「ＡにおけるＮ」と連体修飾に用いられ，ある出来事が起こったり，状態が存在したりするときの背景となる場所・時間・状況などを表す。
ニカンシテ	に関して	助詞-格助詞	名詞（名詞節を含む）に付く。	言語・思考行動の対象・内容や，検討・評価がなされる観点・基準を示す。
ニカンスル	に関する	助詞-格助詞	名詞（名詞節を含む）に付く。	「Ａに関するＮ」と連体修飾に用いられ，言語・思考行動の対象・内容や，検討・評価がなされる基準を示す。
ニタイシ	に対し	助詞-格助詞	名詞（名詞節を含む）に付く。	（１）述語句の動作・行為の向けられる対象を取り上げて示す。 （２）ある事物が割り当てられたり，代価・お返し等として与えられることになる対象を取り上げて示す。 （３）ある事物と対照される事物を取り上げて示す。
ニタイシテ	に対して	助詞-格助詞	名詞（名詞節を含む）に付く。	（１）述語句の動作・行為の向けられる対象を取り上げて示す。 （２）ある事物が割り当てられたり，代価・お返し等として与えられることになる対象を取り上げて示す。 （３）ある事物と対照される事物を取り上げて示す。
ニツイテ	について	助詞-格助詞	名詞（名詞節を含む）に付く。	言語・思考行動の対象・内容や，検討・判定・評価がなされる観点・指標を示す。
ニトッテ	にとって	助詞-格助詞	名詞（名詞節を含む）に付く。	「ＡにとってＢ」の形で文の内容・評価を規定する形で用いられ，「ＡにとってＢ」が係っていく文の内容・評価として述べられる個別的な判断・とらえ方をする主体を表す。
ニヨッテ	によって	助詞-格助詞	名詞（名詞節を含む）に付く。	（１）物事を引き起こしたり行ったりする契機・拠り所・手段・所以となる事物や人を表す。 （２）物事のありようを区別する基準・尺度となるものを示す。
ニヨリ	により	助詞-格助詞	名詞（名詞節を含む）に付く。	（１）物事を引き起こしたり行ったりする契機・拠り所・手段・所以となる事物や人を表す。 （２）物事のありようを区別する基準・尺度となるものを示す。
ニヨルト	によると	助詞-格助詞	名詞（名詞節を含む）に付く。	「Ａによると」の形で，情報を提示する言い方で用いられ，その情報や判断の出所を表す。後ろには伝聞や推測・断定などの判断を表す表現が続きやすい。
ニヨレバ	によれば	助詞-格助詞	名詞（名詞節を含む）に付く。	「Ａによれば」の形で，情報を提示する言い方で用いられ，その情報や判断の出所を表す。後ろには伝聞や推測・断定などの判断を表す表現が続きやすい。
ヲハジメ	をはじめ	助詞-格助詞	名詞（名詞節を含む）に付く。	（１）「ＡをはじめＢ，Ｃ（…）」といった形で，Ａを代表例とする並列接続の名詞句を形成する。 （２）「ＡガＸスルノをはじめＢガ（Ｘシ，Ｃガ）Ｘスル」といった形で，「ＡガＸスル」ことを記述の最初として類似的な事態を列記する複文を形成する。
ヲモッテ	をもって	助詞-格助詞	名詞（名詞節を含む）に付く。	「ＡをもってＢ」の形で， （１）Ｂのことをするために用いる手段・方法・概念を示す。 （２）Ｂのことがなされる基準となる時点・段階を示す。
トシタラ	としたら	助詞-接続助詞	文あるいは文相当の語句に付く。	「ＡとしたらＢ」の形で，前件Ａの内容をいったんそう考えられると設定し，それに基づくと，後件Ｂのような帰結になるという論理関係を述べる。

トハイエ	とはいえ	助詞-接続助詞	文あるいは文相当の語句に付く。	「AとはいえB」の形で，前件Aの事実があることによっても，後件Bの事実は，無効にならずちゃんと存在する，という関係付けで前件と後件とを結ぶ。
ニシテモ	にしても	助詞-接続助詞	1．用言のスル形・シタ形（シテイル形・シテイタ形を含む）に付く。 2．単語（主に名詞句）に付く。	（1）「AにしてもB」と複文を形成して用いられ，前件Aの事柄があることは承認されるとしても，後件Bの事柄はそれによって無効になることなくあるという関係を示す。 （2）「AにしてもBにしても」の形で，同じジャンルの二つのもの，対立する二つの物事を取り上げて，その両方を指す。
ニモカカワラズ	にも関わらず	助詞-接続助詞	用言のスル形・シタ形（シテイル形・シテイタ形を含む）に付く。	「Aにもかかわらず B」と複文を形成して用いられ，前件Aのことがあるのに，これが期待される事柄を引き出す契機とならず，後件Bのような期待に反した事柄が成り立っているという関係を述べる。

※　「において」など代表形が「は」を伴わない形で示されているものの末尾の助詞「て」と助詞「は」とが融合した場合は，長単位においても融合形全体で1長単位となる。

長単位　：　｜文部科学省｜<u>においちゃ</u>｜

表２．２　複合辞・助動詞相当句

代表形	代表表記	品詞	接続	意味・用法
カモシレナイ	かもしれない	助動詞	前接語が，動詞・形容詞の場合，スル形・シタ形（動詞については，シテイル形・シテイタ形を含む）に付く。形容動詞・名詞の場合，「～デアル／デアッタかもしれない」となるか，語幹もしくは名詞に直接付く。また，「～のかもしれない」といった形でも用いられる（この場合，形容動詞・名詞については，「～デアル／デアッタ／ナ」の形で承ける）。	「Aかもしれない」の形で， （1）Aであると考えられるが，それが絶対確実とも言えないとする推量を述べる。 （2）相手の言った内容や一般的な見解を，正しい可能性があると一応は認めた上で，それとは異なる意見を述べる。 （3）すでに起きてしまったことについて，条件が違えば違う結果になった可能性があるという意味を示す。
カモシレマセン	かもしれません	助動詞	前接語が，動詞・形容詞の場合，スル形・シタ形（動詞については，シテイル形・シテイタ形を含む）に付く。形容動詞・名詞の場合，「～デアル／デアッタかもしれない」となるか，語幹もしくは名詞に直接付く。また，「～のかもしれない」といった形でも用いられる（この場合，形容動詞・名詞については，「～デアル／デアッタ／ナ」の形で承ける）。	「かもしれない」の丁寧な言い方。
コトガデキル	ことができる	助動詞	動作的な意味の動詞のスル形（シテイル形を含む）を請ける。「研究する」「連絡する」など”漢語＋する”型の動詞の場合は，語幹の漢語の部分を受けて，「研究ができる」「連絡ができる」などの言い方も可能である。	「Aスルことができる」の形で，Aということを実現する能力や可能性があることを表す。
コトニスル	ことにする	助動詞	名詞＋「である／であった」に付き，また，用言のスル形・シタ形（シテイル形・シテイタ系を含む）に付く。	「Aことにする」の形で，（1）あることを行うことに決める，（2）事実はAということだとの立場をとる・想定にする，という意味を表す。
コトニナル	ことになる	助動詞	用言のスル形・シタ形（シテイル形・シテイタ系を含む）に付く。形容動詞・名詞については，「～デアル／デアッタ／ナ」の形で承ける。	「Aことになる」の形で，（1）Aという事実が実現する成り行きになる，（2）Aという事実認識や了解・解釈が成り立つ，といった意味を表す。
コトハナイ	ことはない	助動詞	活用語のスル形・シタ形や名詞＋「の」等に付く。	「Aことはない」の形で，（1）ある行為についてその必要がない，ありがたくない，（2）ある行為についてその機会・経験がないという意味を表す。
タライイ	たらいい	助動詞	用言及び用言＋否定の助動詞”ない”の連用形（動詞については，「シテイル」の連用形「シテイ」を含む）に付く。	「Aしたらいい」の形で，当該の状況・場面で「A」という事柄の実現が望ましい・然るべきことであるという話し手のとらえ方を述べる。そこから，行為者自身が実現可能なことについては当為の意味，行為者自身では実現不可能なことについては願望の意味になる。また，当面している問題に関して相手に持ちかけることで，当為の意味から提案の用法も出てくる。事実と反対のことをこの言い方でいうことで，後悔・非難というようなニュアンスが出てくる。
ツツアル	つつある	助動詞	動詞の連用形に付く。	「Aつつある」の形で，Aの動詞（述語句）の表す行為が成立・完成する完了点に向けて，行為・動作・変化が継続進行していくことを示す。
ツモリダ	つもりだ	助動詞	動詞のスル形・シタ形（シテイル形・シテイタ形を含む）に付く。	「Aつもりだ（／で／の）」といった言い方で，（1）主体がAのような意向をもっている意，（2）主体がAのような現実と違う仮定や判断・自意識をもっている意，（3）話し手がAのような意味づけをしている意味を表す。
テアル	てある	助動詞	動詞の連用形に付く。	「Aてある」の形で，Aの動作・作用の結果が現存していること，継続して保たれていることを表す。また，後のことを考えてあらかじめ準備のためにある動作をした結果の状態が保たれていることを示す。

デアル	である	助動詞	体言及び用言連体形＋「の」等に付く。	「Ａである」の形で，断定や原因・理由・根拠の説明を強く述べる。
テイク	ていく	助動詞	動詞の連用形に付く。	「Ａていく」の形で，空間的・時間的・観念的に，事物・事柄が話し手から離反することを示す。具体的には，空間的な移動，ある時点からの時間的な継続，ある現象の消滅，ある状態から別の状態への変化の進行などを表す。
テイル	ている	助動詞	動詞の連用形に付く。	「Ａている」の形で， （１）動作・作用がある時間継続している状態，進行中であることを表す。 （２）生起した作用や行為の完了した状態が後まで残っている様子を表す。 （３）現在の継続的な状態を表す。 （４）繰り返しの動作・作用やそれが定着した習慣を表す。 （５）すでに完了している動作・作用について，経験や記録を表す。
テオク	ておく	助動詞	動詞の連用形に付く。	「Ａておく」の形で，ある目的からあらかじめ動作・作用を行うことを表す。具体的には，動作・作用を行って対象に変化を与え，その結果の状態を持続させる働きかけや，後のことを考えてあらかじめ準備のためにある動作をすることを表す。また，当座の便宜をはかるため，一時的処置を施す言い方として用いられる。
テオル	ておる	助動詞	動詞の連用形に付く。	「ている」のやや古風で尊大な表現。丁寧な言い方や尊敬の言い方としても用いられる。
テクル	てくる	助動詞	動詞の連用形に付く。	「Ａてくる」の形で，空間的・時間的・観念的に，事物・事柄が話し手に接近することを述べる。具体的には，空間的な移動，ある時点までの時間的な継続，ある現象の出現・生起，ある状態から別の状態への変化の開始などを表す。
テクレル	てくれる	助動詞	動詞の連用形に付く。	他者Ａから話し手Ｂへと行為が授受されることを述べる。ＡがＢに利益・恩恵を与えることを示しながらＢからＡに感謝する気持ちを表明する。また，ＡがＢに何らかの不利益や迷惑を与えることを表す。
テシマウ	てしまう	助動詞	動詞の連用形に付く。	「Ａてしまう」の形で， （１）動作・作用の終了や完了を表す。 （２）無意志的動作の完了を強調する。また，不都合を強いられることを表す。
デナイ	でない	助動詞	体言に付く。	「である」の否定的な言い方。
デハアリマセン	ではありません	助動詞	体言に付く。	「ではない」の丁寧な言い方。
テハイケナイ	てはいけない	助動詞	動詞・形容詞（及び”動詞／形容詞”＋”助動詞／補助形容詞のナイ”）の連用形（動詞については「シテイル」の連用形「シテイ」等を含む）に付く。	「Ａシてはいけない」の形で，当該の状況・場面で「Ａ」という事柄の実現が然るべきことではない・望ましくないという話し手のとらえ方を述べる。そこから，行為者自身が実行可能なことについては為すべきではないという意味，行為者が自力では自由にできないことについては危惧の意味になる。また，当面している問題に関して相手に持ちかけることで，為すべきではない意味から禁止の用法も出てくる。
デハナイ	ではない	助動詞	体言及び用言連体形＋「の」等に付く。	「Ａではない」の形で否定の判断を表す。
テハナラナイ	てはならない	助動詞	動詞・形容詞（及び”動詞／形容詞”＋”助動詞／補助形容詞のナイ”）の連用形（動詞については「シテイル」の連用形「シテイ」などを含む）に付く。	「Ａシてはならない」の形で，「Ａ」という動作・行為について，一般論として許されない・望ましくないというとらえ方から，禁止の意味をもつ。また，当為の否定を表す。
テホシイ	てほしい	助動詞	動詞の連用形に付く。	「Ａてほしい」の形で，心中に抱いている願望・依頼を表す。
テミル	てみる	助動詞	動詞の連用形に付く。	「Ａてみる」の形で，物事を知るために実際に行為をすることを示す。
テモイイ	てもいい	助動詞	前接語が，動詞・形容詞の場合，「動詞・形容詞の連用形（「シテイル」の連用形「シテイ」なども含む）＋テモイイ」の形をとる。	「Ａシてもいい」の形で，基本的には，あり得ると容認できる事柄としてＡもあるということを述べる。そこから，相手の側の行為・物事のあり様について許可・許容の言い方として用いられたり，相手からの勧誘・依頼に応じる意志があることを表す言い方として用いられたり，自分の側の行為について申し出の言い方として用いられたりする。また，論理・道理の上での可能性を述べる言い方にもなる。
テモラウ	てもらう	助動詞	動詞の連用形に付く。	文の主格に立つ話し手または話し手側のＢが他者Ａから行為を受け取ることを述べる。ＢがＡから何らかの利益・恩恵を与えられるよう働きかけることや，ＢがＡに許可・容認を求めることを表す。また，ＢがＡから何らかの不利益や迷惑を与えられることを表す。

テヤル	てやる	助動詞	動詞の連用形に付く。	話し手または他者Ａから他者Ｂへと行為が授受されることを表す。また，自分の行為を誇示したり自虐的に見せるときに用いられる。
ナクテハナラナイ	なくてはならない	助動詞	動詞の未然形（「シテイル」の未然形「シテイ」も含む。なお，サ変動詞は「～シ」の形）及び形容詞・形容動詞・「名詞＋断定の助動詞」の連用形に付く。	「Ａシなくてはならない」の形で，状況や決まり・道理といった外的な制約・要請からＡという行為・事態の実現が必要だという一般的な判断を述べる言い方である。
ナケレバナラナイ	なければならない	助動詞	動詞の未然形（「シテイル」の未然形「シテイ」も含む。なお，サ変動詞は「～シ」の形）及び形容詞・形容動詞・「名詞＋断定の助動詞」の連用形に付く。	「Ａシなければならない」の形で，状況や決まり・道理といった外的な制約・要請からＡという行為・事態の実現が必要だという一般的な判断を述べる言い方である。
ネバナラナイ	ねばならない	助動詞	動詞の未然形（「シテイル」の未然形「シテイ」も含む。なお，サ変動詞は「～シ」の形）及び形容詞・形容動詞・「名詞＋断定の助動詞」の連用形に付く。	「Ａセねばならない」の形で，状況や決まり・道理といった外的な制約・要請からＡという行為・事態の実現が必要だという一般的な判断を述べる言い方である。「なければならない」より書き言葉的な言い方になる。
ノダ	のだ	助動詞	用言の連体形に付く。	事実を単に客観的に描写するのではなく，疑いのない事実として確認したものを提示する。原因・理由の説明，結果の説明，納得，事実の強調，判断の主張など，様々な意味で用いられる。
ノデアル	のである	助動詞	用言の連体形に付く。	事実を単に客観的に描写するのではなく，疑いのない事実として確認したものを提示する。原因・理由の説明，結果の説明，納得，事実の強調，判断の主張など，様々な意味で用いられる。
ノデス	のです	助動詞	用言の連体形に付く。	「のだ」の丁寧な言い方。
ノデハナイ	のではない	助動詞	用言の連体形に付く。	「のだ」の否定的な言い方。
バイイ	ばいい	助動詞	用言及び用言＋否定の助動詞”ない”の仮定形（動詞については，「シテイル」の仮定形「シテイレ」を含む）に付く。	「Ａばいい」の形で， （１）何らかの状況になることが適当である，望ましいとすることを表す。また，その適当・望ましいと判断した状況が実現するように，相手に対して直接何かすることを提案したり勧めたり，望む状況の実現に対する強い願望を表すのに用いられる。 （２）相手に対する提案の形をとりながらも，放任や非難・軽蔑などの気持ちを強くこめるのに用いられる。
ワケダ	わけだ	助動詞	用言のスル・シタ形（シテイル形・シテイタ形を含む）に付く。	「Ａわけだ」の形で，何らかの事実や判断・思考を踏まえて，その結果・帰結としてＡという事実や判断・思考があるということを断定的に述べる。また，前の発話や文脈の言い換えや，理由・原因を説明する言い方である。
ワケデハナイ	わけではない	助動詞	用言のスル・シタ形（シテイル形・シテイタ形を含む）に付く。	「Ａわけではない」の形で，現在の状況や直前の発言から当然導き出される事柄を否定する。また，極端な例を挙げて否定し，現実がそれよりも程度の軽い，対応しやすい状況であることを示唆する。
ワケニハイカナイ	わけにはいかない	助動詞	動詞のスル形（シテイル形を含む）に付く。	「Ａわけにはいかない」の形で，状況からして当然すべきと思われるＡということが，社会的・道徳的・心理的理由によりできないことをいう。

表２．３　連　語

代表形	代表表記	品詞
ソウシテ	そうして	接続詞
ソレカラ	それから	接続詞
アクマデ	あくまで	副詞
イカニモ	如何にも	副詞
イツカ	何時か	副詞
イマヤ	今や	副詞
ジツハ	実は	副詞
ナニヨリ	何より	副詞
ナンダカ	何だか	副詞
ナンデモ	何でも	副詞
ナントカ	何とか	副詞
ベツニ	別に	副詞

Ⅱ　長単位認定規程　Version 1.0

第１　長単位認定規程

長単位は，文節（文節認定規程 Version 1.0によって規定されるもの）を，以下に述べる規定に基づいて分割する，あるいは分割しないことによって得られる各形式である。

１　区切り符号（中点を除く。）は１長単位とする。

【例】　｜機動的｜に｜商業施設｜として｜活用する｜例｜など｜も｜ある‖。‖
｜米｜は｜湾岸戦争後‖、‖英‖、‖仏など｜と｜とも｜に｜
｜実包｜八百五十六個等｜を｜発見‖、‖押収する｜と｜とも｜に‖、‖

１．１　次に挙げる区切り符号は１長単位としない。（その前後で切らない。）

（◆ver.1.0修正）

（１）区切り符号のうち中点

【例】　‖官=・=財‖の｜腐れ縁｜を｜断ち切りたい｜と｜いう｜が｜、｜
｜先端技術産業｜について｜は｜，｜ハイテクW=．=G=．｜（｜ハイテク=・=ワーク=・=グループ｜）｜の｜もと｜に｜，｜
｜こ=・=だ=・=わ=・=る=・｜貴方｜に｜こそ｜使っ｜てほしい｜。｜

※　文節認定規程によって文節境界となる部分に中点が使われている場合は，中点を１長単位としてその前後で切り離す。

【例】　｜鉄骨作り｜二階建て‖・‖延べ床面積｜千八百平方メートル｜の｜商業施設｜

（２）数字連続の中に現れるもの

【例】　｜大学院｜に｜は｜約２万５=，=０００人｜が｜在籍し｜ている｜
｜年｜に｜１=、=２日間｜の｜活動｜を｜義務付け｜たり、｜
｜大都市｜（｜政令指定都市｜）｜は｜１７=．=３％｜である｜が、｜１０万人以下｜の｜市｜や｜郡部｜（｜町村｜）｜も｜２０=．=７％｜と｜なっ｜ている。｜
｜この｜推計｜は｜九四年｜一=—=十月｜に｜、｜市町村｜に｜届け｜られ｜た｜

（３）それがないときに全体が１長単位となるものの中に現れるもの

【例】　｜小=、=中学生｜で｜は｜内容的｜に｜早すぎる｜もの｜が｜ある｜から｜だ｜。｜
｜銀行取引停止｜避け｜自ら｜転=、=休=、=廃業選択｜
｜文化庁文化交流使事業｜は｜，｜芸術家=，=文化人等｜，｜文化｜に｜携わる｜
｜こう｜し｜た｜動き｜を｜，｜名目=，=実質ＧＮＰ｜の｜構成要素｜として｜の｜
｜花粉｜の｜少ない｜スギ品種｜の｜普及｜と｜採穂=（=種=）=園｜の｜造成｜及び｜早期供給体制｜の｜充実｜

１．２　語と同じ働きをする記号・記号連続及びそれらを含む結合体は，全体で１長単位とする。

【例】　｜A‖が‖B‖に｜特定｜の｜法律行為｜を｜指図し｜た｜場合｜

｜南青山｜に｜ある｜敷地面積｜２，０００=㎡｜の｜土地｜は｜、｜
｜ＰＫＯ=地域訓練ワークショップ｜の｜開催｜や｜
｜Ｅ=－=ジャパン重点計画｜
｜供給実績資料‖：‖定期借地権普及促進協議会調べ｜
｜与野党逆転‖→‖海部政権誕生｜と｜の｜願望｜

２　付属語（助詞相当句・助動詞相当句を含む。）は１長単位とする。

【例】　｜公害紛争処理法‖における‖公害紛争処理‖の‖手続‖は‖，｜原則‖として‖紛争当事者‖から‖の‖申請‖によって‖開始さ‖れる‖。｜
｜その｜目的‖が‖個人‖に‖絞ら‖れ‖過ぎ‖ている‖傾向‖が‖ある｜

２．１　助詞相当句・助動詞相当句の中に助詞が挿入されている場合，挿入されている助詞を１長単位とする。（助詞相当句・助動詞相当句と見なさない。）

【例】　｜お友達｜に｜は｜からかわ｜れ｜て‖ばかり‖いる｜三枚目｜で‖も‖あり｜まし｜た｜。｜

２．２　一般に助動詞とされる「そうだ」「みたいだ」「ようだ」（その丁寧形も含む。）の活用語尾は単独で一つの助動詞とする。また語幹部分は単独で１長単位とする。

【例】　｜大学｜の｜キャンパス｜に｜間違え｜られ‖そう‖な‖雰囲気｜
｜ハリスさん｜は｜、｜今日｜は｜忙しく｜ない‖みたい‖だ‖な｜。｜
｜誰｜か｜の｜帰り｜を｜待っ｜ている‖よう‖でし‖た｜。｜

２．３　次に挙げる助詞・助動詞は１長単位としない。

（１）それを１長単位とすると，単独の接尾辞が切り出されることになる場合の助詞・助動詞

【例】　｜地域住民｜に｜よる｜ネットワーク｜が｜形成さ=れ=にくい｜状況が｜生じ｜ており｜，｜

（２）資料「要注意語」の「一が～」「一の～」「全体で１最小単位とするもの」及び表２．３に挙げられている語の中に現れる助詞・助動詞

【例】　｜万=が=一｜事故｜が｜発生し｜た｜場合｜において｜も｜乗員｜，｜歩行者等｜の｜保護｜を｜行う｜ため｜の｜
｜輪郭線｜の｜上｜まで｜絵=の=具｜を｜置い｜ていき｜ます｜。｜
｜企業｜にとって｜は｜単=なる｜コスト｜の｜増加｜と｜も｜捉え｜られ｜ます｜が｜、｜

※　資料「要注意語」の「一が～」「一の～」「全体で１最小単位とするもの」及び表２．３に挙げられている語の扱いについては補則１を参照。

（３）分数の読み上げの中に現れる助詞「の」

【例】　｜今度｜の｜試験｜は｜志願者｜が｜平年｜の｜五分=の=一｜と｜極端｜に｜少なく｜、｜

公式の読み上げに現れる「一分の～」も同様に扱う。

【例】　｜後続単語種類数分=の=先行単語頻度｜（D んな）｜の｜関数｜に｜

（4）固有名・動植物名の中に現れる助詞・助動詞

【例】　｜この｜よう｜に｜ヒ=ノ=キ｜の｜生産量｜が｜スギ｜の｜それ｜より｜多く｜なっ｜た｜の｜は｜
｜東京・霞=が=関｜の｜同省周辺｜に｜集まり｜、｜方針撤回｜を｜求め｜た｜。｜

※ 固有名・動植物名の扱いについては補則２・補則４を参照。

3　付属語を伴わない文節，及び規定２によって付属語を切り出した後に残った形式（ほぼ文節の自立語部分に相当する形式）に以下の規定を適用する。それによって得られた各形式を１長単位とする。

3．1　擬音語・擬態語の類は一続きにする。

【例】　｜わいわい=がやがや｜

3．2　同じ要素及び類似の要素の繰り返しは切り離す。

【例】　｜はい‖はい｜え｜はい‖はい｜(F あ)｜分かり｜まし｜た｜

ただし，次に挙げるものは切り離さない。

あとあと　ごくごく　さてさて　ただただ　どうこう　なおなお
まずまず　またまた　まだまだ　よくよく

【例】　｜ごく=ごく｜簡単｜に｜申し｜ます｜と｜
｜まず=まず｜の｜着順｜を｜受け｜て｜、｜

3．3　体言に形式的な意味の「する」「できる」「なさる」「いたす」が直接続く場合，体言と「する」「できる」「なさる」「いたす」とを切り離さない。

【例】　｜まるで｜１つ｜の｜光点｜が｜往復運動=し｜ている｜よう｜に｜
｜私｜は｜この｜予選｜を｜１位｜で｜通過=できる｜と｜
｜久保田藩内｜を｜巡回=なさっ｜ている｜わけ｜です｜な｜

国語辞典でサ変動詞語幹としての用法が示されていないものについても，形式的な意味の「する」「できる」「なさる」「いたす」が直接続く場合は，「する」「できる」「なさる」「いたす」を切り離さない。

【例】　｜青空｜に｜桜｜の｜花｜が｜満開=し｜てる｜様子｜は｜
｜ぷらぷら｜と｜(F あのー)｜ウインドーショッピング=する｜

3．4　「お（ご）＋動詞連用形（名詞）＋する・くださる・いただく・なさる・いたす・ねがう・もうしあげる・あそばす」については，全体を一続きのものとする。

【例】　｜ご理解｜と｜ご協力｜の｜ほど｜よろしく｜お=願い=申し上げ｜ます｜
｜いかが｜お過ごし｜でし｜た｜か｜、｜お=聞かせ=ください｜。｜
｜民事訴訟｜の｜ご専門｜として｜の｜ご意見｜を｜お=聞かせ=願い｜たい｜と｜思い｜ます｜。｜

3．5　体言＋用言という形式のうち，『岩波国語辞典』第６版，『日本国語大辞典』第２版のいずれか一方で見出し語になっているものは，体言と用言とを切り離さない。

【例】　｜しかた=なく｜洗っ｜てもらっ｜たら｜、｜やっと｜もと｜の｜通り｜に｜なり｜まし｜た｜。｜

３．６　副詞に形式的な意味の「する」「できる」「なさる」「いたす」が直接続く場合，副詞と用言とを切り離さない。

【例】　｜「｜何｜が｜始まる｜の｜か｜な｜」｜と｜目｜を｜きらきら=さ｜せ｜た｜
｜需要｜に対して｜供給｜を｜きちんと=できる｜社会｜で｜、｜

３．７　並列された語は切り離す。

【例】　｜企業会計｜の｜標準的｜な｜ルール｜は｜，｜公正‖妥当｜な｜実務慣行｜を｜集約｜し｜た｜もの｜という｜意味｜で｜

３．７．１　並列された語のうち，次に挙げるものは切り離さない。

（１）並列された語を中点でつなげている場合

【例】　｜頭｜が｜ちっさく｜て｜長身｜で｜手=・=足｜が｜凄く｜長く｜
｜官=・=財｜の｜腐れ縁｜を｜断ち切り｜たい｜と｜いう｜が｜、｜

（２）漢語の最小単位の並列

【例】　｜その｜前=後｜の｜年齢階層｜に｜農業外｜から｜の｜流入｜に｜よる｜
｜国民健康保険｜の｜保険者｜は｜原則｜として｜市=町=村｜である｜

（３）和語の最小単位二つが並列した語のうち，『岩波国語辞典』第６版，『日本国語大辞典』第２版のいずれか一方で見出しになっている語

【例】　｜あち=こち｜連れ歩い｜て｜よく｜遊ん｜だ｜もの｜である｜。｜
｜他｜に｜何｜が｜ある｜だろ｜う｜という｜こと｜を｜あれ=これ｜と｜思い｜まし｜た｜
｜とても｜頭｜が｜ちっさく｜て｜長身｜で｜手=足｜が｜凄く｜長く｜

※　文節認定規程の規定１によって並列された語が切り離されている場合，その文節に基づいて認定される長単位においても，並列された語は切り離される。

【例】　｜国民健康保険｜の｜保険者｜は｜原則｜として｜市‖、‖町‖、‖村｜である｜

３．７．２　並列の関係にある体言連続のうち，並列された体言全体を受ける，若しくはそれら全体に係る体言的な形式や接辞がある場合は切らない。

【例】　｜英語=日本語-間｜の｜会話文｜の｜翻訳｜を｜行なう｜こと｜が｜でき｜ます｜
｜学習データー=入力データー-共｜マスク値｜で｜置き換え｜た｜
｜文化庁文化交流使事業｜は｜，｜芸術家=，=文化人等｜，｜文化｜に｜携わる｜

３．７．３　並列の関係にある体言連続のうち，並列された体言全体を受ける形式的な意味の「する」「できる」「なさる」「いたす」がある場合は切らない。

【例】　｜各語｜の｜状況｜っていう｜もの｜を｜観察=整理-し｜まし｜た｜
｜職業能力開発大学校｜に｜在学=・=在校-する｜場合｜で｜，｜

※　文節認定規程の規定１によって並列された語が切り離されている場合，その文節に基づいて認定される長単位においても，並列された語は切り離される。

【例】　｜下草｜や｜低木等｜の｜下層植生｜が｜減少‖、‖消失し｜、｜

３．８　同格の関係にある体言連続は切り離さない。

【例】　｜機関誌=計量国語学｜が｜発刊さ｜れ｜
｜機関誌=計量国語学-発行｜の｜年｜に｜
｜いわゆる｜移民｜という｜従来｜の｜パターン｜を｜超え｜た｜古里=・=香港｜の｜「｜移植｜」｜

※　文節認定規程の規定１によって同格の関係にある体言が切り離されている場合，その文節に基づいて認定される長単位においても，同格の関係にある体言は切り離される。

【例】　｜民間｜の｜信用調査機関‖、‖帝国データバンク｜大阪支社｜が｜十四日｜発表し｜た｜
｜悲願｜の｜名人位｜を｜つかん｜だ｜加藤｜に｜二十一歳｜の｜青年‖、‖谷川｜が｜挑み｜、｜
｜１カ月前｜から｜始まっ｜た｜Ｂ２９｜の｜首都‖、‖東京空襲｜。｜

３．９　数を表す要素を含む自立語は，以下の規定に基づき長単位を認定する。

３．９．１　数を表す要素は，単位の変わり目の後ろで切る。

【例】　｜平成｜１５年‖９月‖１５日‖午後｜７時‖３３分‖
｜１ｍ‖８０ｃｍ｜

３．９．２　数を表す要素の前で切る。

【例】　｜地域向け放送｜延べ‖２３時間｜３０分｜，｜一般向け放送‖１３時間｜３０分｜である｜。｜
｜残業時間｜が｜月‖８０時間以上｜の｜者｜は｜心筋梗塞発症｜の｜リスク｜が｜高まる｜と｜する｜研究｜が｜ある｜。｜
｜南青山｜に｜ある｜敷地面積‖２，０００㎡｜の｜土地｜は｜、｜
｜平成‖１５年｜９月｜１５日｜午後‖７時｜３３分｜

ただし次に挙げるものは，数を表す要素と前の要素とを切り離さない。

（１）数を表す要素と前の要素とを受ける体言がある場合

【例】　｜果汁=百パーセント-オレンジジュース｜　｜日独伊=三国軍事同盟｜
｜第=三十六回毎日芸術賞｜

（２）数を表す要素と前の要素との間に中点がある場合

【例】　｜今般｜の｜改正｜に｜より｜７業種=・=４２品目｜を｜新た｜に｜追加し｜、｜

（◆ver.1.0追加）

（３）接頭辞は切り離さない。

【例】　｜約=３時間｜

３．９．３　数を表す要素とそれに続く体言・接辞とは切り離さない。

【例】　｜残業時間｜が｜月｜８０時間=以上｜の｜者｜は｜心筋梗塞発症｜の｜リスク｜が｜高まる｜と｜する｜研究｜が｜ある｜。｜
｜９６年｜３月｜３１日=以前｜に｜設立さ｜れ｜た｜企業｜の｜場合｜

補則１　一覧の語の扱い

資料「要注意語」の「一が～」「一の～」「全体で１最小単位とするもの」及び表２．３に挙げられている語及びそれを含む結合体は，全体で１長単位とする。

【例】　｜身の代=金目的略取等｜，｜国外移送目的略取等｜，｜
　　｜同じ｜マンション｜で｜わがまま=親子｜が｜い｜ます｜。｜
　　｜家庭観｜も｜いつ=か｜変わっ｜てい｜た｜のだ｜

補則２　固有名（１）

固有名及びそれを含む体言句は，その内部が規定１・規定２で切ることになっていても切らない。（全体で１長単位とする。）

【例】

〔人名（芸名・しこ名・あだ名などをふくむ〕）
　｜源（みなもとの）=頼朝｜　　｜千代=の=富士｜

〔国名〕
　｜グレートブリテン=及び=北アイルランド連合王国｜

〔行政区画名〕
　｜(F あの)｜自由が=丘等｜の｜(F あの)｜町｜が｜ある｜
　｜この｜北区｜の｜西が=丘｜に｜こう｜やっ｜て｜研究所という｜もの｜を｜
　｜お茶の=水｜の｜私｜あんまり｜お店｜の｜名前｜とか｜

〔地域名〕

〔地形名〕
　｜場所｜は｜丹沢｜の｜塔の=岳｜が｜使わ｜れ｜ます｜

〔場所名〕
　｜更に｜丸の=内線｜も｜乗り入れ｜てい｜ます｜
　｜虎の=門交差点｜を｜先頭｜に｜二キロ｜の｜渋滞｜です｜

〔略称〕

〔建造物名〕
　｜浅草寺｜の｜境内｜に｜ある｜五重の=塔｜な｜んです｜けれど｜も｜

〔組織名（社名・会議・委員会など）およびそれに関連する肩書〕
　｜国立少年自然=の=家｜　　｜独立行政法人=国立国語研究所｜

〔歴史的できごとの名称※〕
　｜関ヶ原の=戦い｜　　｜蛤御門の=変｜　　｜明治十四年の=政変｜

※　戦争・革命・事件などで，日本史・世界史の教科書において，慣用的に一定の名で呼ばれるもののみとする。

〔祝日※〕
｜毎年｜五月五日｜子供の=日｜(D2 は)｜に｜なる｜と｜

※　「国民の祝日に関する法律」(1948年7月30日法律第178号) に定められたもの。次の例のように，同じ日を指していても，同法で定められた名称と異なれば，固有名としない。
｜憲法記念‖の‖日｜

補則３　固有名（２）

国名・行政区画名等の連続体や組織名及びそれに関連する肩書きの連続体については，次に示すように分割し，それぞれを１長単位とする。

〔国名〕
｜米国｜・｜シアトル｜
｜ロシア南部｜チェチェン共和国｜

〔行政区画名〕
｜大阪府｜豊中市｜待兼山町｜１番｜５号｜

〔組織名（社名・会議・委員会など）およびそれに関連する肩書〕
｜国立国語研究所‖研究開発部門‖言語資源グループ｜

※ 人名とその前にある肩書きとは切り離す。
｜阪神タイガース｜オーナー付シニアディレクター‖星野仙一｜

肩書きと人名との間に中点がある場合は切り離さない
｜二子山部屋｜３人目｜の｜大関=・=貴ノ浪｜
｜エリツィン=・=ロシア大統領｜　｜金=・=前商工資源相｜

補則４　植物名

動植物名及びそれを含む体言句は１長単位とする。
【例】　｜ツキノワグマ｜　｜ワレモコウ｜　｜ヒカゲノカズラ科｜

（◆ver.1.0修正）
補則５　注釈的な語句・文を含む括弧の扱い

文節認定規程の補則３によって，括弧内に注釈的な語句・文がある場合の括弧を読み飛ばしている場合，その文節に基づいて認定される長単位においても，括弧内をいったん読み飛ばして長単位を認定した上で，読み飛ばした括弧内の文節についても別途長単位を認定する。

【例】　｜大学院レベル｜の｜若手研究者｜の｜短期受入れ（文部科学省若手外国人研究者短期研究プログラム）等｜を｜実施し、｜
⟶　以下の二つの長単位を認定する。
｜短期受入れ=等｜
｜文部科学省若手外国人研究者短期研究プログラム｜

参考　長単位の例

｜平成４年度｜に｜創設さ｜れ｜た｜定期借地権制度｜は｜、｜借地契約｜の｜更新｜が｜なく｜、｜定め｜られ｜た｜契約期間｜で｜確定的｜に｜契約｜が｜終了する｜借地権制度｜である｜。｜貸し主｜（｜土地所有者｜）｜にとって｜は｜予定時期｜に｜土地｜の｜返還｜を｜受ける｜こと｜が｜保証さ｜れる｜と｜とも｜に｜、｜一定期間｜の｜地代収入｜が｜安定的｜に｜得ら｜れ｜、｜また｜、｜借り主｜にとって｜は｜土地｜を｜取得する｜より｜も｜少ない｜負担｜で｜土地｜を｜利用できる｜こと｜から｜、｜双方｜にとって｜メリット｜が｜あり｜、｜借地｜の｜供給拡大｜に｜よる｜土地｜の｜有効利用｜を｜促進する｜もの｜として｜期待さ｜れ｜ている｜。｜定期借地権｜に｜は｜、｜一般定期借地権｜、｜建物譲渡特約付借地権｜、｜事業用借地権｜の｜３類型｜が｜ある｜（｜図表｜１｜-｜５｜-｜４｜）｜。｜

｜定期借地権制度創設時｜に｜、｜事業用借地権｜の｜対象｜として｜主に｜想定し｜てい｜た｜の｜は｜、｜量販店｜、｜飲食店等｜、｜経済的｜な｜耐用年数｜が｜比較的｜短い｜もの｜であり｜、｜事業用借地権｜の｜存続期間｜も｜１０年以上｜２０年以下｜と｜さ｜れ｜ている｜。｜しかし｜、｜近年｜、｜物流拠点｜や｜アウトレットモール等｜、｜従来｜想定さ｜れ｜てい｜なかっ｜た｜用途｜で｜の｜活用｜も｜行わ｜れる｜よう｜に｜なっ｜ている｜（｜図表｜１｜-｜５｜-｜８｜）｜。｜立地｜について｜も｜、｜従来｜想定さ｜れ｜てい｜た｜ロードサイド等｜で｜の｜活用｜に｜限ら｜ず｜、｜多様化し｜ており｜、｜都心｜から｜数十ｋｍ以上｜離れ｜た｜場所｜に｜立地する｜大規模アウトレットモール｜や｜臨海部｜に｜相次い｜で｜立地し｜ている｜大型｜の｜商業施設｜の｜よう｜な｜もの｜も｜ある｜。｜この｜ような｜商業施設｜で｜は｜、｜土地取得費｜を｜削減する｜ため｜、｜借地｜に｜よる｜立地｜を｜進める｜場合｜も｜多く｜、｜特に｜大規模アウトレットモール｜において｜は｜、｜事業用借地権｜を｜用い｜ている｜事例｜が｜目立っ｜ている｜（｜図表｜１｜-｜５｜-｜９｜）｜。｜

第３章

短 単 位

小椋秀樹　小磯花絵　原裕

短単位は，言語の形態的側面に着目して規定した言語単位である。短単位の認定に当たっては，まず現代語において意味を持つ最小の単位（最小単位）を規定する。その上で，最小単位を長単位の範囲内で短単位認定規程に基づいて結合させる（又は結合させない）ことにより，短単位を認定する。そのため，短単位の認定規程は，最小単位と短単位の二つの認定規程から成る。

《 凡　例 》

1．以下の規程に示した例は，コーパスに現れた例又は作例である。
2．最小単位・短単位の境界を示すために次の記号を用いた。
　最小単位の境界　……　／　　例：／国／立／国／語／研／究／所／
　短単位の境界　……　｜　　例：｜国立｜国語｜研究｜所｜
　短単位の境界（当該規定で着目している箇所）
　　……　‖　　例：｜国立｜国語｜研究‖所｜
3．最小単位・短単位について分割しないことを特に示す必要があるときには，次の記号を用いた。
　最小単位・短単位のつなぎ目　……　－　　例：｜大-丈夫｜です｜
　最小単位・短単位のつなぎ目（当該規定で着目している箇所）
　　……　＝　　例：｜パソ=コン｜を｜使う｜
4．着目している最小単位・短単位が分かりにくい場合は，当該箇所に下線を付した。
5．ver.1.2からver.1.3への改定で修正した規則には「(◆ver.1.3修正)」，追加した規定には「(◆ver.1.3追加)」と表示した。

Ⅰ　最小単位認定規程　Version 1.3

第１　最小単位認定規程

最小単位は，現代語において意味を持つ最小の言語単位のことである。

最小単位は，和語・漢語・外来語・数・記号・人名・地名の各種類ごとに，以下の規定によって認定する。

和語・漢語・外来語の語種の判定は，原則として『新潮現代国語辞典』第２版（新潮社）による。『新潮現代国語辞典』第２版の見出しにない語は，『精選版日本国語大辞典』（小学館）を主たる資料として語種判定を行う。また，『新潮現代国語辞典』第２版の語種判定に従い難いと判断した場合は，『精選版日本国語大辞典』等を参照し，独自に語種を判定した。

1　和　語

和語の最小単位は，以下の例のように認定する。

和語の最小単位の認定に関する詳細は，第２「和語の最小単位認定に関する規則」を参照のこと。

【例】　／母／親／　　／青／白い／　　／いい／加／減／な／
　　／本／箱／　　／幾／人／　　／オレンジ／色／
　　／わたし／で／も／できる／　　／読み／終わり／まし／た／

１．１　融合形は，元の形に戻さずに，融合している複数の最小単位全体で１最小単位とする。

【例】

名詞・代名詞＋助詞：
　／その／ときゃ（あ）／（その時は）　　／わたしゃ／（わたしは）

動詞＋助詞：
　／行きゃ（あ）／し／ない／（行きはしない）
　／考えりゃ（あ）／（考えれば）

形容詞＋助詞：
　／おもしろけりゃ／（おもしろければ）　　／おもしろきゃ／（おもしろければ）
　／悪か／ない／（悪くはない）

その他：
　／生き／てる／（生きている）　　／生き／て／た／（生きていた）
　／持っ／てく／（持っていく）　　／持っ／てっ／た／（持っていった）
　／置い／とく／（置いておく）　　／置い／とい／た／（置いておいた）
　／知っ／とる／（知っておる）　　／知っ／とっ／た／（知っておった）
　／行っ／ちまう／（行ってしまう）　　／行っ／ちまっ／た／（行ってしまった）
　／行っ／ちゃう／（行ってしまう）　　／行っ／ちゃっ／た／（行ってしまった）
　／っちゅう／の／は／（って言うのは）　　／ってえ／と／（って言うと）

１．２　省略形は，元の形に戻さずに，可能な範囲で最小単位を認定する。その際，元の形との対応をできる限り取るよう留意する。

【例】　／や／ん／だ／っけ／（やるんだっけ）※1
　　／行っ／てる／ん／す／※2

※１　元の形「やるんだっけ」との対応を可能な限り取るように，「や」を動詞「やる」の活用語尾が省略された形，「ん」を元の形「やるんだっけ」の「ん（準体助詞「の」の撥音便）」と考えて，最小単位の認定を行う。

※２　元の形「行ってるんです」との対応を可能な限り取るように，「す」を元の形「行ってるんです」の助動詞「です」と考えて，最小単位の認定を行う。

１．３　現代語において分割することができない，若しくは分割することが適切でないと考えられるものは，分割せずに全体で１最小単位とする。

【例】　／あっけらかん／　　／いなずま／　　／えがく／　　／おもんぱかる／
　　／こだま／　　／とんかち／

１．４　次に挙げるものは，それだけで１最小単位とせずに前の要素に含める。

（１）形容詞語尾の「い」「く」「しい」など
【例】　／さむ=い／　　／ひろ=く／　　／うれ=しい／

（２）いわゆる形容動詞の語幹末尾「か」「やか」「らか」
【例】　／しず=か／　　／かろ=やか／　　／ほが=らか／

（３）動詞の活用語尾
【例】　／おも=う／　　／ひろ=う／　　／わか=る／

（４）いわゆる副詞語尾「と」
【例】　／ぐっ=と／　　／さっ=と／　　／ほっ=と／

※　「ＡＡト」のように「Ａ」に当たる要素が重複されている場合は，「と」を１最小単位とする。（参照：規定１．５（５））
【例】　／ぐら／ぐらっ／と／　　／がぶ／がぶ／と／

（５）助数詞の「とり（たり）」
【例】　／ひ=とり／　　／ふ=たり／

（６）延言の「く」「らく」
【例】　／いわ=く／　　／おもう=らく／　　／ねがわ=く／

（７）コソアド類の各語末
【例】　／こ=れ／　　／こ=の／　　／こ=こ／　　／こち=ら／
／そ=れ／　　／そ=の／　　／そ=こ／　　／そち=ら／
／あ=れ／　　／あ=の／　　／あそ=こ／　／あち=ら／
／ど=れ／　　／ど=の／　　／ど=こ／　　／どち=ら／
／だ=れ／
／いず=れ／

１．５　次に挙げるものは，前又は後ろの要素にまとめずに助詞・助動詞と同様に単位を認定する。

（１）接続詞・接続助詞の構成要素となっている助詞・助動詞
【例】　／だ／が／　　／です／が／　　／で／は／　　／の／で／　　／の／に／
／ところ／が／　　／ところ／で／　　／もの／の／

（２）いわゆる形容動詞，いわゆる形容動詞活用型の助動詞の変化部分
【例】
形容動詞　：　／静か／だ／　　／元気／だ／
形容動詞型活用の助動詞　：　／そう／だ／　　／よう／だ／

（３）いわゆる副詞語尾「に」
【例】　／実／際／に／　　／非／常／に／

※　資料「要注意語」の「全体で１最小単位とするもの」に登録されたもの以外のニ型副詞の語尾。

（4）「動詞連用形＋テ」から副詞に転じた語の接続助詞「て」
【例】　／ふるっ／て／　　／あわせ／て／

（5）いわゆる副詞語尾「と」のうち，「ＡＡト」のように「Ａ」に当たる要素が重複されているものに接続するもの
【例】　／ぐら／ぐらっ／と／　　／がぶ／がぶ／と／

1．6　擬音語・擬態語の繰り返しや，これに準ずるものは，各々を切り離す。
【例】　／どき／どき／　　／ぴか／ぴか／　　／もじ／もじ／
／ぷよ／ぷよ／　　／ちら／ほら／
／がら／がら／と／

1．7　それがないとき，1最小単位となるものの中に出てくるフィラーは無視する。
【例】　／ひ=えー=だり／（左）　　／たち=いー=ばな／さん／（橘）

1．8　言いよどみは，1最小単位とする。
【例】　／わた／私／は／　　／こ／ここ／から／

2　漢　語

漢語（和製漢語を含む。）は，漢字1文字で表されるものを1最小単位とする。
【例】　／白／紙／　　／安／価／　　／含／有／量／　　／数／百／

3　外来語

外来語・外国語は原語で1単語になるものを1最小単位とする。
英語起源の外来語の最小単位の認定は『リーダーズ英和辞典』第2版（研究社）による。それ以外の言語を起源とする外来語については適宜判断する。
【例】　／カラー／コピー／　　／レーザー／プリンター／
／オレンジ／色／　　／ビタミン／剤／

3．1　英語起源の外来語について，原語で1語になるものの結合体が『リーダーズ英和辞典』第2版で1語として扱われている場合，その結合体を1最小単位とする。
【例】　／データ=ベース／　　／ネット=ワーク／

※　「データ（data）」「ベース（base）」「ネット（net）」「ワーク（work）」は，それぞれ原語で1語であるが，「データ」と「ベース」との結合体「データベース」，「ネット」と「ワーク」との結合体「ネットワーク」が，それぞれ『リーダーズ英和辞典』第2版で1語とされている。このような場合，「データベース」「ネットワーク」を1最小単位とする。

3．2　外来語・外国語の1最小単位を略したものも1最小単位とする。
【例】　／塩／ビ／　　／パソ／コン／　　／インフレ／

3．3　用言化した外来語の活用語尾は切り出さない。
【例】　／サボ=る／　　／ハモ=る／

3．4　外来語・外国語に漢字を当てたものも，外来語・外国語として扱う。
【例】　／菩薩／　　／阿弥陀／　　／倶楽部／　　／背広／

３．５　日本語としては分割不可能と考えられるもの及び二つの単語が融合して発音されたことによって分割不可能になったものは，全体で１最小単位とする。
【例】　／クーデター／　　／スピーカーゾブ／（“speakers of”の融合）

４　記　号

記号は１文字に当たるものを１最小単位とする。
【例】　／表／Ａ／　　／図／Ｂ／　　／Ｕ／ターン／　　／Ｖ／リーグ／

／●／メイン／フロア／は／なん／と／、／二／千／四／百／名／もの／収／容／力／。／
／元／駐／日／アメリカ／大／使／ジョセフ／・／クラーク／・／グルー／（／千／八／百／八／十／一／千／九／百／六／十／五／年／）／は／、／
／Ｌ．Ａ．／で／人気／の／組み／合わせ／は／、／これ／！／
／岡野／あつこ／さん／の／場／合／ー／

（◆ver.1.3追加）
４．１　外来語（組織名等を含む。）を略した１文字の片仮名は記号とする。
【例】　／セ／リーグ／　　／ナ／リーグ／　　／マ／社／

／パ／関／係／者／に／よる／と／、／今／季／から／実／現／し／た／セ／・／パ／交／流／戦／で／は／
／Ｊ／１／復／帰／を／決め／、／声／援／に／応える／セ／大阪／

４．２　ローマ字を並べた略称は全体で１最小単位とする。ローマ字の間の中点・ピリオド等は１最小単位としない。
【例】　／ＯＨＰ／　　／ＯＳ／　　／ＭＶＰ／

５　数

数字は，１文字に当たるものを１最小単位とする。
【例】　／一／億／語／　　／七／百／五／十／万／語／

６　人名・地名

人名・地名は，次の規定により最小単位を認定する。

（◆ver.1.3修正）
６．１　人　名
人名は，姓を１最小単位，名を１最小単位とする。
【例】　／星野／仙一／　　／ジェフ／・／ウィリアムス／　　／林／威助／

通称・雅号・しこ名（その略称も含む。）等は，次のように最小単位を認定する。
【例】　／千代大海／　　／十返舎／一九／　　／古今亭／志ん生／

ローマ字等を含む仮名は，次のように最小単位を認定する。
【例】　／Ａ子／　　／○田／■男／

６．１．１　姓と名との間にある読み添えの「の」が本文に表記されている場合は，助詞として扱い１最小単位とする。

【例】　／藤原／の／道長／　　／源／の／頼朝／

※　本文に表記されていない場合は規定６．１を適用する。

【例】　／源／頼朝／

（◆ver.1.3修正）

６．１．２　姓又は名を略したものは１最小単位とする。ただし，１文字の片仮名で略したものは除く。

【例】　／仙／ちゃん／　　／おざ／けん／　　／橋／龍／

（◆ver.1.3追加）

６．１．３　姓又は名を略した１文字の片仮名は，記号の最小単位として扱い，人名として扱わない。

【例】　／ブーテフリカ／大／統／領／（／以／下／「／ブ／大／統／領／」／と／いう／）／も／

６．１．４　人名の一部又は全部をローマ字で略記したものは，記号の最小単位として扱い，人名として扱わない。

【例】　／P／・／J／・／ブラウン／と／ジュワン／・／ハワード／だ／。／
／東京／・／Y／・／N／

６．１．５　複数の人物の名それぞれを略した要素が結合体を構成する場合，その各要素は和語・漢語・外来語の最小単位として扱い，人名としては扱わない。

【例】　／若／貴／兄／弟／　　／柏／鵬／時／代／　　／鳩／菅／体／制／
／角／福／戦／争／　　／三／角／大／福／中／

６．２　地　名

行政区画を表す地名は「都・府・県・郡・市・区・町・村・字」を除いた部分をそれぞれ１最小単位とする。

市区内の小区分の「～町（ちょう）」は「～町（まち）」を含めて１最小単位とする。

【例】　／東京／都／北／区／西が丘／三／丁／目／九／番／十／四／号／
／大阪／府／豊中／市／待兼山町／
／千代田／区／大手町／
／さいたま／新／都／心／駅／　　／茨木／市／駅／

「北海道」は全体で１最小単位とする。

【例】　／北海道／夕張／郡／長沼／町／
／明日／の／北海道／の／天気／

６．２．１　京都の地名のうち，通りの名称の部分には規定６．２．６を適用する。

【例】　／京都／市／上京／区／今出川／通／烏丸／東／入／

６．２．２　地名の略称は，全体を１最小単位とする。

【例】　／ちとから／（千歳烏山）　　／天六／（天神橋筋六丁目）

６．２．３　外国の国名や行政区画名などにも規定６．２～６．２．２を適用する。

【例】　／アメリカ／合／衆／国／　　／ロシア／共／和／国／

／南アフリカ／共／和／国／
／カリフォルニア／州／　／広東／省／　／メキシコ／シティー／
／ミズーリ／ステート／

6．2．4　地名は，類概念を表す部分及び「東・西・南・北・新」などを除いた部分を1最小単位とする。

【例】　／中国／地／方／　／九州／地／方／　／四国／地／方／
／多摩／　／但馬／　／摂津／　／近江／　／紀州／
／山陽／本／線／　／ＪＲ／京都／線／
／東／ヨーロッパ／

北海道及び七道は，「道」を含めて1最小単位とする。
／北海=道／　／東海=道／　／東山=道／　／北陸=道／
／山陰=道／　／山陽=道／　／南海=道／　／西海=道／

6．2．5　地形名は，類概念を表す部分を除いた部分を1最小単位とする。

【例】　／生駒／山／　／昭和／新／山／　／サロマ／湖／

6．2．6　場所名については，名を表す部分と類概念を表す部分とに分割した後，両方の部分に最小単位の認定規定を適用する。

【例】　／山／手／通り／　／新／御／堂／筋／
／さいたま／新／都／心／駅／　／茨木／市／駅／
／山陽／本／線／　／大／江戸／線／

6．2．7　地名を略した漢字1字の「日」「米」などについては，漢語の最小単位として扱い，地名としては扱わない。

【例】　／日／米／　／日／米／韓／　／米／国／
／日／韓／漁／業／協／定／
／京／阪／　／播／但／
／阪／奈／自／動／車／道／　／甲／州／街／道／
／磐／越／西／線／

6．2．8　片仮名表記する外国地名を略したもので，地名を略した1字漢語（「日」「米」など）に相当する片仮名1文字の「ロ」（ロシアの略）などは，外来語・外国語の最小単位として扱う。

【例】　／訪／ロ／

6．2．9　地名をローマ字で略記したものは，記号の最小単位として扱う。

【例】　／ＮＹ／　／Ｌ．Ａ．／

※　「ＮＹ」「Ｌ．Ａ．」は，規定4．1によって1最小単位となる。

補則　地名

地名のうち最小単位の認定に当たり判断に迷う例について，その認定方法を示す。

（1）地形名（下線部は地名に当たる最小単位）
／瀬戸／内／　／瀬戸／内／海／　／プリンスエドワード／島／
／浄土が浜／　／大瀬崎／　／耶馬／渓／
／奥穂高／岳／　／大菩薩／峠／　／鬼押出／

（２）場所名（駅名以外）（下線部は地名に当たる最小単位）
／岡田／山／古／墳／　／加茂／岩倉／遺／跡／　／荒神／谷／遺／跡／
／妻木晩田／遺跡／　／吉野が里／遺跡／　／田和／山／遺跡／
／区／役／所／通り／　／富士見／坂／　／武田／山／トンネル／
／八方／尾根／スキー／場／

（３）駅名
① 行政区画名と一致する駅名
／東中野／　／西日暮里／

② 二つの地名から成る駅名
／祖師ヶ谷／大蔵／　／多摩／境／　／武蔵／境／
／武蔵／小山／　／武蔵／小杉／　／川西／池田／

③その他
／表／参道／　／二子／玉川／　／半蔵／門／

参考　最小単位の例

／グルー／文／書／
元／駐／日／アメリカ／大／使／ジョセフ／・／クラーク／・／グルー／（／千／八／百／八／十／一／千／九／百／六／十／五／年／）／は／、／歴／代／の／駐／日／大／使／の／なか／で／も／ひときわ／生／彩／を／はなつ／、／アメリカ／の／代／表／的／な／職／業／外／交／官／で／あっ／た／。／
彼／は／千／九／百／三／十／二／年／から／四／十／二／年／まで／の／約／十／年／間／を／日本／で／過ごし／、／日／米／関／係／の／調／整／に／数／多く／の／足／跡／を／のこし／た／。／
来／日／以／来／、／グルー／は／満州／事／変／後／の／日本／軍／部／の／台／頭／を／つぶさ／に／観／察／する／と／とも／に／、／日本／の／国／際／連／盟／脱／退／（／三／十／三／年／三／月／）／、／日／中／戦／争／勃／発／（／三／十／七／年／七／月／）／、／日／独／伊／三／国／軍／事／同／盟／（／四／十／年／九／月／）／、／対／日／経／済／制／裁／（／四／十／一／年／七／月／）／、／真珠／湾／奇／襲／攻／撃／（／四／十／一／年／十／二／月／）／など／、／日／米／関／係／に／決／定／的／な／転／機／を／もたらし／た／重／大／な／歴／史／的／事／件／の／ことごとく／を／直／接／に／体／験／し／た／。／
グルー／の／主／著／は／、／この／十／年／に／およぶ／彼／の／滞／日／経／験／を／まとめ／た／もの／で／あり／、／千／九／百／四／十／四／年／五／月／に／公／刊／さ／れる／と／、／アメリカ／国／民／の／あいだ／に／大きな／反／響／を／よび／おこし／た／。／

／　／最／後／に／雑／誌／「／エンターテインメント／・／ウイークリー／」／に／載っ／た／映／画／評／を／紹／介／し／よう／。／
／「／ＵＰＳＩＤＥ／／Ｉｔ／　／ｃｏｕｌｄ／　／ｂｅ／　／ａ／　／Ｂｅｓｔ／　／Ｆｏｒｅｉｇｎ／　／Ｌａ－ｎｇｕａｇｅ／　／Ｆｉｌｍ／　／ｃｏｎｔｅｎｄｅｒ／　／ａｔ／　／ｎｅｘｔ／　／ｙｅａｒ’ｓ／　／Ｏｓ－ｃａｒｓ／．／（／来／年／の／アカデミー／賞／で／最／優／秀／外／国／語／映／画／賞／を／獲／得／する／可／

能／性／が／ある／）／ＤＯＷ－ＮＳＩＤＥ／／／Ｓｕｂｔｉｔｌｅｓ／（／字／幕／付き／）／」／（／追／記／／／さて／六／月／二／十／七／日／公／開／予／定／が／、／あと／一／週／間／と／迫っ／た／ところ／で／突／然／七／月／十／一／日／に／延／期／。／
その／理／由／は／、／マーケティング／の／結／果／だ／そう／だ／）／

／タマ／チャリ／と／は／比／較／に／なら／ない／機／動／性／と／耐／久／性／を／装／備／
米／軍／の／「／ハマー／」／の／名／が／冠／せ／られ／た／自／転／車／に／乗ろ／う／
ハマー／折り／たたみ／マウンテン／バイク／
　／中国／や／タイ／ほど／で／は／ない／が／、／日本／も／世／界／屈／指／の／自／転／車／大／国／。／通／勤／通／学／、／また／は／日／常／の／足／と／し／て／自／転／車／を／利／用／し／て／いる／人／は／多い／こと／だろ／う／。／そこ／で／、／ちょっと／他／人／と／差／を／付け／たい／なら／、／こんな／自／転／車／に／乗っ／て／は／いかが／だろ／う／か／？／
　／ＤＢＳ／　／ＪＡＰＡＮ／から／販／売／さ／れ／て／いる／「／ハマー／折り／たたみ／マウンテン／バイク／」／は／、／米／軍／の／軍／用／車／・／ハマー／で／有／名／な／アメリカ／ＧＭ／社／製／の／自／転／車／。／自／転／車／と／は／いっ／て／も／、／ハマー／の／名／前／は／ダテ／で／は／なく／、／高い／機／動／性／と／耐／久／性／を／兼ね／備え／た／１／台／に／なっ／て／いる／。／

第２　和語の最小単位認定に関する規則

和語の最小単位の認定は，漢語・外来語と比較して判断に迷うことが多い。そこで，以下のとおり，和語の最小単位を認定するための規定を定める。

Ⅰ　語の一覧等に基づいて最小単位を認定するもの

1　常用漢字表（1981年，内閣告示第１号・内閣訓令第１号）の音訓欄に掲げられた訓は，１最小単位とする。

【例】　／あわ=せる／　　／まつり=ごと／　　／え=がく／

可能動詞形については，元の動詞に準じて１最小単位とする。

【例】　／え=がける／

2　語源的には二つ以上の要素から成る語のうち，現代仮名遣い（1986年，内閣告示第１号・内閣訓令第１号）の第２の規定５において「現代語の意識では一般に二語に分解しにくいもの等として，それぞれ「じ」「ず」を用いて書くことを本則と」すると規定されている語のうち次に挙げるものは，全体で１最小単位とする。

【例】　／いな=ずま／　　／かた=ず／　　／き=ずな／　　／さか=ずき／
／ときわ=ず／　　／ほお=ずき／　　／みみ=ずく／　　／うな=ずく／
／おと=ずれる／　　／かし=ずく／　　／つま=ずく／　　／ぬか=ずく／
／ひざ-ま=ずく／　　／あせみ=ずく／　　／さし=ずめ／
／で=ずっ-ぱり／　　／なか-ん=ずく／　　／うで=ずく／
／くろ=ずくめ／

3　資料「要注意語」の「助詞」「助動詞」「接頭的要素」「接尾的要素」「全体で１最小単位とするもの」に挙げたものは１最小単位とする。

【例】　／それ／で／も／　　／話し／た／　　／考え／がたい／
／乗り／こなす／　　／この=頃／　　／ひょんな／

可能動詞形については，元の動詞及び動詞性接尾辞に準じて１最小単位とする。

【例】　／乗り／こなせる／　　／使い／まくれる／

Ⅱ　上記の規定に該当しないものに関する規定

1　コーパス中の文において，他の要素と結合せず単独で語として使われているものは１最小単位とする。

【例】　／空／が／<u>かすむ</u>／

2　複合語を構成する要素については，以下の規定によって最小単位を認定する。

2．1　複合語の構成要素のうち，現代語において単独で語として機能し得るものどうしが結合して語を構成している場合は，それぞれの構成要素を１最小単位とする。

【例】　／空き／家／　　／灰汁／抜き／　　／揚げ／足／　　／明け／暮れる／

２．２　結合の際に音変化が起きているものは，以下の規定によって最小単位を認定する。

２．２．１　複合語の前項に音変化が起きているものは，以下の規定によって最小単位を認定する。

２．２．１．１　前項が被覆形となっているものは，その音節数等によって，以下のように最小単位を認定する。

（１）２音節以上であれば，原則として１最小単位とする。
【例】　／つま／先／

ただし，以下のいずれかに該当するものは，１最小単位とせず，全体で１最小単位とすることがある。

①既に語源意識が失われていると考えられるもの
【例】　／うつ=ぶす／

②一方の構成要素が語源未詳，若しくは語源は判明しているが，音変化等のため一般には元の語への還元が難しいと考えられるもの
【例】　／うわ=みず／（上溝）　／しら=に／（白土）　／しら=ふ／

（２）１音節で，元の形への還元が難しくないと考えられるものは１最小単位とする。
【例】　／木／陰／　／木／枯らし／　／木／立ち／

語源意識が失われている等の理由によって一般には元の形への還元が難しいと考えられるものは１最小単位とせず，全体で１最小単位とすることがある。
【例】　／こ=だま／　／こ=ぬれ／　／か=ぶれる／　／こ=がね／
／こ=よみ／

２．２．１．２　前項の名詞に音変化が生じている場合，全体で１最小単位とする。
【例】　／かい=ま／（垣間）　／かえ=で／（＜蛙手）　／かん=ざし／（簪）

２．２．１．３　前項が用言の音便形となっているものは，以下のように最小単位を認定する。

（１）後項が動詞である場合（当該の複合語が複合動詞，若しくはその転成名詞である場合），前項を１最小単位とする。一般には語源が意識されることの少ない語についても同様に扱う。
【例】　／追っ／掛け／　／切っ／掛け／　／くっ／付く／

（２）前項の動詞が連用形に見られる音便形とは異なる音便形を取っていても，それが規則的で広く用いられるものである場合は，前項を１最小単位とする。
【例】　／突っ／張る／　／引っ／掛かる／　／吹っ／切れる／

（３）前項の動詞が連用形に見られる音便形とは異なる音便形で個別的な事例と考えられる場合や，音の脱落を生じている場合は，前項を１最小単位とせず，全体で１最小単位とする。
【例】　／おもん=ぱかる／　／しゃべ=くる／　／せっ=かち／

（４）後項が用言以外である場合，後項と結合した形で１最小単位とする。
【例】　／追っ=手／　　／同い=年／　　／切=手／

２．２．１．４　後項が個別の変化を起こしている等のことから，それを１最小単位と認定し難い場合は，個別の判断によって最小単位を認定する。
【例】　／飲んだくれる／
※「たくれる」を最小単位と認定する必要はないと考えられるため。
／引っ／ぺがす／
※「引っ／ぱがす」が２最小単位となることとの整合性を取るため。

２．２．２　複合語の後項に音変化が起きているものは，以下の規定によって最小単位を認定する。

２．２．２．１　連濁を生じている場合も，元の形が規定２．１に該当するものであれば，１最小単位とする。
【例】　／わたし／ぶね／（渡し船）　　／ほん／ばこ／（本箱）

※　常用漢字表の音訓欄に挙げた訓には，Ｉの規定１が優先的に適用される。
【例】　／え=がく／　　／いろ=どる／

２．２．２．２　後項の語頭の母音に子音が挿入されている場合も，前項・後項をそれぞれ１最小単位とする。
【例】　／あき／さめ／（秋雨）　　／きり／さめ／（霧雨）

２．２．２．３　後項の語頭音が個別的に変化・脱落している場合，全体で１最小単位とする。
【例】　／かわ=も／（川面）　　／かわ=ら／（川原）　　／ごき=ぶり／

２．２．２．４　結合部分の母音が融合している場合，全体で１最小単位とする。
【例】　／おっしゃる／　　／きゅうり／　　／しょう／（背負う）

ただし，「ひと（人）」に由来する「と」「うと（ど）」「っと」等を最小単位と認める関係上，本規定に該当する語であっても，「と」「うと（ど）」「っと」と前項とをそれぞれ１最小単位とすることがある。
【例】　／おちゅ／うど／（落人）　　／わこ／うど／（若人）

※　「（う）と」の部分に「人」の意味が殆ど認められない語は，全体で１最小単位と認めることがある。
【例】　／隼人／　　／もうと／（真人）

２．３　結合の際に挿入された促音又は撥音は，後項に含める。
【例】　／開け／っ広げ／　　／朝／っぱら／　　／甘／ったれ／
／甘／っちょろい／　　／腕／っ節　　／崖／っ淵／　　／首／っ引き／
／くま／ん蜂／　　／下／っ端／　　／しみ／ったれる／　　／杉／っ葉／
／手／っ取り／早い／　　／出／っ歯／　　／出／っ張る／
／菜／っ葉／　　／抜き／ん出る／　　／猫／っ毛／　　／端／っ端／
／びり／っけつ／　　／宵／っ張り／

3　助詞・助動詞を構成要素に含む語は，以下の規定によって最小単位を認定する。

3．1　以下に挙げる語の構成要素となっている助詞・助動詞は1最小単位とする。
助詞・助動詞以外の構成要素は，特に定めのない限り，他の規定に基づいて最小単位を認定する。

（1）「―の～」
前後の要素が古語であったり，音変化を生じていたりする場合も，助詞「の」を1最小単位とする。
【例】　／味／の／素／　／天／の／川／　／あま／の／じゃく／
／有り／の／侭／　／タツ／ノ／オトシ／ゴ／

（2）助動詞の連用形が独立性を失い，動詞と1語化して名詞・形状詞に転じたもの
【例】　／いわ／れ／（謂れ）　／いやがら／せ／　／知ら／せ／
／憎ま／れ／っ子／　／人／泣か／せ／　／人／騒が／せ／
／番／狂わ／せ／　／やら／せ／

（3）その他の名詞・形状詞等
【例】　／擦っ／た／揉ん／だ／　／土／踏ま／ず／　／人／で／なし／
／減ら／ず／口／　／間／に／合う／　／水／入ら／ず／

（4）「動詞＋て」型の副詞
【例】　／あえ／て／　／改め／て／　／得／て／し／て／　／かえっ／て／
／かね／て／　／辛う／じ／て／　／極め／て／　／強い／て／
／すべ／て／　／せめ／て／　／次い／で／　／なべ／て／
／果たし／て／　／ひい／て／は／　／翻っ／て／　／まし／て／

（5）「動詞＋ず」型の副詞
【例】　／すかさ／ず／　／取り／あえ／ず／

（6）「動詞の未然形・已然形＋ば」型の副詞
【例】　／言わ／ば／　／例え／ば／

（7）「形容詞の連用形＋は」型の副詞
【例】　／あわ／よく／ば／

（8）「副詞・形容詞の連用形＋も」型の副詞
【例】　／いと／も／　／やや／も／　／奇しく／も／
／いやしく／も／　／畏く／も／　／からく／も／
／くれ／ぐれ／も／　／よく／も／

（9）その他の副詞
【例】　／飽く／まで／　／如何／せ／ん／　／いわ／ん／や／
／なる／べく／　／願わく／ば／　／びく／と／も／
／まる／で／　／わり／と／

（10）「動詞＋ぬ・ない」型の連体詞
【例】　／素／知ら／ぬ／　／尽き／せ／ぬ／

（１１）「動詞＋べき」型の連体詞
【例】／さる／べき／　　／しかる／べき／

（１２）「動詞＋たる」型の連体詞
【例】／さし／たる／

（１３）「動詞＋て＋動詞」型の動詞及びその転成名詞
【例】　／取っ／て／置き／

３．２　以下に挙げる語の構成要素となっている助詞・助動詞は１最小単位とはしない。助詞・助動詞を含む全体で１最小単位とする。

（１）「動詞＋て＋動詞」のうち，助詞「て」が後続の動詞と縮約しているもの
【例】　／打っちゃる／　　／置いてけ／ぼり／

（２）「持って」に由来する「も（っ）て」を含む語（その転成名詞を含む。）
【例】　／も=て=あそぶ／　　／持=て=余す／　　／も=て=なす／

（３）助詞「は」を含む語のうち，助詞「は」に由来する要素が「わ」と表記される語
【例】　／イマ=ワ／（今際）

（４）「～に」型の副詞
【例】　／大い=に／　　／更=に／　　／ひとり=で=に／

（５）「～なる・な」型の連体詞
【例】　／色ん=な／　　／大い=なる／　　／大き=な／　　／可笑し=な／

（６）「動詞以外＋たる」型の連体詞
【例】　／何=たる／

（７）あいさつ・掛け声等の感動詞
【例】　／どう=ぞ／　　／さら=ば／　　／けしから=ん／

（８）その他
【例】　／あた=か=も／
※「あた」を最小単位とは認め難いため。
／そ=も／そ=も／
※指示詞「そ」が１最小単位と認定されないため。

４　副詞「と」「かく」を構成要素に含む語については，副詞「と」「かく」を１最小単位とした上で，他の要素もそれぞれ１最小単位とする。
【例】　／と／ある／　　／兎／角／　　／兎／に／角／　　／と／も／あれ／
／兎／も／角／　　／と／て／も／
／と／に／も／かく／に／も／

５　派生形容詞及び繰り返しの要素を含む副詞・形状詞については，以下の規定によって最小単位を認定する

5．1　「ＡＡしい」という語構成の形容詞は，次のように最小単位を認定する。
【例】　／青／々しい／　　／軽／々しい／　　／白／々しい／
　　／痛／々しい／　　／忌／々しい／　　／初／々しい／

5．2　「黄色い」「奥ゆかしい」等，複合語に形容詞語尾が付いた語（「待ち遠しい」のようにク活用型形容詞の語幹にシク活用型形容詞の活用語尾が接続したものを含む。）は，以下のように最小単位を認定する。
【例】　／黄／色い／　　／待ち／遠しい／　　／奥／ゆかしい／

5．3　複合名詞の一部が形容詞語尾として異分析された語や，後項に個別的な音変化が生じているものは，全体で１最小単位とする。
【例】　／目=ぼしい／
　　※ 目星の転
　　／目=まぐるしい／
　　※ 「目＋紛らしい」の転。後項「紛らわしい」に音変化が生じている。

5．4　重複要素を含む副詞・形状詞は，次のように重複する要素をそれぞれ１最小単位とする。
【例】　／粗／々／　　／生き／生き／　　／色／々／　　／浮き／浮き／
　　／更／々／　　／偶／々／　　／つい／つい／
　　／いよ／いよ／　　／しば／しば／　　／そろ／そろ／

6　擬音・擬態的要素，及び当該語中において擬音・擬態的要素と結合して１語を構成している一般の要素について

6．1　掛け声などの感動詞，動物の鳴き声や物の発する音を描写したと思われる擬音語は，その１回的描写を１最小単位と認定する。
【例】　／あーと／　　／あい／　　／あう／　　／あちゃー／　　／おいしょ／
　　／おっと／　　／おや／　　／がーん／　　／どっこい／　　／みゅうまお／

6．2　一般に擬音語・擬態語とされるものは，以下の規定によって最小単位を認定する。

6．2．1　擬音語・擬態語は，その語基を１最小単位とする。
　擬音語・擬態語の語基※に結合した派生要素「ーっ」「ーり」「ーん」「ーっり」「ーんり」は，１最小単位とせず語基に含める。
　【例】　／がくっ／　　／がくっ／と／　　／がくん／と／　　／がくり／と／
　　／がっくり／と／

　※「かちっ」「かちり」「かちん」の「かち」，「どきっ」「どきり」「どきん」「どっきり」の「どき」，「ひやっ」「ひやり」「ひんやり」の「ひや」等が語基である。

6．2．1．1　擬音語・擬態語に接続する「と」「て」は１最小単位とする。
　【例】　／がちゃん／と／　　／ぱりっ／て／

　ただし「きっと」「ちゃんと」のように，既に副詞として１語化したものは，全体で１最小単位とする。
　【例】　／き=っと／　　／ちゃん=と／

　※「と」の部分を「（っ）て」と交換することができない。

６．２．２　語基，若しくは語基に規定６．２．１に挙げた派生要素が結合したものが，重複されている場合には，重複されている要素をそれぞれ１最小単位とする。

【例】　／うよ／うよ／　　／がた／がた／　　／さら／さら／
　　／ずば／ば／ば／ばっ／　　／が／が／が／がつん／
　　／ずば／ば／ば／ば／ばん／

６．２．２．１　１音節の擬音語が重複して用いられている場合，以下のように最小単位を認定する。重複の末尾に付いた派生要素「－っ」「－ん」は，最後部の音節に含める。

【例】　／が／が／　　／ず／ず=ん／
　　／が／が／が／が／が／　　／ぐ／ぐ／ぐ／ぐ／
　　／さっ／さっ／さ／と／　　／ず／ず／ず／ず=ん／

６．２．２．２　１音節の擬態語が２回繰り返されたものに「と」が接続して１語化した語は，全体で１最小単位とする。

【例】　／さっさと／　　／とっとと／

※「と」の部分を「て」と交換することができない。

６．２．３　複数の異なる語基及び語基に規定６．２．１に挙げた派生要素が結合したものが結合して用いられているものは，以下のように最小単位を認定する。

【例】　／がしゃ／こん／　　／がた／こん／　　／かちん／こちん／
　　／かり／こり／

６．３　元々擬音語・擬態語であった語が，ある特定の事物を指示する名詞に転じたものは，全体で１最小単位と認定する。

【例】　／とん=かち／　　／ぽん=こつ／　　／駄=々／

６．３．１　複数の擬音語・擬態語の語基などの結合したものが，１語化して副詞・形状詞として用いられているものは，全体で１最小単位と認定する。

【例】　／おっちょこ=ちょい／　　／こてん=ぱん／

６．４　擬音語・擬態語と一般語とが結合した語については，以下のように最小単位を認定する。

６．４．１　元の擬音語・擬態語との関係を強く想起させる要素と単独で語として使われる一般語とが結合した語は，擬音語・擬態語に当たる要素と一般語とを，それぞれ１最小単位とする。

【例】　／びく／つく／　　／びしょ／濡れ／　　／ぶら／下がる／
　　／べた／付く／　　／べた／褒め／　　／ぽい／捨て／
　　／むず／がゆい／

６．４．２　擬音語・擬態語に当たる要素の語源意識が失われてしまっているものや，他の構成要素が接尾辞的な性格の強いものは，擬音語・擬態語に当たる要素と一般語とが結合した全体を１最小単位とする。

【例】　／ひし=めく／　　／ひよ=こ／　　／ぼや=ける／　　／へこ=たれる／
　　／よた=話／

６．４．３　擬音語・擬態語に接続して名詞を作る接尾辞「こ」と結合した擬音語・擬態語は１最小単位としない。
【例】　／パチン=コ／　　／ブラン=コ／

６．４．４　単に語調を整えるための要素や語源未詳の要素と結合した擬音語・擬態語の語基及び語基に規定６．２．１に挙げた派生要素が結合したものは，１最小単位としない。
【例】　／ぽか=すか／　　／ほにゃ=らか／

７　接頭辞は，以下の規定によって最小単位を認定する。

７．１　接頭辞「お」「み」を含む語は，以下の規定によって最小単位を認定する。（接頭的要素「お」「み」の例外規定）

７．１．１　「（お（み）＋○）＋○」という語構成のものは，接頭辞「お」「み」と直後の要素とを併せて１最小単位とする。
【例】／お=色／直し／　　／お=門／違い／　　／お=人／好し／

７．１．２　「おみ＋○」という語構成のもののうち「み＋○」が１最小単位と規定されているものは，「お」は１最小単位とする。
【例】　／お／み=くじ／　　／お／み=こし／

７．１．３　前条に該当しない「おみ＋○」という形式は全体で１最小単位とする。
【例】　／お=み=足／　　／お=み=渡り／

７．２　次に挙げる接頭辞は，１最小単位とする。
接頭辞の直後に挿入された促音は接頭辞に含める。

（１）生物の雌雄を区別する「お（雄）」
【例】　／雄／牛／　　／牡／鹿／

ただし，生物の雌雄を直接指示しない「お」は除く。
【例】　／雄=たけび／

（２）おお（大）
【例】　／大／君／　　／大／雨／

（３）か
【例】　／か／細い／　　／か／弱い／

（４）こ（小）
【例】　／小／商い／

ただし「小間」の「こ」を除く。
【例】　／小=間／物／　　／小=間／使い／

（５）こっ
【例】　／こっ／ぱずかしい／　　／こっ／酷い／

（６）さ
【例】　／さ／迷う／　　／小／夜／

（７）さか（逆）
【例】　／さか／うらみ／　　／さか／のぼる／

ただし，以下の「さか」は除く。
【例】　／逆=さ／　　／逆=らう／

（８）だだ
【例】　／だだっ／広い／

（９）ど
【例】　／ど／田舎／　　／ど／えらい／　　／ど／ぎつい／
／度／肝／　　／度／突く／　　／どん／底／

（１０）どす
【例】　／どす／黒い／

（１１）ひ
【例】　／ひ／弱／

（１２）ひた
【例】　／ひた／隠す／　　／ひた／あやまり／

ただし，以下のものは除く。
【例】　／ひた=すら／　　／ひた=むき／

（１３）ま（真）
【例】　／ま／いわし／　／真ん／中／　　／真っ／白／

（１４）め（雌）
【例】　／雌／牛／　　／牝／鹿／

（１５）ゆう（夕）
【例】　／夕／焼け／　　／夕／暮れ／

８　接尾辞は，以下の規定によって最小単位を認定する。

８．１　次に挙げる接尾辞は，単独で１最小単位と認定する。

（１）がましい
【例】　／おこ／がましい／　　／押し／付け／がましい／

（２）がり
【例】　／薄暗／がり／　／怖／がり／　　／強／がり／　　／広／がり／

（３）かす
【例】　／甘や／かす／　　／脅／かす／　　／おびや／かす／　　／散ら／かす／

／寝／かす／　　／冷や／かす／　　／ほったら／かし／
／ほったら／かす／　　／ほっぽら／かす／　　／見せびら／かす／
／やら／かす／　　／笑／かす／

（４）け
【例】　／真っ／暗／け／　　／真っ／白／け／

（５）ころ
【例】　／石／ころ／　　／犬／ころ／

（６）ずむ
【例】　／黒／ずむ／

（７）たらしい
【例】　／長／たらしい／　　／憎／たらしい／　　／みじめ／たらしい／

（８）っこい
【例】　／油／っこい／　　／丸／っこい／　　／ねば／っこい／
／ねち／っこい／

（９）ったい
【例】　／野暮／ったい／　　／口／幅／ったい／

（１０）ったけ
【例】　／首／っ丈／　　／有り／っ丈／

（１１）ったるい
【例】　／甘／ったるい／

（１２）っち
【例】　／タマゴ／ッチ／

（１３）っちい
【例】　／丸／っちい／　　／嘘／っちい／

（１４）っちょ
【例】　／先／っちょ／　　／横／っちょ／

（１５）っぱち
【例】　／嘘／っぱち／　　／自棄／っぱち／

（１６）っぺ
【例】　／田舎／っぺ／　　／野／っぺ／

（１７）っぺら
【例】　／薄／っぺら／

（１８）っぺらい
【例】　／薄／っぺらい／　　／やす／っぺらい／

（１９）っぽ
【例】　／尾／っぽ／　　／先／っぽ／　　／空／っぽ／

（２０）っぽい
【例】　／荒／っぽい／　　／安／っぽい／

（２１）びる
【例】　／古／びる／

（２２）びれる
【例】　／悪／びれる／

（２３）べったい
【例】　／平／べったい／

（２４）ぼったい
【例】　／厚／ぼったい／　　／暗／ぼったい／　　／腫れ／ぼったい／

（２５）めかしい
【例】　／艶／めかしい／　　／古／めかしい／

８．２　次に挙げる接尾辞は前の要素に含める。

（１）ク語法
【例】　／いわ=く／　　／ねがわ=く／　　／思えら=く／

（２）こ
擬音語・擬態語に付いて，「～という状態である」という意の語や他の擬音語・擬態語を作る。
【例】　／泥ん=こ／　　／どんぶら=こ=っこ／　　／ぺたん=こ／
／ぺちゃん=こ／

（３）こ
名詞や擬音語に付いて，そのものに対する愛着・愛情等を表現する名詞を作る。
【例】　／にゃん=こ／　　／わん=こ／

（４）ち（歳）
【例】　／はた=ち／　　／三十=路／

（５）っか
【例】　／輪=っか／

（６）っかしい
【例】　／危な=っかしい／　　／そそ=っかしい／

（７）っかる
【例】　／乗っ=かる／

（８）っける
【例】　／乗っ=ける／

（９）っぴら
【例】　／大=っぴら／　　／真=っぴら／

（１０）まか
【例】　／大=まか／　　／ちょこ=まか／

（１１）まる
【例】　／薄=まる／　　／奥=まる／　　／固=まる／　　／静=まる／
／狭=まる／　　／高=まる／

（１２）める
【例】　／赤ら=める／　　／薄=める／　　／固=める／　　／静=める／
／高=める／

（１３）み
【例】　／とろ=み／　　／柔らか=み／　　／弱=み／

９　１音節の基本語を構成要素に含む語は，その基本語を分析・還元することが難しいと考えられる場合，最小単位とせず全体で１最小単位とすることがある。

９．１　サ変動詞「する」の連用形「し」を含む語については，「し」に当たる要素が「仕」「支」等の別字で表記されることが多いため，原則として「し」を最小単位とせず，全体で１最小単位とする。
【例】　／試=合／　　／し=あわせ／　　／仕=入れる／　　／仕=立て／
／仕=付け／糸／　　／仕=留める／　　／し=にせ／　　／支=払い／
／仕=舞う／　　／仕=業／

ただし，「する」の意味が比較的強く感じられる語は，「し」を１最小単位とする。
【例】　／為／手／　　／為／直す／

９．２　「す（素）」「そ（素）」を含む語は，「す」「そ」を１最小単位とする。
【例】　／素っ／飛ばす／　　／素っ／飛ぶ／　　／素っ／ぴん／　／素っ／裸／
／素／手／　　／素／通り／　　／素／肌／　　／素っ／気／
／そ／振り／

ただし，以下のように，他方の構成要素の意味が独立して認識される度合いの小さい語に用いられたものは「す」「そ」を１最小単位とせず，全体で１最小単位とする。
【例】　／素=直／　　／素=晴らしい／

９．３　「て（手）」を含む語は，原則として「て」を１最小単位とする。
【例】　／手／垢／　　／手／上げ／　　／手／足／　　／手／厚い／
／手／当て／　　／手／薄／　　／手／落ち／　　／手／紙／
／手／柄／　　／手／軽／　　／手／際／　　／手／口／
／手／答え／　　／手／塩／　　／手／摺／　　／手／っ取り／早い／
／手／引き／　　／痛／手／　　／射／手／　　／受け／手／
／薄／手／　　／裏／手／　　／売り／手／

ただし，以下に挙げるものは「て」を１最小単位とせず全体で１最小単位とする。

（1）他の規定により全体で1最小単位と認定されたもの
【例】　／てんでん／　　／てんやわんや／

（2）その他，語源意識が極めて希薄なもの等
【例】　／梃子／　　／てこずる／　　／手伝う／　　／手間／

9．4　「ま（間）」を含む語，原則として「ま」を1最小単位とする。
【例】　／間／際／　　／間／口／　　／間／近／　　／間／取り／
／間／に／合う／　　／間／抜け／　　／間／引く／
／間違／い／　　／間／違う／　　／間／違え／　　／間／違える／

ただし，現在語源意識が極めて希薄なもの等は，「間」を最小単位とせず全体で1最小単位とすることがある。
【例】　／万=引き／（＜間引き）

9．5　動詞「見る」の連用形「み」を含む語は，原則として「み」を1最小単位とする。
【例】　／見／合い／　　／見／出だす／　　／見／入る／　　／見／劣り／
／見／限る／　　／見／応え／　　／見／詰める／　　／看／取る／
／見／栄え／　　／見／舞う／　　／国／見／　　／下／見／
／見／付かる／※

※　「付かる」という語が単独で存在しているわけではないが，「見／付ける」に対応する語として「／見／付かる／」の2最小単位に分割する。

ただし，以下に挙げるものは「み」を1最小単位とはせず，「み」を含む全体で1最小単位とする。

（1）他規定によって1最小単位と認定されるもの
【例】　／認める／　　／醜い／

（2）語源意識が極めて希薄であるもの等
【例】　／見事／　　／みっともない／

9．6　「め（目）」を含む語については，原則として「め」を1最小単位とする。
【例】　／目／新しい／　　／目／当て／　　／眼／鏡／　　／目／くじら／
／目／先／　　／目／指す／　　／目／敏い／　　／目／覚める／
／目／付き／　　／目／抜き／　　／目／安／　　／網／目／
／板／目／　　／裏／目／　　／上／目／　　／負い／目／

ただし，以下に挙げるものは「め（目）」を1最小単位とはせず，「め（目）」を含む全体で1最小単位とする。

（1）他規定によって1最小単位と認定されるもの
【例】　／め=くるめく／　　／め=じろ／　　／め=ぼしい／　　／目ま=ぐるしい／

（2）現在語源意識が極めて希薄であるもの等
【例】　／め=ど／

１０　語の構成要素となっている古語は，以下の規定によって最小単位を認定する。

１０．１　語の構成要素となっている動詞が，文語の活用形を残存している場合にも，それを１最小単位と認定する。
【例】　／あし／げ／（足蹴）　／こじ／開ける／　／攀じ／登る／

１０．２　文語の助詞「つ」及びその母音交替形や，助詞「の」の母音交替形，間投助詞「し」等の文語の助詞は，最小単位とせず全体で１最小単位とする。
【例】　／ある=い=は／　／今=し=がた／　／ひ=な=た／　／ま=つ=毛／
／果て=し=ない／

１０．３　１語化した語の中に残存する文語の助動詞は，１最小単位としない。
【例】　／あら=まし／　／いわ=ゆる／

１１　以下に挙げる要素は，最小単位としない。

（１）指示代名詞の構成要素「あ」「か」「こ（ん）」「さ」「そ（ん）」等
【例】　／あそこ／　／あちら／　／あなた／　／あの／　／かの／
／きゃつ／　／こいつ／

（２）疑問代名詞・疑問副詞などの構成要素「いか」「いく（幾）」「ど」等
【例】　／いか=なる／　／いく=た／　／いく=ばく／　／いく=ら／

（３）単独では動植物を示すことがない一般語が複数結合し，動植物名として用いられている語の構成要素，及び構成要素の一部に動植物名を含むが，結合した全体は個々の構成要素が表す動植物とは無関係な動植物を表す語の構成要素
【例】　／あさ=がお／　／いし=もち／　／かた=つむり／　／き=くらげ／

（４）競走馬名などの構成要素
【例】　／マチ=カネ=フク=キタル／　／マチ=カネ=ワラウ=カド／

１２　以上に定めたもののほか，問題となる語の最小単位認定について，次に一覧する。

（１）次に挙げる語は，元々は二つ以上の要素から成るが，現在は既に１語と意識されていると考えられるため，全体で１最小単位とする。

《あ》
仰向け（アオムケ）　足掻く（アガク）　論う（アゲツラウ）　曙（アケボノ）
浅はか（アサハカ）　朝ぼらけ（アサボラケ）　嘲笑う（アザワラウ）
汗疹（アセモ）　厚かましい（アツカマシイ）　呆気（アッケ）
あっけらかん　当てずっぽう（アテズッポウ）　あどけ（ない）（アドケ（ナイ））
脂ぎる（アブラギル）　油ぎる（アブラギル）　あやふや（アヤフヤ）
現人（神）（アラヒト（ガミ））　在処（アリカ）　有りふれる（アリフレル）
経緯（イキサツ）　行成（イキナリ）　藺草（イグサ）
居た堪れる（イタタマレル）　鼾（イビキ）　息吹き（イブキ）
鋳師（イモジ）　いんちき（インチキ）　後ろめたい（ウシロメタイ）
団扇（ウチワ）　自惚れる（ウヌボレル）　ウバメ（ガシ）
羨ましい（ウラヤマシイ）　羨む（ウラヤム）　浮つく（ウワツク）

得手（エテ）　干支（エト）　花魁（オイラン）　大凡（オオヨソ）
落ちぶれる（オチブレル）　オトギリ　一昨日（オトトイ）
一昨年（オトトシ）　乙女（オトメ）　覚束無い（オボツカナイ）
おわします　おんぼろ

《か》

神楽（カグラ）　駆けずる（カケズル）　瘡蓋（カサブタ）　気質（カタギ）
片栗（粉）（カタクリ（コ））　忝い（カタジケナイ）　象る（カタドル）
形見（カタミ）　竈（カマド）　蒲鉾（カマボコ）　我楽多（ガラクタ）
カラタチ　木こり（キコリ）　如月（キサラギ）　きな粉（キナコ）
木目（キメ）　際どい（キワドイ）　際どい（キワドイ）　草薙（クサナギ）
嘴（クチバシ）　毛羽（ケバ）　毛むくじゃら（ケムクジャラ）
煙たい（ケムタイ）　悉く（コトゴトク）　異なる（コトナル）
言葉（コトバ）　寿ぐ（コトホグ）　諺（コトワザ）　小間（コマ）

《さ》

桟敷（サジキ）　皐月（サツキ）　最中（サナカ）　ザリガニ
潮騒（シオサイ）　しこたま　枝垂れる（シダレル）　芝居（シバイ）
僕（シモベ）　白ける（シラケル）　しるべ　辛抱（シンボウ）
スダチ（スダチ）　簾（スダレ）　すっからかん　すっ込む（スッコム）
住処（スミカ）　背子（セコ）　そそくさ　某（ソレガシ）

《た》

畳付く（タタナヅク）　忽ち（タチマチ）　七夕（タナバタ）
たなびく　容易い（タヤスイ）　ちぎれる　稚児（チゴ）
司る（ツカサドル）　辻褄（ツジツマ）　恙ない（ツツガナイ）
津波（ツナミ）　唾（ツバ）　ツバキ　鶴嘴（ツルハシ）　釣瓶（ツルベ）
出しゃばり（デシャバリ）　出しゃばる（デシャバル）　出鱈目（デタラメ）
てんでん（テンデン）　途切れ（トギレ）　途切れる（トギレル）
途絶える（トダエル）　怒鳴る（ドナル）　とびきり（トビキリ）
戸惑い（トマドイ）　戸惑う（トマドウ）　止めど（トメド）
鳥居（トリイ）　虜（トリコ）　砦（トリデ）　取り分け（トリワケ）
ドングリ　とんでも（ない）

《な》

名うて（ナウテ）　亡くなる（ナクナル）　なけなし　何某（ナニガシ）
名乗り（ナノリ）　名乗る（ナノル）　名乗れる（ナノレル）
なまじっか（ナマジッカ）　何ぼ（ナンボ）　ねんね　仰け反る（ノケゾル）
のさばる

《は》

羽織（ハオリ）　羽交い（ハガイ）　葉書（ハガキ）　捗る（ハカドル）
儚い（ハカナイ）　儚む（ハカナム）　狭間（ハザマ）　梯子（ハシゴ）
ハタハタ　葉っぱ（ハッパ）　餞（ハナムケ）　埴輪（ハニワ）
羽根（ハネ）　原っぱ（ハラッパ）　遥々（ハルバル）　日がな（ヒガナ）
蹄（ヒヅメ）　ひねくれる　日和る（ヒヨル）　平たい（ヒラタイ）
平たく（ヒラタク）　ひれ伏す（ヒレフス）　広げる（ヒロゲル）
ふくらはぎ　不貞腐れる（フテクサレル）　へたばる　部屋（ヘヤ）
ほくそ笑む（ホクソエム）　ほっつき[歩く]　迸る（ホトバシル）

《ま》

馬子（マゴ）　実しやか（マコトシヤカ）　まさか　真砂（マサゴ）
真面目（マジメ）　混ぜこぜ（マゼコゼ）　まっしぐら　真秀ろば（マホロバ）
マムシ　丸切り（マルキリ）　晦日（ミソカ）　見附（ミツケ）
見惚れる（ミトレル）　ミヤマ　蝕む（ムシバム）　息子（ムスコ）
群がる（ムラガル）　娶る（メトル）　目眩（メマイ）　基づく（モトヅク）

裳抜け（モヌケ）　最早（モハヤ）　最寄り（モヨリ）

《や》

館（ヤカタ）　やきもき　火傷（ヤケド）　屋敷（ヤシキ）　やっとこ
やっとこさ　屋根（ヤネ）　矢張り（ヤハリ）　流鏑馬（ヤブサメ）
山びこ（ヤマビコ）　昨夜（ユウベ）　夕べ（ユウベ）　湯がく（ユガク）
行きずり（ユキズリ）　行方（ユクエ）　蘇る（ヨミガエル）
四方山（ヨモヤマ）　夜半（ヨワ）

《わ》

轍（ワダチ）　ワビスケ

（2）次に挙げる語の下線部は，現在単独で用いられることがない，あるいはほとんどない要素である。しかし，それを構成要素に持つ語について，現在のところ複数の構成要素から成る語であると意識されており，その要素も複数の語の中に認められるなど，一定の独立性を持っていると考えられるため，1最小単位とする。

《あ》

／あから／さま／　／朝な／朝な／　／朝な／夕な／　／あだ／名／
／新／巻／　／熱り／立つ／　／投げ／うつ／　／産／声／　／産／湯／
／うろ／覚え／　／うろ／つく／　／うわ／ごと／　／生き／餌／
／撒き／餌／　／笑／顔／　／生い／立ち／　／おい／どん／
／面／影／　／面／持ち／

《か》

／嵩／張る／　／わり／かし／　／神／主／　／色／きち／
／くす／だま／　／無茶／苦茶／　／滅茶／苦茶／　／かま／くら／
／おし／くら／

《さ》

／遠／ざかる／　／今／更／　／殊／更／　／しか／じか／
／しず／しず／　／じり／安／　／代／物／　／道／すがら／
／後／ずさり／　／炭／すご／　／せせら／笑う／　／ぞろ／目／
／寝／そべる／

《た》

／横／たえる／　／塗り／たくる／　／耳／たぶ／　／だふ／屋／
／たわ／ごと／　／横／たわる／　／千／尋／　／千／代／
／乳／飲み／子／　／乳／首／　／ちょめ／ちょめ／　／はい／つくばる／
／てんや／わんや／　／常／夏／　／常／世／　／どさ／くさ／
／どさ／回り／　／とど／松／　／どんでん／返る／　／どんど／焼き／

《な》

／ぬるま／湯／　／のんべん／だらり／

《は》

／端／唄／　／端／ぎれ／　／羽／ばたく／　／はし／ぶと／
／はし／ぼそ／　／はす／向かい／　／はちゃ／めちゃ／　／食み／瓜／
／はみ／出す／　／はみ／出る／　／曽／孫／　／久／方／
／引っこ／抜く／　／芝／生／　／舳／先／　／海／辺／　／川／辺／
／岸／辺／　／へし／合い／　／へし／折る／　／へり／くだる／
／痩せ／っぽち／　／洞／穴／　／ほろ／苦い／

《ま》

／ぶち／まける／　／まて／貝／　／まてば／しい／　／まな／板／
／継／子／　／継／母／　／まま／ごと／　／血／みどろ／
／むく／鳥／　／女／神／　／やたら／めったら／　／めり／はり／
／もも／とり／　／諸／手／　／諸／刃／　／諸／々／

《や》

／八百／屋／　　／八百／万／　　／青／柳／　　／朝な／夕な／
／ゆすら／うめ／　　／夜な／夜な／

《わ》

／板／わさ／　　／てんや／わんや／

第３　最小単位の分類

短単位を認定するために，最小単位を以下のように分類する。

表３．１　最小単位の分類

分　類	例
一　般	和　語　：　山　川　白い　話す　言葉　…
	漢　語　：　社　会　用　研　究　所　…
	外来語　：　オレンジ　ボックス　アルゴリズム　…
付属要素	接頭的要素（「要注意語」の「接頭的要素」に掲げたもの。） ：　相　御（お）　各　御（ご）　…
	接尾的要素（「要注意語」の「接尾的要素」に掲げたもの。） ：　合う　致す　っぽい　性　的　…
記　号	Ａ　Ｂ　ω　イ　ロ　ア　ＮＨＫ　ＪＲ　…
数	一　二　十　百　千　…　幾　数　何
固有名	人　名　：　星野　仙一　ジェフ　ウィリアムス　橋龍　…
	地　名　：　大阪　待兼山町　六甲　天六　…
助詞・助動詞	う　た　です　ます　か　から　て　も　…

1　音や文字・語の断片※を指示したものについては，「記号」に分類する。
【例】　｜ヒ｜と｜シ｜の｜発音｜　｜片仮名｜の｜ヨ｜
｜不仲｜に｜なる｜と｜いう｜時｜の｜不｜を｜用い｜て｜

※　ここで言う語の断片とは，次に挙げるものである。
- 漢語は１短単位未満のもの。
- 和語・外来語は１最小単位未満のもの。ただし活用語の語幹は除く。

2　ヒトリ（一人）・フタリ（二人）は，「一般」に分類する。

3　「幾」「数」「何」が「幾人」「数百」「何個」のように不定の数を表す場合は，「数」に分類する。

4　数詞のうち数え進むことのできないものは，「一般」に分類する。数え進むことができないとするものの例を次に示す。
【例】　一応　一家　一見　一心　一新　一定　一端　一変　一味　一命　一様
一利

一足違い
ひときわ　ひとしお　ひとしきり　ひとまず
二枚目　ふたご
三角　三振　御三家　みつどもえ
四角　四季　四球　四捨（五入）　四天王
五臓　五輪
六腑
七転　七面鳥
（口）八丁　八倒　八起き
十字架　十文字
十八番
百科　百害　百姓　（日本）百景
千載
万一　万国　万物

※　以上のほか，学年を表す「小六」「中二」「高三」なども数え進むことのできないものとして扱う。

Ⅱ　短単位認定規程　Version 1.3

第１　短単位認定規程

短単位は，長単位（長単位認定規程 Version 1.0によって規定されるもの）の中で，最小単位が，以下の規定に基づいて結合した（又は結合しない（これは０回結合と考える））結合体である。

短単位の認定に関する規定は，最小単位認定規程 Version 1.3の「第３ 最小単位の分類」で分類した種類ごとに適用すべき規定が定められている。以下に，それを示す。

１　一般

原則として，「一般」に分類した和語・漢語の最小単位２個の１次結合は１短単位とする。

【例】　｜母=親｜　｜書き=言葉｜　｜食べ=歩く｜　｜音=声｜
｜無=口｜

｜言い｜方｜が｜ま‖多分‖文法‖的｜に｜は｜
‖部分‖で‖法案‖を‖整え直す‖こと｜に｜なる｜
｜いわゆる‖ガイドライン‖関連‖法｜案｜に｜
‖対応‖方針‖など｜に‖対し‖ます‖国会‖の｜
‖ぐるぐる‖回る｜
‖ぐるぐる‖っと｜回る｜　‖ぐるぐる‖ぐるぐる‖っと｜回る｜

「一般」に分類した外来語の最小単位のうち省略されたものは，和語・漢語の最小単位と同様に扱う。

【例】　｜パソ=コン｜　｜オートマ=車｜　｜塩=ビ｜

１．１　以下に挙げるものは，３最小単位以上の結合であっても全体で１短単位とする。

（１）三つ以上の最小単位から成る組織名等の略称

【例】　｜日=経=連｜　｜奈=文=研｜　｜統=数=研｜

※　ここでいう略称とは，組織名を構成する短単位すべて又はその一部を略して結合させたもののことである。したがって，以下のような構成要素の一部（「国語」「党」）が略されていないものは，略称とはしない。

【例】　｜国立｜国語｜研究所｜　⟶　｜国語｜研｜
｜自由｜民主｜党｜　⟶　｜自民｜党｜

（２）切る位置が明確でないもの，あるいは切った場合と一まとめにした場合とで意味にずれがあるもの

【例】　｜大統領｜　｜不可解｜　｜明後日｜　｜殺風景｜
｜輸出入｜　｜国内外｜　｜町村長｜　｜原水爆｜　｜市町村長｜
｜大袈裟｜　｜大雑把｜　｜大丈夫｜　｜一辺倒｜
｜十文字｜　｜二枚目｜　｜十八番｜

ただし，二つ以上の漢語の最小単位が並列して，１短単位と結合している場合は，次のように短単位を認定する。

【例】　｜中｜小｜企業｜　｜小｜中｜学校｜　｜都｜道｜府｜県｜知事｜

（３）資料「要注意語」の「―の～」「―が～」に挙げたもの

【例】

「―の～」　：　｜日=の=丸｜　｜床=の=間｜　｜竹=の=子｜

「―が～」　：　｜君=が=代｜

１．２　以下に挙げるものは，１最小単位を１短単位とする。

（◆ver.1.3修正）

（１）外来語・外国語の最小単位

【例】　｜オレンジ｜色｜　｜インサーション｜ペナルティー｜
｜スペクトル｜パラメーター｜
｜アウト｜オブ｜ドメイン｜　｜ショアーズ｜アット｜ワイコロア｜
｜基本｜レフト｜トゥー｜ライト｜構造｜　｜コール｜フォー｜ペーパー｜

ただし，省略された外来語の最小単位との１次結合体は１短単位とする。

【例】　｜エア=コン｜　｜マス=コミ｜　｜デフレ=スパイラル｜

※　元は省略された外来語の最小単位であるが，省略されたものとして扱わないものがある。それについては補則１を参照。

（２）最小単位が三つ以上並列した場合の，それぞれの最小単位

【例】　｜衣‖食‖住｜　｜松‖竹‖梅｜　｜都‖道‖府‖県｜

（３）名を表す部分と類概念を表す部分とが結合してできた固有名のうち，名を表す部分・類概念を表す部分が共に１最小単位である場合の，それぞれの最小単位

【例】　｜さくら‖屋｜　｜のぞみ‖号｜　｜くれない‖会｜

ただし，名を表わす部分が１字の漢語である場合は，その１次結合体を１短単位とする。

【例】　｜阪=大｜　｜仏=教｜　｜儒=教｜

（４）言いよどみ

【例】　｜こ｜ここ｜から｜　｜最｜、｜最初｜の｜

（５）規定１，１．１，１．２の（１）から（４）によって得られた短単位に，前又は後ろから結合した最小単位

【例】　｜内閣‖府‖　‖副‖大統領｜　｜橋本‖元‖首相｜
｜光｜ファイバー‖網‖　｜自衛‖隊‖　｜国立｜国語｜研究‖所‖

（６）単独で文節を構成する最小単位

【例】　｜やっぱり｜これ｜も｜一｜つ｜の｜　｜オレンジ｜を｜食べる｜。｜
｜えーと｜、｜こちら｜の｜場合｜でし｜たら｜…｜…｜

（◆ver.1.3修正）

２　記号

記号は，１最小単位を１短単位とする。

【例】　｜表｜Ａ｜　｜図｜Ｂ｜　｜ＪＲ｜　｜ＮＴＴ｜　｜Ｌ．Ａ．｜

｜Ｅ‖が｜形態｜素｜情報‖Ｆ‖が｜分節｜音｜の｜ラベル｜
｜今回｜も‖ＮＴＴ‖データベース｜を｜用い｜て｜

‖P‖・‖J‖・｜ブラウン｜と｜ジュワン｜・｜ハワード｜だ｜。｜
｜東京｜・‖Y‖・‖N‖

2．1　それがないときに1短単位となるものの中にある記号は無視する。
【例】　｜しゅ=・=く=・=だ=・=い｜
｜四百｜十｜五｜条｜以下｜に｜規程｜が｜あ=」=る｜。｜
｜都心｜から｜一｜時間｜半｜どころ｜か｜、｜三=、=四十｜分｜、｜

3　数

数は，以下の規定によって単位認定する。

3．1　数は，ほかの最小単位と結合させない。
【例】　｜四‖月｜の‖三十‖日｜ぐらい｜
｜私｜が‖一二‖年｜前｜まで｜住｜ん｜で｜い｜た｜
｜コーパス｜全体｜で‖七百｜五十｜二｜万‖語｜
‖四十｜八‖キロヘルツ｜サンプリング‖十｜六‖ビット｜な｜ん｜です｜

3．2　数の間どうしの結合については，一・十・百・千の桁ごとに1短単位とする。「万」「億」「兆」などの最小単位は，それだけで1短単位とする。小数部分は，1最小単位を1短単位とする。
【例】　｜千‖九百‖四十‖二｜年｜十｜月｜二十‖五｜日｜、｜
｜現在｜は｜二千‖八百‖万‖円｜で｜売ら｜れ｜て｜いる｜
｜毎年｜何十‖億‖円｜も｜の｜都民｜の｜税金｜を｜
｜都心｜から｜一｜時間｜半｜どころ｜か｜、｜三-、-四十｜分｜、｜
｜平成｜六｜年度｜の｜タクシー｜代｜の｜総額｜が｜二十‖四-、-五｜※
億｜円｜に｜も｜なる｜が｜、｜

※　「四、五」を結合させるのは概数の場合に限る。並列の場合は結合させない。
【例】　｜妨害｜刺激｜の｜数｜は｜一‖二‖四‖六｜の｜四｜通り｜と｜し｜て｜
おり｜ます｜

4　固有名

固有名（人名・地名）は，1最小単位を1短単位とする。
【例】
〔人　名〕　｜星野｜仙一｜　｜ジェフ｜・｜ウィリアムス｜　｜林｜威助｜
｜千代大海｜　｜十返舎｜一九｜　｜おざけん｜

〔国　名〕　｜アメリカ｜合衆｜国｜　｜ロシア｜共和｜国｜
｜南アフリカ｜共和｜国｜

〔行政区画名〕｜東京｜都｜立川｜市｜緑町｜十｜番｜二｜号｜
｜京都｜市｜上京｜区｜今出川｜通｜烏丸｜東入る｜

〔地域名〕　｜中国｜地方｜　｜九州｜地方｜　｜四国｜地方｜
｜北海道｜地方｜
｜東海道｜　｜山陰道｜
｜東｜ヨーロッパ｜　｜南｜アメリカ｜

〔地形名〕　｜生駒｜山｜　　｜昭和｜新山｜　　｜サロマ｜湖｜

〔場所名〕　｜茨木｜市｜駅｜　　｜さいたま｜新｜都心｜駅｜
　　｜山陽｜本線｜　　｜大｜江戸｜線｜
　　｜東海道｜　　｜中山道｜

〔略　称〕　｜ちとから｜　　｜天六｜

4．1　地名を略した一字漢語の「日」「米」，それに相当する片仮名の「ロ」(「ロシア」の略）などは，「一般」の最小単位に分類されるので，規定1から1．2によって短単位認定する。

【例】　｜米国｜　　｜来日｜　　｜日ロ｜　　｜日｜米｜韓｜
　　｜日米｜安全｜保障｜条約｜
　　｜京阪｜地方｜　　｜阪奈｜自動｜車｜道｜

5　付属要素

付属要素は1最小単位を1短単位とする。

【例】　｜お‖母‖さん｜　　｜見‖にくい｜

5．1　付属要素に分類した動詞性接尾辞は，居体言の構成要素となっている場合も接尾的要素として扱う。

【例】　｜これ｜も｜使い‖過ぎ‖の｜誤り｜と｜いう｜こと｜に｜なり｜ます｜

5．2　付属要素に分類した動詞性接尾辞は，可能動詞形になっている場合も接尾的要素として扱う。

【例】　｜で｜それ｜は｜食べ‖切れ‖なく｜て｜三｜人｜で｜行っ｜た｜ん｜です
　　｜けど｜

6　助詞・助動詞

助詞・助動詞は1最小単位を1短単位とする。

【例】　｜統一｜的‖な‖視点‖で‖切り‖ましょ‖う‖
　　｜それ｜に｜つい｜て｜もっとも｜示唆｜に｜富む｜の｜は｜

6．1　助動詞として扱っている補助動詞縮約形は，可能動詞形になっている場合も助動詞として扱う。

【例】　｜結局｜(F あのー)｜ほっ‖とけ‖ない｜って｜いう｜ところ｜で｜
　　｜もう｜ちょっと｜調子｜悪く｜て｜連れ‖てけ‖ない｜

6．2　資料「要注意語」の「―の～」「―が～」に挙げられた語の中の助詞「の」「が」は，助詞・助動詞として扱わない。

【例】
「―の～」　：　｜日=の=丸｜　　｜床=の=間｜　　｜竹=の=子｜
「―が～」　：　｜君=が=代｜　　｜万=が=一｜

6．3　補則7に挙げた語の中の助詞・助動詞は1短単位とせず，それを含む全体で1短単位とする。

【例】　｜敢えて｜　　｜飽くまで｜　　｜却って｜

補則１　略語として扱わない外来語の最小単位

省略された外来語の最小単位のうち，表３．２に掲げたものは省略された外来語の最小単位として扱わない。これらの語を選定する際の観点は，以下のとおりである。

（１）元の語形が一般に余り使われることがない。
　【例】　テレビ（テレビジョン）　　ジム（ジムナジウム）
（２）原語に略語形がある。
　【例】　プロ（pro(プロフェッショナル)）　　キャップ（cap(責任者)）
（３）原語に類義の同語形がある。
　【例】　バイオ（バイオテクノロジー，bio（生物学））
（４）その他
　【例】　アマ（アマチュア）　……「プロ」を略語としないこととの対応

表３．２　略語として扱わない外来語の最小単位

アイゼン	（シュタイクアイゼンの略）	ニス	（ワニスの略）
アクセル	（アクセレレーターの略）	ネル	（フランネルの略）
アニメ	（アニメーションの略）	ノート	（ノートブックの略）
アパート	（アパートメント-ハウスの略）	ノンプロ	（nonprofessionalの略）
アマ	（アマチュアの略）	ノンポリ	（nonpoliticalの略）
アンプ	（アンプリファイヤーの略）	パーマ	（パーマネントウエーブの略）
イラスト	（イラストレーションの略）	バイオ	（バイオテクノロジーの略）
インテリ	（インテリゲンチャの略）	パブ	（pubulic houseの略）
イントロ	（イントロダクションの略）	ハンカチ	（ハンカチーフの略）
エキス	（エキストラクトの略）	ピケ	（ピケットの略）
エゴ	（エゴイスト，エゴイズムの略）	ビット	（binary dightの略）
エレキ	（エレキテルの略）	ビデオ	（ビデオテープ，ビデオテープレコーダー等の略）
オートバイ	（autobikeの略）	ビル	（ビルディングの略）
キャッチ	（キャッチャーの略）	プレミア	（プレミアムの略）
キャップ	（キャプテンの略）	プロ	（プロフェッショナルの略）
キロ	（キロメートル，キログラム，キロワット等の略）	ペーパー	（サンドペーパーの略）
コーポ	（コーポラスの略）	ホーム	（プラットホームの略）
コンテ	（コンティニュイティの略）	ポルノ	（ポルノグラフィーの略）
コンパ	（コンパニーの略）	マイク	（マイクロホンの略）
コンビ	（コンビネーションの略）	マンネリ	（マンネリズムの略）
ジム	（ジムナジウムの略）	ミス	（ミステークの略）
スーパー	（スーパーインポーズの略）	ミリ	（ミリグラムの略）
センチ	（センチメートルの略）	メカ	（メカニズムの略）
ダイヤ	（ダイヤグラムの略）	モノクロ	（モノクロームの略）
ダダ	（ダダイズムの略）	ラボ	（ラボラトリーの略）
デパート	（デパートメント-ストアの略）	リストラ	（リストラクチュアリングの略）
デマ	（デマゴギーの略）	リハビリ	（リハビリテーションの略）
テレビ	（テレビジョンの略）	リュック	（リュックサックの略）
トイレ	（トイレットの略）	レジ	（レジスターの略）
トランス	（transformerの略）	ロケ	（ロケーションの略）
ナンバリング	（numbering machineの略）	ロゴ	（ロゴタイプの略）

補則２　動詞「―（サ）ス」「―（サ）セル」

原則１　「―（サ）ス」という形の動詞は，語末「ス」「サス」を助動詞としない。
【例】　｜言わ=す｜　｜書か=す｜　｜食べ=さす｜　｜受け=さす｜

原則２　五段・サ変動詞の未然形＋助動詞「セル」，五段・サ変以外の動詞の未然形＋助動詞「サセル」に分析可能なものは，語末「セル」「サセル」を助動詞とする。
【例】　｜書か‖せる｜　｜食べ‖させる｜

※　動詞が「―（サ）セル［-(s)ase-ru］」によって派生し下一段に活用するもの。

細則１　サ変動詞には，短単位認定規程の規定５の適用を優先する。
【例】　｜彷彿｜さ‖せる｜　｜練習｜さ‖せ｜かける｜

細則２　五段・サ変動詞の未然形＋助動詞「セル」，五段・サ変以外の動詞の未然形＋助動詞「サセル」と分析できないものは，語末の「(サ) セル」を分割しない。
【例】　｜見=せる｜※1　｜着=せる｜※1　｜乗=せる｜※2　｜寄=せる｜※2

※１　「見る」「着る」は上一段動詞であるため，使役の助動詞としては「サセル」が接続し，「見させる」「着させる」となる。したがって，語末の「セル」を助動詞として切り出すのは，助動詞「セル」の接続の上で適切ではない。
［参照］　｜見‖させる｜　｜着‖させる｜

※２　関係の認められる「乗る」「寄る」は五段動詞であるが，使役の助動詞「セル」は五段動詞の未然形接続であるので，語末の「セル」を助動詞として切り出すのは，助動詞「セル」の接続の上で適切ではない。
［参照］　｜乗ら‖せる｜　｜寄ら‖せる｜

細則３　元の動詞が文語動詞であるもの，口語動詞であっても，現代語ではほとんど使われないものについては，語末の「(サ) セル」を分割しない。
【例】　｜くゆら=せる｜　｜遅ら=せる｜　｜そばだた=せる｜

※　元の動詞は，以下のとおり。
くゆらせる　→　くゆる（ラ行四段）
遅らせる　→　遅る（ラ行下二段）
そばだたせる　→　そばだつ（タ行五段）

細則４　「―（サ）セル」という形の複合動詞（連用形が名詞化したものも含む。）については，語末の「(サ) セル」を分割しない。
【例】　｜言い聞か=せる｜　｜言い聞か=せ｜続ける｜

※　元の動詞が現代語に存在しないものや，存在したとしても元の動詞と「―（サ）セル」形との間で意味にずれが認められるものが多いことから，一律に語末の「(サ) セル」を助動詞として切り出さないこととした。
言い聞かせる　→　＊言い聞く

細則５　「―（サ）セル」という形の動詞（複合動詞は除く。）が，１最小単位と結合して複合語を構成している場合，動詞の語末「（サ）セル」は分割しない。

【例】　｜食わ=せ=物｜　｜人騒が=せ｜　｜人泣か=せ｜　｜番狂わ=せ｜

ただし，「―（サ）セル」という形の動詞（複合動詞は除く。）が付属要素と結合する場合，短単位認定規程の規定５によって，付属要素を分割した上で，動詞に当たる部分に本補則の原則２を適用する。

【例】　｜思わ‖せ‖振り｜

補則３　可能動詞

（１）可能動詞は，元になった五段活用動詞と同様に短単位を認定する。

【例】　｜読める｜　｜行ける｜　｜離せる｜
｜切り離せる｜　｜話し合える｜

（２）ら抜き言葉は語末の「れる」を切り出さない。

【例】　｜着=れる｜　｜来=れる｜　｜食べ=れる｜
｜見=れる｜　｜透かし見=れる｜　｜こじ開け=れる｜

補則４　文節との関係

１最小単位の体言と１最小単位の用言とが連接した場合に，１短単位として結合させるか否かの判断基準を補則４の１，補則４の２として示す。なお，以下の補則によって１短単位としないとされた体言＋用言の形式については，体言と用言との間に文節の切れ目があると考える。

【例】　｜茜‖さす｜　｜頼り‖ない｜　｜違い‖ない｜

補則４の１　体言＋動詞

２最小単位から成る動詞のうち，体言＋動詞という形式のものについては，以下の規定に基づいて短単位を認定する。

原則　『岩波国語辞典』第６版，『日本国語大辞典』第２版のいずれか一方で，見出し語になっているものは１短単位とする。

【例】　｜苔=むす｜　｜心=ゆく｜　｜夢=見る｜

細則１　『岩波国語辞典』第６版と『日本国語大辞典』第２版の両方で連語とされているもの，又は一方の辞典にしか立項されておらず，なおかつその辞典で「連語」とされているものは，体言の後ろで分割し，２短単位とする。子見出しとして掲出されている場合も同様とする。

【例】　｜茜‖さす｜

細則２　複合語の先頭又は中間に位置する体言＋動詞（連用形）については，原則及び細則１を適用せず，１短単位とする。

【例】　｜波=打ち｜際｜　｜菜=切り｜包丁｜　｜血=吸い｜コウモリ｜

※　体言＋動詞の品詞については，以下のように判定する。

①『岩波国語辞典』第６版，『日本国語大辞典』第２版のいずれか一方で，見出

し語になっているものは，同語異語判別規程 Version 1.0の細則４に基づいて動詞か名詞かを判定する。

【例】　波打ち（際）　……　動詞

②『岩波国語辞典』第６版，『日本国語大辞典』第２版のいずれにおいても動詞として立項されていないもの，両方に立項されているが，「連語」とされているもの，又は一方の辞典にしか立項されておらず，なおかつその辞典で「連語」とされているものは，名詞とする。

【例】　菜切り（包丁），血吸い（コウモリ）　……　名詞

補則４の２　体言＋形容詞

２最小単位から成る形容詞のうち，体言＋形容詞という形式のものについては，以下の規定に基づいて短単位を認定する。

原則　『岩波国語辞典』第６版，『日本国語大辞典』第２版のいずれか一方で，見出し語になっているものは１短単位とする。

（１）体言＋「ナイ（無）」

※　『岩波国語辞典』第６版，『日本国語大辞典』第２版のいずれかで見出し語になっているものを次に挙げる。１短単位とする「体言＋「ナイ（無）」」は，原則として次に挙げるものとする。

あえない（敢え無い）　あじきない（味気無い）　あじけない（味気無い）
あじない（味無い）　あやない（文無い）　いろない（色無い）
いわれない（謂われ無い）　うつつない（現無い）　おしみない（惜しみ無い）
おぼつかない（覚束無い）　おやげない（親気無い）　おやみない（小止み無い）
およびない（及び無い）　かいない（甲斐無い）　かぎりない（限り無い）
かくれない（隠れ無い）　きわまりない（極まり無い）　こころない（心無い）
こころもとない（心許無い）　ござない（御座無い）　さだめない（定め無い）
ざんない（慙無い）　しおない（潮無い）　しだらない（しだら無い）
じつない（術無い）　じゅつない（術無い）　すげない（素気無い）
すじない（筋無い）　ずつない（術無い）　ずない（図無い）
すべない（術無い）　せんない（詮無い）　そっけない（素っ気無い）
たあいない（たあい無い）　だいもない（大も無い）　たゆみない（弛み無い）
だらしない（だらし無い）　たわいない（たわい無い）　ちからない（力無い）
つきもない（付きも無い）　つつがない（恙無い）　ならびない（並び無い）
にげない（似気無い）　にべない（鰾膠無い）　はかない（儚い）
へんない（篇無い）　ほどない（程無い）　みっともない（みっともない）
やごとない（止事無い）　やむない　やんごとない（止ん事無い）
ゆるぎない（揺るぎ無い）　よしない（由無い）　らちない（埒無い）

（２）体言＋「ナイ（甚）」

※　以下に挙げたのは，飽くまで語例である。「１最小単位＋ナシ（甚）」という語構成のナシ（甚）型形容詞は，以下の語と同様に１短単位とする。

あたじけない　あどけない　あらけない（荒気ない）
いたいけない（幼気ない）　いわけない　ぎごちない　しどけない
せつない（切ない）　せわしない（忙しない）　はしたない　むげない

（３）上記以外の体言＋形容詞

語例略

細則　『岩波国語辞典』第６版と『日本国語大辞典』第２版の両方で連語とされているもの，又は一方の辞典にしか立項されておらず，なおかつその辞典で「連語」とされているものは，体言の後ろで分割し，２短単位とする。子見出しとして掲出されている場合も同様とする。

【例】　｜頼り‖ない｜　　｜違い‖ない｜　　｜訳‖ない｜

関連事項　資料「要注意語」の「接頭的要素」に掲げていない接頭辞又は語素と１最小単位の形容詞との結合体は１短単位とする。

【例】　｜うら=寂しい｜　　｜うら=恥ずかしい｜　　｜うら=若い｜
　　｜け=だるい｜　　｜もの=悲しい｜　　｜ほの=明るい｜
　　｜ほの=暗い｜　　｜ほの=白い｜

補則５　副詞「と」「かく」を含む短単位

副詞「と」「かく」を含む全体で１短単位とする。

【例】　｜とある｜　　｜兎角｜　　｜兎に角｜　　｜ともあれ｜
　　｜兎も角｜　　｜とても｜　　｜とにもかくにも｜

補則６　固有名詞

一般に固有名詞とされるものに関する短単位認定の例を以下に示す。

（１）人名等

｜水戸｜黄門｜　　｜孫｜悟空｜

（２）組織等

｜マツモト｜キヨシ｜　　｜男闘呼｜組｜
｜グリーン｜ガーデン｜ハウス｜　　｜万九千｜神社｜

（３）駅名

｜東中野｜駅｜　　｜西日暮里｜駅｜　　｜駒沢｜大学｜前｜駅｜
｜栗駒｜高原｜駅｜　　｜新｜高島平｜駅｜　　｜新｜三河島｜駅｜
｜新｜大久保｜駅｜　　｜西｜八王子｜駅｜　　｜青山｜一｜丁目｜駅｜
｜外苑｜前｜駅｜　　｜半蔵｜門｜駅｜　　｜営団｜赤塚｜駅｜
｜京成｜上野｜駅｜　　｜祖師ヶ谷｜大蔵｜駅｜　　｜武蔵｜境｜駅｜
｜武蔵｜小山｜駅｜　　｜代々木｜上原｜駅｜　　｜千歳｜烏山｜駅｜
｜表｜参道｜駅｜　　｜二子｜玉川｜駅｜

（４）路線名

｜新｜玉川｜線｜　　｜磐越｜西線｜

（５）地形名

｜伊良湖｜岬｜　　｜大瀬崎｜　　｜プリンスエドワード｜島｜
｜浄土が浜｜　　｜瀬戸｜内｜　　｜瀬戸｜内海｜
｜耶馬｜渓｜　　｜大菩薩｜峠｜　　｜奥穂高｜岳｜

｜鬼押出｜

※　地形名と同じ行政区画名については，それが行政区画名として用いられていることが明確であれば分割しない。
　｜大分｜県｜下毛｜郡｜耶馬溪｜町｜

（6）場所名等
　｜北の丸｜公園｜　　｜岡田｜山｜古墳｜　　｜加茂｜岩倉｜遺跡｜
　｜吉野が里｜遺跡｜　　｜荒神｜谷｜遺跡｜　　｜田和山｜遺跡｜
　｜妻木晩田｜遺跡｜
　｜富士見｜坂｜　　｜区｜役所｜通り｜　　｜武田｜山｜トンネル｜
　｜八方｜尾根｜スキー場｜

※　場所名と同じ行政区画名については，それが行政区画名として用いられていることが明確であれば分割しない。
　｜東京都｜千代田｜区｜北の丸公園｜

補則7　助詞・助動詞を含む短単位

次に挙げる語の中の助詞・助動詞は1短単位とせず，それを含む全体で1短単位とする。

敢えて　飽くまで　改めて　あわよくば　至って　言わば　況や
得てして　押して　追って　概して　却って　予て　辛うじて
極めて　決して　さしたる　さして　定めて　強いて　すったもんだ
全て　せめて　総じて　達て　例えば　断じて　次いで　取り敢えず
並べて　初めて　初めまして　果たして　晴れて　延いては　翻って
別して　枉げて　分けて

参考　短単位の例

｜グルー｜文書｜
元｜駐日｜アメリカ｜大使｜ジョセフ｜・｜クラーク｜・｜グルー｜（｜千｜八百｜八十｜一｜千｜九百｜六十｜五｜年｜）｜は｜、｜歴代｜の｜駐日｜大使｜の｜なか｜で｜も｜ひときわ｜生彩｜を｜はなつ｜、｜アメリカ｜の｜代表｜的｜な｜職業｜外交｜官｜で｜あっ｜た｜。｜
彼｜は｜千｜九百｜三十｜二｜年｜から｜四十｜二｜年｜まで｜の｜約｜十｜年間｜を｜日本｜で｜過ごし｜、｜日米｜関係｜の｜調整｜に｜数多く｜の｜足跡｜を｜のこし｜た｜。｜
来日｜以来｜、｜グルー｜は｜満州｜事変｜後｜の｜日本｜軍部｜の｜台頭｜を｜つぶさ｜に｜観察｜する｜と｜とも｜に｜、｜日本｜の｜国際｜連盟｜脱退｜（｜三十｜三｜年｜三｜月｜）｜、｜日中｜戦争｜勃発｜（｜三十｜七｜年｜七｜月｜）｜、｜日｜独｜伊｜三｜国｜軍事｜同盟｜（｜四十｜年｜九｜月｜）｜、｜対日｜経済｜制裁｜（｜四十｜一｜年｜七｜月｜）｜、｜真珠｜湾｜奇襲｜攻撃｜（｜四十｜一｜年｜十｜二｜月｜）｜など｜、｜日米｜関係｜に｜決定｜的｜な｜転機｜を｜もたらし｜た｜重大｜な｜歴史｜的｜事件｜の｜ことごとく｜を｜直接｜に｜体験｜し｜た｜。｜
グルー｜の｜主著｜は｜、｜この｜十｜年｜に｜およぶ｜彼｜の｜滞日｜経験｜を｜まとめ｜た｜もの｜で｜あり｜、｜千｜九百｜四十｜四｜年｜五｜月｜に｜公刊｜さ｜れる｜と｜、｜アメリカ｜国民｜の｜あいだ｜に｜大きな｜反響｜を｜よびおこし｜た｜。｜

｜最後｜に｜雑誌｜「｜エンターテインメント｜・｜ウイークリー｜」｜に｜載っ｜た｜映画｜評｜を｜紹介｜し｜よう｜。｜
｜「｜ＵＰＳＩＤＥ｜／｜Ｉｔ｜　｜ｃｏｕｌｄ｜　｜ｂｅ｜　｜ａ｜　｜Ｂｅｓｔ｜｜Ｆｏｒｅｉｇｎ｜　｜Ｌａ－ｎｇｕａｇｅ｜　｜Ｆｉｌｍ｜　｜ｃｏｎｔｅｎｄｅｒ｜　｜ａｔ｜　｜ｎｅｘｔ｜　｜ｙｅａｒ’ｓ｜　｜Ｏｓ－ｃａｒｓ｜．｜（｜来年｜の｜アカデミー｜賞｜で｜最｜優秀｜外国｜語｜映画｜賞｜を｜獲得｜する｜可能｜性｜が｜ある｜）｜ＤＯＷ－ＮＳＩＤＥ｜／｜Ｓｕｂｔｉｔｌｅｓ｜（｜字幕｜付き｜）｜」｜（｜追記｜／｜さて｜六｜月｜二十｜七｜日｜公開｜予定｜が｜、｜あと｜一｜週間｜と｜迫っ｜た｜ところ｜で｜突然｜七｜月｜十｜一｜日｜に｜延期｜。｜
その｜理由｜は｜、｜マーケティング｜の｜結果｜だ｜そう｜だ｜）｜

｜タマチャリ｜と｜は｜比較｜に｜なら｜ない｜機動｜性｜と｜耐久｜性｜を｜装備｜米軍｜の｜「｜ハマー｜」｜の｜名｜が｜冠せ｜られ｜た｜自転｜車｜に｜乗ろ｜う｜ハマー｜折りたたみ｜マウンテン｜バイク｜
｜中国｜や｜タイ｜ほど｜で｜は｜ない｜が｜、｜日本｜も｜世界｜屈指｜の｜自転｜車｜大国｜。｜通勤｜通学｜、｜また｜は｜日常｜の｜足｜と｜し｜て｜自転｜車｜を｜利用｜し｜て｜いる｜人｜は｜多い｜こと｜だろ｜う｜。｜そこ｜で｜、｜ちょっと｜他人｜と｜差｜を｜付け｜たい｜なら｜、｜こんな｜自転｜車｜に｜乗っ｜て｜は｜いかが｜だろ｜う｜か｜？｜
｜ＤＢＳ｜　｜ＪＡＰＡＮ｜から｜販売｜さ｜れ｜て｜いる｜「｜ハマー｜折りたたみ｜マウンテン｜バイク｜」｜は｜、｜米軍｜の｜軍用｜車｜・｜ハマー｜で｜有名｜な｜アメリカ｜ＧＭ｜社｜製｜の｜自転｜車｜。｜自転｜車｜と｜は｜いっ｜て｜も｜、｜ハマー｜の｜名前｜は｜ダテ｜で｜は｜なく｜、｜高い｜機動｜性｜と｜耐久｜性｜を｜兼ね備え｜た｜１｜台｜に｜なっ｜て｜いる｜。｜

第２　最小単位の結合の例

１　数詞関連

※　｜八｜番｜目｜　｜八｜個｜目｜　｜八｜回｜目｜　｜八｜年｜目｜

※　｜八｜か所｜　｜八｜か国｜
　　｜八｜か年｜　｜八｜か月｜　｜八｜か日｜
　　｜八｜か条｜

※　｜一｜年｜生｜　｜一｜回｜生｜　｜一｜期｜生｜

※　｜一｜月｜号｜

※　｜八｜週間｜　｜八｜日間｜　｜八｜時間｜　｜八｜分間｜　｜八｜秒間｜

２　曜日

｜日曜｜日｜　｜月曜｜日｜　｜火曜｜日｜

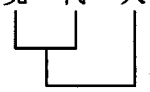
３　漢語の複次結合語

漢語の複次結合語について，語構造の解釈の仕方を示す。

ただし，短単位認定においては，以下に挙げた解釈とは異なる解釈をしても，結果的に認定される単位が同じという場合がある。例えば，（３）のａ）に※印を付けて示した「債権所有者」などがその例である。「債権所有者」の語構造は「債権を所有する者」と考えることとしているが，※印として示したように「債権の所有者」と考えても認定される単位は結果的に同じである。したがって，語構造の解釈について，すべて以下のとおりに解釈しなければならないというものではない。

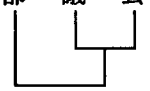
（１）３最小単位語

ａ）　現　代　人



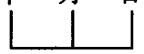
｜現代｜人｜　｜伝染｜病｜　｜昨年｜末｜　｜新築｜中｜　｜自主｜性｜
｜家庭｜用｜　｜全国｜的｜

ｂ）　都　議　会



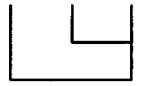
｜都｜議会｜　｜市｜庁舎｜　｜核｜軍縮｜　｜食｜中毒｜　｜正｜反対｜
｜総｜工費｜　｜全｜理事｜　｜大｜規模｜　｜不｜明朗｜　｜非｜能率｜
｜各｜選手｜　｜同｜理事｜

c）　年　月　日



｜年｜月｜日｜　｜松｜竹｜梅｜　｜衣｜食｜住｜

d）　句　読　点



｜都区内｜　｜統廃合｜　｜町村長｜

e）　国　内　外

｜国内外｜　｜輸出入｜

f）　〔構造を示すことができないと考えられるもの〕

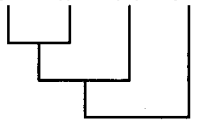
｜不可解｜　｜不思議｜

（2）4最小単位語

a）　火　災　防　止

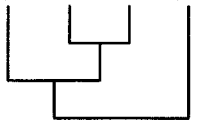
｜火災｜防止｜　｜公共｜事業｜

b）　幼　稚　園　児



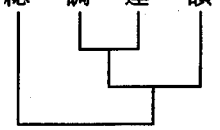
｜幼稚｜園｜児｜　｜郵便｜局｜長｜　｜警備｜員｜室｜　｜解剖｜学｜者｜

c）　中　学　校　長



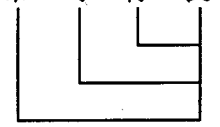
｜中｜学校｜長｜　｜法｜医学｜者｜

d）　総　調　達　額



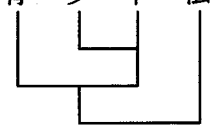
｜総｜調達｜額｜　｜軽｜飛行｜機｜　｜各｜管制｜塔｜　｜同｜動物｜園｜

e）　市　町　村　長



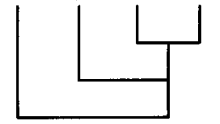
｜市町村長｜

f）　青　少　年　法



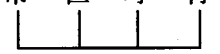
｜青少年｜法｜　｜小中学｜生｜

g）　小　中　学　校



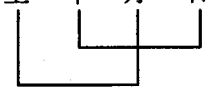
｜小｜中｜学校｜

h）　市　区　町　村



｜市｜区｜町｜村｜　｜都｜道｜府｜県｜

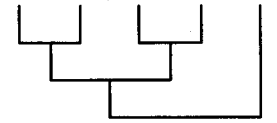
i）　生　年　月　日



｜生｜年｜月｜日｜

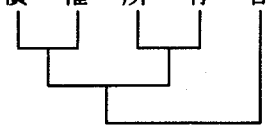
（３）５最小単位語

a）　試　験　放　送　中



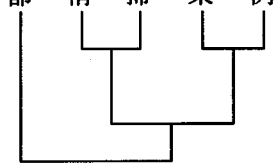
｜試験｜放送｜中｜　｜有線｜放送｜網｜　｜行政｜区画｜名｜
｜独占｜禁止｜法｜

※ 債 権 所 有 者



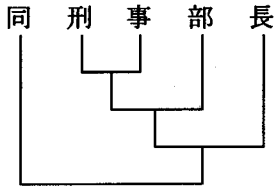
| 債権 | 所有 | 者 |　| 宇宙 | 飛行 | 士 |　| 沿岸 | 警備 | 隊 |
| 地震 | 観測 | 所 |　| 入試 | 改善 | 策 |

b） 都 清 掃 条 例



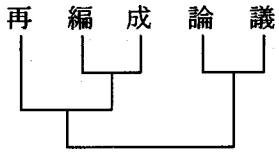
| 都 | 清掃 | 条例 |　| 準 | 保護 | 世帯 |

c） 同 刑 事 部 長



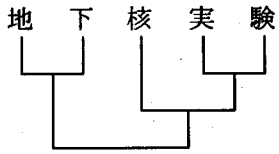
| 同 | 刑事 | 部 | 長 |　| 同 | 事務 | 所 | 長 |

d） 再 編 成 論 議



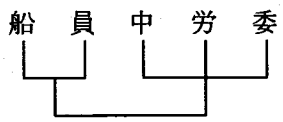
| 再 | 編成 | 論議 |

e） 地 下 核 実 験



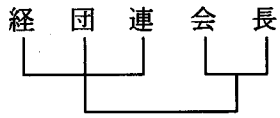
| 地下 | 核 | 実験 |

f） 船 員 中 労 委



| 船員 | 中労委 |

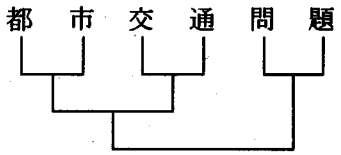
g） 経 団 連 会 長



| 経団連 | 会長 |

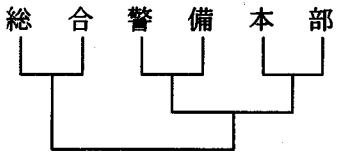
（4）6最小単位語

a）



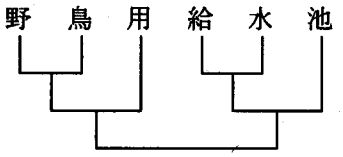
｜都市｜交通｜問題｜　｜消費｜減退｜傾向｜　｜高校｜全入｜運動｜

b）



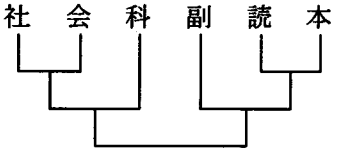
｜総合｜警備｜本部｜　｜事故｜合同｜会議｜

c）



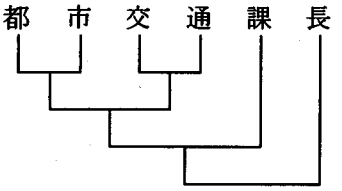
｜野鳥｜用｜給水｜池｜　｜自動｜車｜修理｜工｜

d）



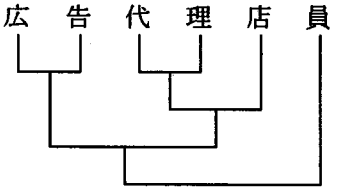
｜社会｜科｜副｜読本｜

e）



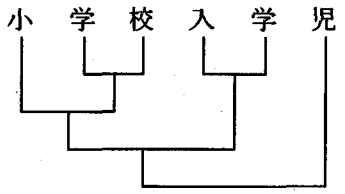
｜都市｜交通｜課｜長｜　｜宇宙｜開発｜史｜上｜

f）



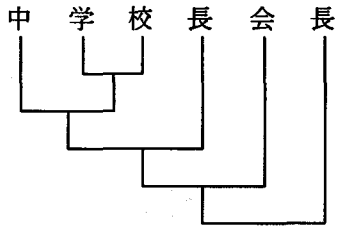
｜広告｜代理｜店｜員｜

g）



｜小｜学校｜入学｜児｜

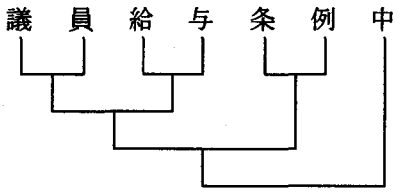
h）



｜中｜学校｜長｜会｜長｜

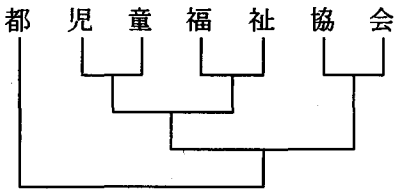
（５）７最小単位以上の語

a）



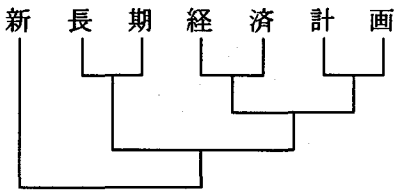
｜議員｜給与｜条例｜中｜

b）



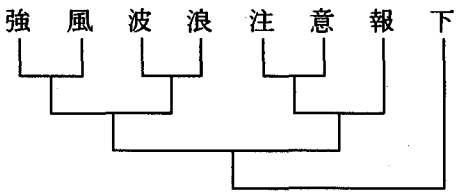
｜都｜児童｜福祉｜協会｜

c）



｜新｜長期｜経済｜計画｜

d）



｜強風｜波浪｜注意｜報｜下｜

Ⅲ　付加情報

第１　付加情報の概要

短単位認定規程によって認定された各単位に，次に挙げる付加情報を付与する。

１　代表形

代表形は，同一語の活用変化・音の転化・ゆれ・省略・融合等によって生じた異形態をグループ化するための情報である。原則として，コーパスに出現したすべての短単位に付与する。

２　代表表記

代表表記は，代表形に対する国語の表記である。原則として，コーパスに出現したすべての短単位に付与する。

３　品詞等の情報※

各単位に対して，品詞等の情報（以下，品詞情報）として，次に挙げる情報を付与する。

（１）品　詞
（２）活用型
（３）活用形

※　BCCWJの形態論情報付与作業では，解析用辞書にUniDic，解析エンジンに茶筌又はMeCabを用いている。そこで，本書では品詞情報としてUniDicのものを示すこととする。
　BCCWJの公開時には，UniDicの品詞情報を，より言語研究に適したものに変換することを考えている。

第２　品詞情報の概要

１　品詞

品詞は，次に挙げるものとする。

１．１　名詞

（１）名詞-普通名詞-一般

下記以外の普通名詞

【例】　母親　　国語　　エアコン

（２）名詞-普通名詞-サ変可能

形式的な意味の「いたす」「する」「できる」「なさる」などが直接続き，動詞として用いられることのあるもの。可能性を示すものであって，実際にサ変動詞の語幹として使われているか否かは問わない。

【例】　運動　　アクセス

（３）名詞-普通名詞-形状詞可能

助動詞「だ」が付いて述語になったり，連体修飾成分になったりするもの。可能性を示すものであって，実際に助動詞「だ」が付いているか否かは問わない。

【例】　安全　　健康　　アクティブ

（４）名詞-普通名詞-サ変形状詞可能

形式的な意味の「いたす」「する」「できる」「なさる」などが直接続き，動詞として用いられることのあるもので，助動詞「だ」が付いて連体修飾成分にもなるもの。可能性を示すものであって，サ変動詞の語幹として使われているか否か，形状詞として使われているか否かは問わない。

【例】　安心

（５）名詞-普通名詞-副詞可能

単独で連用修飾成分になるもの，及び句又は節による連体修飾を受けて，それ全体で連用修飾成分となるもの

【例】　今日　　毎日　　以上　　ため

（６）名詞-固有名詞-一般

下記以外の固有名詞。元号・商品名・ペットの名など。

【例】　平成　　ウィンドウズ　　ポチ

（７）名詞-固有名詞-人名-一般

下記に分類できない人名。姓と名とを共に略して作られたあだ名やしこ名なども含む。また，姓か名かの判定の難しい外国人名も，ここに分類する。

【例】　キリスト　　橘龍　　たむけん　　朝青龍

（８）名詞-固有名詞-人名-姓

人名のうち姓に当たるもの。落語家の亭号も含む。

【例】　星野　　ウィリアムス　　林　　三遊亭

（９）名詞-固有名詞-人名-名
人名のうち名に当たるもの
【例】　仙一　　ジェフ　　威助

（１０）名詞-固有名詞-地名-一般
国名以外の地名
【例】　大阪　　豊中　　待兼山町　　カリフォルニア

（１１）名詞-固有名詞-地名-国
地名のうち国名
【例】　日本　　アメリカ　　韓国

（１２）名詞-固有名詞-組織名
大学・企業などの組織の名称
【例】　ソニー　　キヤノン　　阪急　　阪大　　経団連

（１３）名詞-数詞
【例】　一　　二十　　幾（人）　　何百　　数千

（１４）名詞-助動詞語幹
一般に伝聞の助動詞とされる「そうだ」の語幹

１．２　代名詞
【例】　私　　それ

１．３　形状詞

（１）形状詞-一般
下記以外の，いわゆる形容動詞の語幹に当たるもの
【例】　静か　　健やか　　特別

（２）形状詞-タリ型
いわゆるタリ活用の形容動詞の語幹に当たるもの
【例】　釈然　　錚々

（３）形状詞-助動詞語幹
一般に助動詞とされる「そうだ」（様態）及び「ようだ」「みたいだ」の語幹に当たるもの

１．４　連体詞
【例】　あの　　大きな　　同じ

１．５　副詞
擬音語・擬態語を含む。名詞としての用法を持つものは，「名詞-普通名詞-副詞可能」とする。
【例】　しっかり　　決して　　がらんがらん　　ぐるっと

１．６　接続詞
【例】「しかし」「じゃ」「そして」

１．７　感動詞

（１）感動詞-一般
　　フィラー以外の感動詞
　【例】　いいえ　　おや　　はい

（２）感動詞-フィラー
　【例】　あの　　えーと　　えーっと

１．８　動詞

（１）動詞-一般
　　下記以外の動詞
　【例】「聞く」「来たる」「愛する」

（２）動詞-非自立可能
　　名詞に直接続くことのある「いたす」「する」「できる」「なさる」の類や補助動詞として動詞連用形や動詞連用形に接続助詞「て」を添えた形に接続することのあるもの。資料「要注意語」の「接尾的要素」に上げた語のうち，品詞を動詞とするものはここに分類する。可能性を示すものであって，実際に補助動詞として使われているか否かは問わない。
　【例】　する　　くる　　始める

１．９　形容詞

（１）形容詞-一般
　　下記以外の形容詞
　【例】　明るい　　美しい　　白い

（２）形容詞-非自立可能
　　形容詞・形容詞活用型助動詞の連用形や形容詞・形容詞活用型助動詞の連用形に接続助詞「て」を添えた形に接続し，補助的に用いられることのあるもの。可能性を示すものであって，実際に補助的に使われているか否かは問わない。
　【例】　ない　　欲しい　　よい

１．１０　助動詞

（１）助動詞
　　「要注意語」の「助動詞」に挙げたもの
　【例】　です　　とく　　べし

１．１１　助詞

「要注意語」の「助詞」に挙げたもの。なお，以下に示す助詞の分類は，「要注意語」の「助詞」に示した分類と異なるものがある。形態論情報付与作業では，UniDicにおける助詞の分類によることとする。

（１）助詞-格助詞
　【例】　が　　から　　で　　に　　の

（２）助詞-副助詞
【例】　か　　きり　　しか　　たって

（３）助詞-係助詞
【例】　こそ　　は　　も

（４）助詞-接続助詞
【例】　けれど　　つつ　　と　　なり　　ば

（５）助詞-終助詞
【例】　い　　か　　ね　　よ　　わ

（６）助詞-準体助詞
【例】　の

１．１２　接頭辞
【例】　相（変わらず）　　お（返事）　　第（１回）　　非（言語）

１．１３　接尾辞

（１）接尾辞-名詞的-一般
【例】　（国語）学　　（ペースト）状　　（お父）さん

（２）接尾辞-名詞的-サ変可能
名詞に接続してサ変動詞の語幹となり得る語を作るもの
【例】　（活性）化　　問題（視）

（３）接尾辞-名詞的-形状詞可能
名詞に接続して形状詞を作るもの
【例】　（健康）的　　（自慢）気（げ）

（４）接尾辞-名詞的-サ変形状詞可能
名詞に接続して作られた語が，サ変動詞の語幹となり得るもので，助動詞「だ」が付いて述語になったり，連体修飾成分になったりするもの
【例】　語例なし

（５）接尾辞-名詞的-副詞可能
名詞に接続して作られた語が，単独で連用修飾成分になり得るもの
【例】　（１平方メートル）当たり　　（停車）中　　（終戦）後

（６）接尾辞-名詞的-助数詞
【例】　個　　人（にん）　　メートル

（７）接尾辞-形状詞的
名詞・動詞の連用形に接続して形状詞を作るもの
【例】　（行き）過ぎ　　（具体）的　　ほこり（だらけ）

（８）接尾辞-動詞的
名詞・動詞の連用形・形容詞の語幹に接続して動詞を作るもの
【例】　（時）めく　　（哀れ）がる　　（でき）兼ねる　　（うれし）がる

（６）接尾辞-形容詞的
名詞・形状詞・動詞の連用形・形容詞の語幹に接続して形容詞を作るもの
【例】　（文章）らしい　　（安）っぽい　　（書き）易い

１．１４　記号

（１）記号-一般
下記以外の記号。箇条書きの項目名に使われた１文字の片仮名，地名以外の固有名を略した１文字の片仮名を含む。新聞記事の署名等で姓又は名を略した１文字の漢字を含む。
【例】　ブ（大統領）　　マ（社）

（２）記号-文字
アルファベットやギリシャ文字。
【例】　Ａ　　α　　Σ

１．１５　補助記号

（１）補助記号-一般
【例】　・　　△　　※　　－　　’

（２）補助記号-句点
【例】　。　　．　　！

（３）補助記号-読点
【例】　、　　，

（４）補助記号-括弧開
【例】　（　　《　　「

（５）補助記号-括弧閉
【例】　）　　》　　」

１．１６　空白
行頭の字下げなどの空白

表３．３　品　詞　一　覧

品　　詞	類
名詞-普通名詞-一般	体
名詞-普通名詞-サ変可能	体
名詞-普通名詞-形状詞可能	体
名詞-普通名詞-サ変形状詞可能	体
名詞-普通名詞-副詞可能	体
名詞-固有名詞-一般	固有名
名詞-固有名詞-人名-一般	人名
名詞-固有名詞-人名-姓	姓
名詞-固有名詞-人名-名	名
名詞-固有名詞-組織名	組織名
名詞-固有名詞-地名-一般	地名
名詞-固有名詞-地名-国	国
名詞-数詞	数
名詞-助動詞語幹	体
代名詞	体
形状詞-一般	相
形状詞-タリ	相
形状詞-助動詞語幹	助動
連体詞	相
副詞	相
接続詞	他
感動詞-一般	他
感動詞-フィラー	他
動詞-一般	用
動詞-非自立可能	用
形容詞-一般	相
形容詞-非自立可能	相
助動詞	助同
助詞-格助詞	格助
助詞-副助詞	副助
助詞-係助詞	係助
助詞-接続助詞	接助
助詞-終助詞	終助
助詞-準体助詞	準助
接頭辞	接頭
接尾辞-名詞的-一般	接尾体
接尾辞-名詞的-サ変可能	接尾体
接尾辞-名詞的-形状詞可能	接尾体
接尾辞-名詞的-サ変形状詞可能	接尾体
接尾辞-名詞的-副詞可能	接尾体
接尾辞-名詞的-助数詞	接尾体
接尾辞-形状詞的	接尾相
接尾辞-動詞的	接尾用
接尾辞-形容詞的	接尾相
記号-一般	記号
記号-文字	記号
補助記号-一般	補助
補助記号-句点	補助
補助記号-読点	補助
補助記号-括弧開	補助
補助記号-括弧閉	補助
空白	補助

2　活用型

短単位データベースに動詞を登録する際に付与する活用型のうち，現代語のコーパスにかかわる主なものを，以下に挙げる。

2．1　動詞

2．1．1　五段活用

（1）五段-ガ行
【例】　泳ぐ　　注ぐ

（2）五段-カ行-一般
下記以外のカ行五段活用動詞
【例】　空く　　頂く

（3）五段-カ行-イク
語形が「イク」のもの。連用形の音便形が促音便となる。
【例】　行く　　逝く

（4）五段-カ行-ユク
語形が「ユク」のもの。連用形に音便形がない。
【例】　行く　　逝く

（5）五段-サ行
【例】　致す　　話す

（6）五段-タ行
【例】　明け放つ　　育つ

（7）五段-ナ行
【例】　死ぬ

（8）五段-バ行
【例】　遊ぶ　　学ぶ

（9）五段-マ行
下記以外のマ行五段活用動詞
【例】　込む　　済む　　進む

（10）五段-ラ行-一般-一般
下記以外のラ行五段活用動詞
【例】　煽る　　売る

（11）五段-ラ行-アル-一般
助動詞「ます」が接続する場合に連用形がイ音便となる。命令形の語末が「い」である。
【例】　いらっしゃる　　おっしゃる　　下さる

（12）五段-ラ行-アル
動詞「有る」

（１３）五段-ワア行-一般
下記以外のワア行五段活用動詞
【例】　争う　　整う

（１４）五段-ワア行-ア段
語幹末尾がア段音のワア行五段活用動詞。連用形がウ音便になる場合，語幹末尾がオ段音に変わる。語幹が仮名書きされている場合，この変化が表記に現れる。
【例】　合う　　扱う　　損なう

（１５）五段-ワア行-イウ
動詞「言う」。連用形が「ユウ」と発音されることがある。

２．１．２　上一段活用

（１）上一段-ア行
【例】　居る　　射る

（２）上一段-カ行
【例】　飽きる　　出来る

（３）上一段-ガ行
【例】　過ぎる

（４）上一段-ザ行
【例】　甘んじる　　信じる

（５）上一段-タ行
【例】　落ちる　　満ちる

（６）上一段-ナ行
【例】　似る　　煮る

（７）上一段-ハ行
【例】　干る

（８）上一段-バ行
【例】　浴びる　　滅びる

（９）上一段-マ行
【例】　試みる　　見る

（１０）上一段-ラ行
【例】　下りる　　足りる

２．１．３　下一段活用

（１）下一段-ア行
【例】　会える　　得る

（２）下一段-カ行
【例】　赤茶ける　　行ける

（３）下一段-ガ行
【例】　上げる　　告げる

（４）下一段-ザ行
【例】　掻き混ぜる　　はぜる

（５）下一段-サ行
【例】　伏せる　　見せる

（６）下一段-タ行
【例】　当てる　　捨てる

（７）下一段-ダ行
【例】　出る

（８）下一段-ナ行
【例】　重ねる　　寝る

（９）下一段-ハ行
ア行下一段活用動詞を歴史的仮名遣いで表記したもの
【例】　言い換へる

（１０）下一段-バ行
【例】　遊べる　　食べる

（１１）下一段-マ行
【例】　止める　　誉める

（１２）下一段-ラ行--一般
下記以外のラ行下一段活用動詞
【例】　上がれる　　遅れる

（１３）下一段-ラ行-呉レル
動詞「呉れる」。命令形に「～よ」「～ろ」の形がなく，「くれ」である。

２．１．４　変格活用（口語）

（１）カ行変格
【例】　来る

（２）サ行変格-為ル
下記以外のサ行変格活用。単独の「する」。未然形で，助動詞「ず」が接続する場合に「せ」，「せる」が接続する場合に「さ」という区別がある。

（３）サ行変格-スル
「１字漢語＋する」の形のもの
【例】　愛する　　称する

（４）ザ行変格
【例】　甘んずる　　信ずる

２．１．５　文語四段活用

（１）文語四段-カ行
【例】　行く　　置く

（２）文語四段-ガ行
【例】　仰ぐ　　凌ぐ

（３）文語四段-サ行
【例】　明かす　　致す

（４）文語四段-タ行
【例】　うがつ　　放つ

（５）文語四段-バ行
【例】　遊ぶ　　滅ぶ

（６）文語四段-ハ行--一般
下記以外の文語ハ行四段活用動詞
【例】　争ふ　　追ふ

（７）文語四段-ハ行-ア段
語幹末尾がア段音の文語ハ行四段活用動詞。連用形がウ音便になる場合，語幹末尾がオ段音に変わる。語幹が仮名書きされている場合，この変化が表記に現れる。
【例】　会ふ　　買ふ

（８）文語四段-ハ行-イウ
動詞「言ふ」。連用形が「ユウ」と発音されることがある。

（９）文語四段-マ行
【例】　当て込む　　読む

（１０）文語四段-ラ行
【例】　煽る　　散る

２．１．６　文語上二段活用

（１）文語上二段-カ行
【例】　起く　　生く

（２）文語上二段-ガ行
【例】　過ぐ

（３）文語上二段-タ行
【例】　落つ　　満つ

（４）文語上二段-ダ行
【例】　閉づ　　恥づ

（５）文語上二段-ハ行
【例】　憂ふ

（６）文語上二段-バ行
【例】　浴ぶ　　滅ぶ

（７）文語上二段-マ行
【例】　試む

（８）文語上二段-ヤ行
【例】　飢ゆ　　報ゆ

（９）文語上二段-ラ行
【例】　降る　　懲る

２．１．７　文語下二段活用

（１）文語下二段-ア行
【例】　得る　　心得る

（２）文語下二段-カ行
【例】　避く　　溶く

（３）文語下二段-ガ行
【例】　上ぐ　　告ぐ

（４）文語下二段-サ行
【例】　乗す　　見す

（５）文語下二段-タ行
【例】　当つ　　捨つ

（６）文語下二段-ダ行
【例】　出づ　　撫づ

（７）文語下二段-ナ行
【例】　ぬ（寝）

（８）文語下二段-バ行
【例】　比ぶ　　並ぶ

（９）文語下二段-ハ行-一般
下記以外の文語ハ行下二段活用動詞
【例】　和ふ　　終ふ

（１０）文語下二段-ハ行-経
【例】　ふ（経）

（１１）文語下二段-マ行
【例】　留む　　止む

（１２）文語下二段-ヤ行
【例】　消ゆ　　燃ゆ

（１３）文語下二段-ラ行
【例】　暮る　　忘る

（１４）文語下二段-ワ行
【例】　植う

２．１．８　変格活用（文語）

（１）文語カ行変格
【例】　来

（２）文語サ行変格
【例】　す　　接す

（３）文語ザ行変格
【例】　信ず　　甘んず

（４）文語ナ行変格
【例】　死ぬ

（５）文語ラ行変格
【例】　あり　　居り

２．２　形容詞

２．１．１　口語活用

（１）形容詞-良イ
形容詞「良い」。「いい」という語形のものも含む。

（２）形容詞-無イ
形容詞「無い」。様態の助動詞「そうだ」が接続するとき，「無さ」という形を取る。この場合の「無さ」は語幹の一形態とする。

（３）形容詞-○段
①語幹末尾がア段音の形容詞は，連用形がウ音便になる場合に語幹末尾がオ段音になる。また，終止形・連体形の語幹末尾がエ段音になる場合がある（たかい→たけえ」）。②語幹末尾がウ段音の形容詞は，終止形・連体形の語幹末尾がエ段音になる場合がある（たかい→たけえ」）。③語幹末尾がオ段音の形容詞は，終止形・連体形の語幹末尾がエ段音になる場合がある（たかい→たけえ」）。
語幹が仮名書きされている場合，以上の変化が表記に現れる。
【例】　高い　　寒い　　重い

2．1．2　文語活用

（1）文語形容詞-ク
　　ク活用の形容詞。
　【例】　白し　　高し

（2）文語形容詞-シク-シク
　　下記以外のシク活用の形容詞
　【例】　美し　　楽し

（3）文語形容詞-シク-ジク
　　シク活用の形容詞のうち活用語尾の語頭が「じ」のもの
　【例】　いみじ

（4）文語形容詞-多シ
　　形容詞「多し」。終止形に「多し」のほか，「多かり」がある。

2．2　助動詞

助動詞の活用は，動詞・形容詞の活用と比べて個別的であるため，以下に示すように，助動詞ごとに活用型を立てている。

【例】　だ　……　活用型：助動詞-ダ
　　たい　……　活用型：助動詞-タイ
　　ず　……　活用型：文語助動詞-キ

なお，動詞と同じ活用型を付与するものもある。

【例】　たがる　……　活用型：五段-ラ行-一般-一般
　　てる　……　活用型：下一段-タ行

2．3　接尾辞

「接尾辞-動詞的」は動詞の活用型を，「接尾辞-形容詞的」は形容詞の活用型を付与する。

【例】　難い　……　活用型：形容詞-ア段
　　ばむ　……　活用型：五段-マ行

表3．4　活用型一覧

活用型	解析活用型
五段-○行	五段-○行
五段-カ行-一般	五段-カ行-一般
五段-カ行-イク	五段-カ行-イク
五段-カ行-ユク	五段-カ行-ユク
五段-ラ行-一般-一般	五段-ラ行-一般
五段-ラ行-アル-一般	五段-ラ行-アル
五段-ラ行-アル-有ル	五段-ラ行-アル
五段-ワア行-一般	五段-ワア行-一般
五段-ワア行-○段	五段-ワア行-一般
五段-ワア行-イウ	五段-ワア行-イウ
上一段-○行	上一段-○行
下一段-○行	下一段-○行
下一段-ラ行-一般	下一段-ラ行-一般
下一段-ラ行-呉レル	下一段-ラ行-呉レル
カ行変格	カ行変格
サ行変格-為ル	サ行変格
サ行変格-スル	サ行変格
ザ行変格	ザ行変格
形容詞-良イ	形容詞
形容詞-無イ	形容詞
形容詞-○段	形容詞
助動詞-ジャ	助動詞-ジャ
助動詞-タ	助動詞-タ
助動詞-ダ	助動詞-ダ
助動詞-タイ	助動詞-タイ
助動詞-デス	助動詞-デス
助動詞-ナイ	助動詞-ナイ
助動詞-ヌ	助動詞-ヌ
助動詞-マス	助動詞-マス
助動詞-ヤ	助動詞-ヤ
助動詞-ヤス	助動詞-ヤス
助動詞-ラシイ	助動詞-ラシイ
無変化型	無変化型

活用型	解析活用型
文語四段-○行	文語四段-○行
文語四段-ハ行-一般	文語四段-ハ行
文語四段-ハ行-ア段	文語四段-ハ行
文語上二段-○行	文語上二段-○行
文語下二段-○行	文語下二段-○行
文語下二段-ハ行-一般	文語下二段-ハ行
文語下二段-ハ行-経	文語下二段-ハ行
文語カ行変格	文語カ行変格
文語サ行変格	文語サ行変格
文語ザ行変格	文語ザ行変格
文語ナ行変格	文語ナ行変格
文語ラ行変格	文語ラ行変格
文語形容詞-ク	文語形容詞-ク
文語形容詞-シク-シク	文語形容詞-シク-シク
文語形容詞-シク-ジク	文語形容詞-シク-ジク
文語形容詞-多シ	文語形容詞-多シ
文語助動詞-キ	文語助動詞-キ
文語助動詞-ケム	文語助動詞-ケム
文語助動詞-ケリ	文語助動詞-ケリ
文語助動詞-ゴトシ	文語助動詞-ゴトシ
文語助動詞-ズ	文語助動詞-ズ
文語助動詞-タリ-完了	文語助動詞-タリ-完了
文語助動詞-タリ-断定	文語助動詞-タリ-断定
文語助動詞-ツ	文語助動詞-ツ
文語助動詞-ナリ-断定	文語助動詞-ナリ-断定
文語助動詞-ナリ-伝聞	文語助動詞-ナリ-伝聞
文語助動詞-ヌ	文語助動詞-ヌ
文語助動詞-ベシ	文語助動詞-ベシ
文語助動詞-マジ	文語助動詞-マジ
文語助動詞-ム	文語助動詞-ム
文語助動詞-ラシ	文語助動詞-ラシ
文語助動詞-ラム	文語助動詞-ラム
文語助動詞-リ	文語助動詞-リ

※ 活用型：短単位データベース登録時の活用型
　解析活用型：コーパスに表示される活用型

3　活用形

UniDicの活用形のうち現代語のコーパスにかかわる主なものを，以下に挙げる。

3．1　語幹

（1）語幹--一般
下記以外の活用語の語幹

（2）語幹-サ
いわゆる様態の助動詞「そうだ」が接続する場合の形容詞「ない」の語幹「なさ」と形容詞「よい」の語幹「よさ」

3．2　未然形

（1）未然形--一般
下記以外の未然形

（2）未然形-サ
助動詞「せる」が接続する場合のサ変動詞「する」の未然形「さ」

（3）未然形-セ
助動詞「ず」が接続する場合のサ変動詞「する」の未然形「せ」

（4）未然形-撥音便
活用語尾がラ行音の動詞で，未然形が撥音便になったもの
【例】　分かん（ない）　　知ん（ない）

（5）未然形-へ
助動詞「ます」の未然形「ませ」が「まへ（ん）」になったもの

（6）未然形-補助
文語形容詞の補助活用

3．3　意志推量形

（1）意志推量形--一般
下記以外の意志推量形

（2）意志推量形-促音
意志推量形が促音便になったもの
【例】　行こっ（か）　　食べよっ（と）

（3）意志推量形-短縮
意志推量形の語末「う」が縮まったもの
【例】　行こ（か）　　寝よ

3．4　連用形

（1）連用形--一般
下記以外の連用形。助動詞「ます」が接続する一般的な形。

（２）連用形-〇音便
助動詞「た」や助詞「て」が接続する場合の一般的な音便形

（３）連用形-融合
助動詞「だ」の連用形と係助詞「は」の融合形「じゃ」

（４）連用形-チャ
助動詞「だ」の連用形と係助詞「は」の融合形「ちゃ」
【例】　（そんなこっ）ちゃ（だめだ）

（５）連用形-シ
サ行下一段活用動詞の活用語尾「せ」が「し」になったもの
【例】　見し（て）

（６）連用形-スッ
ラ行五段活用動詞の促音便で語幹末尾の「さ」が「す」になったもの
【例】　なさっ（た）

（７）連用形-ト
文語助動詞「たり」の連用形「と」

（８）連用形-ニ
文語助動詞「なり」の連用形「に」

（９）連用形-補助
文語形容詞の補助活用

３．５　終止形

（１）終止形-一般
下記以外の終止形。

（２）終止形-ウ音便
文語ハ行四段動詞「給う」の終止形「たもう」

（３）終止形-促音便
形容詞の終止形末尾が促音便になったもの
【例】　うまっ　　高っ

（４）終止形-撥音便
動詞・助動詞の終止形末尾が撥音便になったもの
【例】　見ん（なよ）　　（ありませ）ん

（５）終止形-エ
形容詞及び助動詞「たい」「ない」の終止形末尾の連母音「アイ」が長母音「エー」になったもの
【例】　高え　　行かねえ

（６）終止形-チャ

助動詞「だ」の終止形が「ちゃ」になったもの
【例】　（何のこっ）ちゃ

（７）終止形-補助
文語形容詞「多し」の終止形「多かり」

３．６　連体形

（１）連体形-一般
下記以外の連体形

（２）連体形-エ短縮
助動詞「つう」（副助詞「て」＋「言う」の融合）の連体形のうち，語末が「え」で終わるものの「え」が脱落したもの
【例】　（何）て（んだ）

３．７　仮定形

（１）仮定形-一般
下記以外の仮定形

（２）仮定形-融合
形容詞及び形容詞型活用の助動詞・接尾辞の仮定形の活用語尾が接続助詞「ば」と融合して，「けりゃ」になったもの
【例】　面白けりゃ　　有り難けりゃ　　（なり）たけりゃ

（３）仮定形-キャ
形容詞及び形容詞型活用の助動詞・接尾辞の仮定形の活用語尾が接続助詞「ば」と融合して，「きゃ」になったもの
【例】　面白きゃ　　（し）にくきゃ　　（やら）なきゃ

（４）仮定形-ニャ
助動詞「ず」の仮定形の活用語尾が接続助詞「ば」と融合して，「にゃ」になったもの
【例】　（頑張ら）にゃ

３．８　已然形

（１）已然形-一般
下記以外の已然形

（２）已然形-補助
文語形容詞の補助活用

３．９　命令形

（１）命令形-一般
下記以外の命令形

（２）命令形-イ
ラ行五段活用動詞の命令形で，語末が「い」のもの
【例】　ください　　なさい

（３）命令形-コ
文語動詞「来」の命令形のうち「こ」

（４）命令形-シ
助動詞「ます」の命令形のうち「まし」

（５）命令形-ロ
一段活用動詞・サ変活用動詞の命令形のうち語末が「ろ」のもの
【例】　食べろ　　しろ

表３．５　活用形一覧

語幹-一般	終止形-一般
語幹-サ	終止形-○音便
未然形-一般	終止形-エ
未然形-ケ	終止形-ズ
未然形-サ	終止形-チャ
未然形-シカ	終止形-短縮
未然形-セ	終止形-補助
未然形-撥音便	連体形-一般
未然形-ヘ	連体形-エ短縮
未然形-補助	連体形-省略
意志推量形-一般	連体形-短縮
意志推量形-促音	連体形-補助
意志推量形-短縮	仮定形-一般
連用形-一般	仮定形-融合
連用形-○音便	仮定形-キャ
連用形-融合	仮定形-ニャ
連用形-キ接続	命令形-一般
連用形-チャ	命令形-イ
連用形-クッ	命令形-コ
連用形-シ	命令形-シ
連用形-スッ	命令形-ロ
連用形-ト	
連用形-ニ	
連用形-省略	
連用形-補助	

Ⅳ　同語異語判別規程　Version 1.0

第１　同語異語判別規程

《凡　例》

１．例として挙げる語の表記は，以下の原則による。
　① 語の形を問題とする場合は，片仮名で表記する。
　② 語の形を特に問題としない場合は，外来語を除き片仮名以外で表記する。
２．短単位データベースの階層名を示す場合には，「語彙素」「語形」「書字形」のようにカギ括弧を付けて表記する。
３．一つの「語彙素」「語形」にまとめる語を併記する場合，語と語の間に「／」を記入する。
　亭主っ／亭主　　レンジュウ／レンチュウ
４．別の「語彙素」「語形」とする語を併記する場合，語と語の間に「←→」を記入する。
　とても←→とっても　　アイザワ←→アイサワ
５．「語彙素」「語彙素読み」を併記して示す場合には，「語彙素読み」に【 】を付ける。
　暖かい【アタタカイ】
６．語例で文脈を補う場合は丸括弧に入れて示し，注記を付ける場合は［ ］に入れて示す。

１　同一「語形」・別「語形」の判定

任意の二つの出現形について，短単位データベースに登録する際に，一つの「語形」にまとめるか，異なる「語形」として別にするか判断するための規定は，以下のとおりである。

１．１　語形

出現形の形に基づく規定は，以下のとおりである。

１．１．１　同一の「語形」とする出現形

次に示す形の差異を持つ任意の二つの出現形は，語源が同一であり，かつ意味の違いを生じていない限り，同じ「語形」とする。

１．１．１．１　和語・漢語

臨時的に促音・長音が付加された形と元の形

【例】　亭主っ／亭主　　（だー）かーらー／（だ）から
　　だーめ／だめ

臨時的な促音・長音の付加か否かの判断は，『岩波国語辞典』第６版，『日本国語大辞典』第２版による。いずれか一方の辞書の見出しになっていれば，臨時的な促音・長音の挿入とはしない。異なる「語形」とする。

【例】　とっても※ ←→とても

※「とっても」は『岩波国語辞典』第６版，『日本国語大辞典』第２版の両方で見出しになっているため，「とても」と「とっても」とは別の「語形」とする。
　一方，「とーっても」は『岩波国語辞典』第６版，『日本国語大辞典』第２版

のどちらでも見出しになっていないため，次に示すように「とーっても」とその元になった「とっても」とは同じ語形とする。

【例】　とっても／とーっても←→とても

活用形を自動生成するために別の活用型を与える必要がある場合には，促音・長音が臨時的に付加された形と元の形とを異なる「語形」とする。

【例】　ですぅ* ←→です

※　活用形を自動生成するために，次のように異なる活用型を与える必要がある。
デ　ス：助動詞，助動詞-デス
デスウ：助動詞，無変化型

1．1．1．2　外来語

（1）長音符号を用いた出現形と直前の母音と同じ母音字を重ねた出現形

【例】　ゴール／ゴオル　　カバー／カバア

連母音「アウ」「エイ」「オウ」など直前の母音と異なる母音字の連鎖については，長音符号を用いた出現形と母音字を重ねた出現形とは異なる「語形」とする。

【例】　ファール←→ファウル　　メール←→メイル
コーカサス←→コウカサス

（2）臨時的な仮名の小書きあるいはその逆と元の形

【例】　スィーツ／スイーツ　　キャノン／キャノン　シエア／シェア

臨時か否か迷う場合はまとめない。

【例】　フアン←→ファン

（3）表3．6の付表Bの仮名で記された出現形と本表の仮名で記された出現形

【例】　ヴァイオリン／バイオリン　　クィーン／クイーン
グァム／グアム

（4）本表の仮名「ツァ」「ツェ」「デュ」「フュ」を含む出現形と本表の仮名「ツア」「チェ」「ジュ」「ヒュ」を含む出現形

【例】　モーツァルト／モーツアルト　　フィレンツェ／フィレンチェ
デュース／ジュース　(jeuce)　フューチャー／ヒューチャー

（5）以下の仮名・記号（躍り字）で記された出現形と本表・付表Aの仮名で記された出現形

「ヂ」・「ヅ」　　ケンブリッヂ／ケンブリッジ
「ヰ」・「ヰ゛」　　スヰフト／スウィフト　　ウヰスキー／ウイスキー
「ヱ」・「ヱ゛」　　ヱスト／ウェスト　ヱーテル／エーテル
「ヲ」・「ヲ゛」　　ヲルポール／ウォルポール
「ヽ」・「ヾ」　　シヽリー／シシリー　　ハヾロフスク／ハバロフスク

表３．６　外来語の表記に用いる仮名・符号

本　表

ア	イ	ウ	エ	オ				シェ		
カ	キ	ク	ケ	コ				チェ		
サ	シ	ス	セ	ソ	ツァ			ツェ	ツォ	
タ	チ	ツ	テ	ト		ティ				
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ			トゥ			
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	ファ	フィ		フェ	フォ	
マ	ミ	ム	メ	モ				ジェ		
ヤ		ユ		ヨ		ディ				
ラ	リ	ル	レ	ロ			ドゥ			
ワ						デュ				
ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ		フュ				
ザ	ジ	ズ	ゼ	ゾ						
ダ			デ	ド						
バ	ビ	ブ	ベ	ボ						
パ	ピ	プ	ペ	ポ						
キャ		キュ		キョ						
シャ		シュ		ショ						
チャ		チュ		チョ						
ニャ		ニュ		ニョ						
ヒャ		ヒュ		ヒョ						
ミャ		ミュ		ミョ						
リャ		リュ		リョ						
ギャ		ギュ		ギョ						
ジャ		ジュ		ジョ						
ビャ		ビュ		ビョ						
ピャ		ピュ		ピョ						
ン（撥音）										
ッ（促音）										
ー（長音符号）										

付　表　A

	ウィ		ウェ	ウォ
	ツィ			

付　表　B

			イェ	
クァ	クィ		クェ	クォ
グァ				
ヴァ	ヴィ	ヴ	ヴェ	ヴォ
		テュ		
		ヴュ		

6）本表・付表にない小書きの仮名を含む出現形と本表・付表Ａの仮名で記された出現形
具体的には以下の事例が見られる。

a．付表Ｂの仮名に関連する仮名
　グォン／グオン　　ヴョールカ／ビョールカ

b．母音字「ア」「イ」「ウ」「エ」「オ」が臨時的に小書きされたとみなせるもの
　ゴォル／ゴール　　グレィ／グレイ　　ハゥス／ハウス

c．拗音「ャ」「ュ」「ョ」の変わりにり臨時的に小書の母音字「ァ」「ゥ」「ォ」が用いられたとみなせるもの
　クリスチァン／クリスチャン　　テゥーバ／チューバ

d．上記以外
キェルケゴール／キルケゴール　　フョードル／ヒョードル

1．1．2　異なる「語形」とする出現形

1．1．2．1　和語・漢語

次に示す形の差異を持つ出現形は，異なる「語形」とする。

（1）清濁の差異及び濁音と半濁音との差異（連濁を含む。）
【例】　レンチュウ←→レンジュウ　　ナンビト←→ナンピト
（三）カイ←→（三）ガイ

（2）語末長音の短呼形と元の形との差異
【例】　センセ←→センセイ　　ニョウボ←→ニョウボウ
モ（一つ）←→モウ（一つ）

（3）音が弱まって母音音節となったものと元の形との差異
【例】　アタクシ←→ワタクシ　　ソイ（から）←→ソレ（から）

（4）撥音化した形と元の形との差異
【例】　アンタ←→アナタ　　ソン（なら）←→ソレ（なら）

（5）促音化した形と元の形との差異
【例】　アッタカイ←→アタタカイ　　カッテ［曾て］←→カツテ［曾て］
（～な）コッ（た）←→（～な）コト（だ）　　テッカク←→テキカク

（6）撥音が挿入された形と元の形との差異
【例】　アンマリ←→アマリ　　ミンナ←→ミナ
（見た）マンマ←→（見た）ママ

（7）促音の有無の差異
【例】　ケッシテ←→ケシテ　　タッタ←→タダ

（8）連声によって生じた形と元の形との差異
【例】　アンノン←→アンオン　　（三）ミ←→（三）イ

（9）語末以外の長音の有無の差異
【例】　シイカ←→シカ

（10）サ行音がチ・チャ・チェ・チョ・ツァに交替した形と元の形との差異
【例】　チッチャイ←→チイサイ　　（お父）ツァン←→（お父）サン

1．1．2．2　外来語

（1）規定1．1．1．2に記載したもの以外の差異を持つ出現形は，異なる「語形」とする。
【例】　コンピューター←→コンピュータ　　メール←→メイル
アルミニウム←→アルミニューム

１．２　固有名

品詞と語の形とが同じであれば，指し示す物が同じか否かにかかわらず，同じ「語形」として一つにまとめる。語の形が同じであるか否かの判断は規定１．１による。

【例】

〔人名-姓〕　檜山／桧山　星野／ほしの

〔人名-名〕　進次郎／進二郎　輝弘／昭浩

〔地名-一般〕　茨木／茨城　緑町／美土里町／美登里町

１．３　品詞

１．３．１　無活用語

無活用語が複数の品詞として機能している場合，別に定める品詞判別に関する規程※により，それぞれ異なる品詞が与えられるのであれば，それらは異なる「語形」とする。以下に例を示す。

※　品詞判別に関する規程は現在未整備である。現時点で作成しているものについては，本規程末尾に細則として挙げた（細則１，２，３，５，６，７，８）。

１．３．１．１　同じ「語形」とするもの

名詞が形状詞としても機能する場合，名詞として用いられている出現形・形状詞として用いられている出現形のいずれにも「名詞-普通名詞-形状詞可能」という品詞が与えられるので，各出現形は同じ「語形」とする。

【例】　健康（を守る）／健康（な体）　安全が（第一）／安全（な街）

名詞が副詞としても機能する場合も，上記と同様に「名詞-普通名詞-副詞可能」という品詞が与えられるので，各出現形は同じ「語形」とする。

【例】　明日（には着く）／明日（出発する）

多く（を語らない）／多く（食べる）

１．３．１．２　異なる「語形」とするもの

ある無活用語が形状詞としても副詞としても機能する場合，形状詞として用いられている出現形には「形状詞-一般」又は「形状詞-タリ」，副詞として用いられている出現形には「副詞」という品詞が与えられるので，各出現形は異なる「語形」とする。

【例】　特別（な扱い）←→特別（問題はない）

格別（に安い品）←→格別（安い品）

１．３．２　動詞連用形と動詞連用形転成名詞

動詞連用形とそれから転成した名詞は，それぞれ異なる「語形」とする。

【例】　動き（ます）←→動き（が固い）　遊び（に行く）←→遊び（をする）

２　同一「語彙素」・別「語彙素」の判定規定

任意の二つの「語形」について，一つの「語彙素」にまとめるか，異なる「語彙素」として別にするか判断するための規定は，以下のとおりである。

２．１　語形

語の形に基づく規定は，以下のとおりである。

２．１．１　同一の語彙素とする「語形」

２．１．１．１　和語・漢語

次に示す差異を持つ「語形」は，語源が同一であり，かつ意味の違いを生じていない限り，同じ「語彙素」とする。

（１）清濁の差異及び濁音と半濁音との差異（連濁を含む。）
【例】　レンチュウ／レンジュウ　　ナンビト／ナンピト
（三）カイ／（三）ガイ

（２）語末長音の短呼形と元の形との差異
【例】　センセ／センセイ　　ニョウボ／ニョウボウ　　モ（一つ）／モウ（一つ）

（３）音が弱まって母音音節となったものと元の形との差異
【例】　アタクシ／ワタクシ　　ソイ（から）／ソレ（から）

（４）撥音化した形と元の形との差異
【例】　アンタ／アナタ　　ソン（なら）／ソレ（なら）

（５）促音化した形と元の形との差異
【例】　アッタカイ／アタタカイ　　カッテ［曾て］／カツテ［曾て］
（～な）コッ（た）／（～な）コト（だ）　　テッカク／テキカク

（６）撥音が挿入された形と元の形との差異
【例】　アンマリ／アマリ　　ミンナ／ミナ　　（見た）マンマ／（見た）ママ

（７）促音の有無の差異
【例】　ケッシテ／ケシテ　　タダ／タッタ

（８）連声によって生じた形と元の形との差異
【例】　アンノン／アンオン　　カンノン／カンオン

（９）語末以外の長音の有無の差異
【例】　シイカ／シカ

（１０）サ行音がチ・チャ・チェ・チョ・ツァに交替した形と元の形との差異
【例】　チッチャイ／チイサイ　　（お父）ツァン／（お父）サン

ただし「ちゃん」と「さん」とは別の語彙素とする。
【例】　チャン←→サン

２．１．１．２　外来語

外来語の「語形」のうち，原語が同じであるか極めて近い場合で，かつ音声的に類似する場合の表記の差異を持つものは，同じ語彙素とする。

典型的には以下に示す差異，又は差異の組合せで説明できるものを同一の語彙素とする。

ａ．連母音「アウ」「エイ」「オウ」と長音符号を用いた形との差異
【例】　ファウル／ファール　　メイル／メール　　コウカサス／コーカサス

b．以下の文字対のうち左の文字を用いた形と右の文字を用いた形との差異

「シェ・ジェ」と「セ・ゼ」　シェパード／セパード　ジェリー／ゼリー
「ティ」と「チ」　ティーム／チーム
「ティ・ディ」と「テ・デ」　スティッキ／ステッキ／　ハンディ／ハンデ
「ディ」と「ジ」　ディレンマ／ジレンマ
「トゥ・ドゥ」と「ツ・ズ」　トゥール／ツール　ヒンドゥー／ヒンズー
「ドゥ」と「ド」　ドゥガ／ドガ
「ファ・フィ・フェ・フォ」と「ハ・ヒ・ヘ・ホ」
セロファン／セロハン／　テレフォン／テレホン
「ツィ」と「チ」　エリツィン／エリチン
「ウィ・ウェ・ウォ」と「ウイ・ウエ・ウオ」
ウィーン／ウイーン　ウォッチ／ウオッチ
「ウィ」と「イ・エ・オ」　スウィート／スイート　スウェーデン／スエーデン
「イエ」と「エ」　イエール／エール
「クア・クイ・クエ・クオ」と「カ・キ・ケ・コ」
クアルテット／カルテット
「グア」と「ガ」　グアテマラ／ガテマラ

c．語末あるいは原語における子音に先行する位置での「トゥ」「ドゥ」を用いた形と「ト」「ド」を用いた形との差異

【例】　カットゥ／カット　ドゥライブ／ドライブ

d．特殊拍（促音・長音・撥音）の有無の差異

【例】　ヒットラー／ヒトラー　マシーン／マシン
エンターテインメント／エンターテイメント

e．半母音/j/, /w/ の有無の差異（ /j/ の場合は特にイ段・エ段に後続する場合）

【例】　イタリヤ／イタリア　ダイヤル／ダイアル
コートジボワール／コートジボアール

f．母音の有無の差異

【例】　グラウンド／グランド　レインジャー／レンジャー

g．長音と促音の交替

【例】オーケー／オッケー　アンティーク／アンティック

h．特殊拍（促音・長音・撥音）とそれ以外の交替

【例】　ケッパー／ケイパー　シンポジウム／シムポジウム　パーム／パルム

i．母音と半母音の交替

【例】　ギリシャ／ギリシア　アダージョ／アダージオ

j．異なる母音間の交替

【例】　ボディ／バディ　サクソフォーン／サキソフォーン　マニー／マネー
ルーブル／ルーブリ　マスタング／ムスタング　パジャマ／ピジャマ

k．清音と濁音（に相当するもの）の交替

【例】　スムース／スムーズ　ベット／ベッド
ウィトゲンシュタイン／ビトゲンシュタイン（←ヴィトゲンシュタイン）

l．調音法や調音点の類似した子音間の交替
【例】　ゴシック／ゴチック　　エカチェリーナ／エカテリーナ

m．原語のつづり"a"に対する「ア／エイ」，"i"に対する「イ／アイ」の交替
【例】　カオス／ケイオス　　オーガニゼーション／オーガナイゼーション

なお英語に関して，単数形と複数形の差異は同じ「語彙素」とするが，文脈や形態から明らかに所有格と分かる場合は異なる「語彙素」とする。また過去形や進行形など動詞の派生形も異なる「語彙素」とする。
【例】　ブック／ブックス　　ノート／ノーツ　　データ／データム
　　チャイルド ←→ チャイルズ　　ジャンプ ←→ ジャンピング

2．2　品詞

ある無活用語がその用法によって異なる品詞を与えられていても，その品詞の属する類が同じであれば，同じ「語彙素」とする。一方，その品詞の属する類※が異なれば，それらは異なる「語彙素」とする。
【例】　特別（な扱い）／特別（問題はない）
　　自然（を守る）←→自然（と動く）／自然（な振る舞い）

※　短単位データベースにおいて「語彙素」に付与される情報の一つで，「体」「用」「相」「他」などがある。各品詞がどの類に属するかについては表３．３を参照。

動詞・形容詞に基づくものであっても，別に定める品詞判別に関する規程により無活用語とされたものについては，元の動詞・形容詞とは異なる「語彙素」とする。
【例】　動き（が固い）←→動き（ます）
　　（ドル）安　　←→安（請け合い）

2．3　活用型

活用型が異なる活用語のうち，次に挙げるものは同じ「語彙素」とする。

（1）文語活用の活用語と，それに対応する口語活用の活用語
【例】　す／する　　受く／受ける　　少なし／少ない　　白し／白い
　　ず／ぬ　　らる／られる

（2）サ行五段活用動詞と，その元になったサ行変格活用動詞
【例】　愛す／愛する　　対す／対する

（3）ザ行上一段活用動詞と，その元になったザ行変格活用動詞
【例】　感じる／感ずる　　信じる／信ずる

（4）可能動詞と，その元になった五段活用動詞
【例】　書く／書ける　　読める／読む

（5）活用形を自動生成するために別の活用型を与えた活用語と，その元になった活用語
【例】　ですぅ／です

2．4　方言形

方言形と，それに形の上で対応する口語の共通語形とは，意味のつながりがある場合，同じ「語彙素」とする。

【例】　オトロシイ／オソロシイ

2．5　人名

人名には，原則として規定２．１．１は適用しない。

【例】　アイザワ←→アイサワ

2．6　略語

二つの略語が同語形であっても，その元になった語が異なる「語彙素」として扱われる場合，略語も別の「語彙素」として扱う。

【例】　（大阪）大←→（実物）大

その元になった語が異なる「語彙素」であっても，概念に共通性が高い場合には，略語は同一の「語彙素」にまとめる。

【例】　漁［「漁業」の略］／漁（「漁労」の略）

3　「書字形」の定め方及び表記

「書字形」は，出現形を基に次のように定める。

（1）活用のない語

原則として出現形をそのまま「書字形」とし，「書字形」の表記も出現形のとおりとする。

【例】　亭主っ　→　亭主っ
　　（だー）かーらー　→　かーらー
　　だーめ　→　だーめ

（2）活用のある語

出現形を終止形に直したものを「書字形」とし，「書字形」の表記も出現形を終止形に直したものとする。

【例】　話し（た）　→　話す
　　受けつご（う）　→　受けつぐ
　　ウマかっ（た）　→　ウマい

4　「語形」の定め方及び表記

4．1　「語形」の定め方

4．1．1　和語・漢語

和語・漢語については，「書字形」の読み（語形）を「語形」として立てる。

【例】　亭主　→　テイシュ
　　とっても　→　トッテモ
　　話す　→　ハナス
　　ウマい　→　ウマイ
　　ですぅ　→　デスウ

同じ「語形」とする任意の二つの「書字形」の読みに差異がある場合，臨時的ではない形・くずれていない形を「語形」として立てる。

【例】　亭主っ／亭主　⟶　テイシュ
　　ダーメ／ダメ　⟶　ダメ

4．1．2　外来語

外来語については次のとおりとする。なお，以下の外来語に関する記述の中で「辞書」といった場合，『大辞林』第２版と『日本国語大辞典』第２版を指す。両辞書の記述が異なる場合は，原則として『日本国語大辞典』第２版の記述に従う。

（１）長音符号を用いた出現形と直前の母音と同じ母音字を重ねた出現形
原則として長音符号を用いた形を「語形」として立てる。

【例】　ゴール／ゴオル　⟶　ゴール　　カバー／カバア　⟶　カバー

ただし，以下に該当する場合は母音を用いた形を「語形」とする。

ａ）母音字表記の形が辞書の見出し（空見出しを除く，以下同）になっている場合

【例】　バレー／バレエ　⟶　バレエ　　レゲー／レゲエ　⟶　レゲエ

ｂ）母音連鎖部に原語の形態素境界がある場合

【例】　カットーフ／カットオフ　⟶　カットオフ（cut-off）※1
　　コーカランス／コオカランス　⟶　コオカランス（co-occurance）※1
　　コーポレーション／コオペレーション
　　⟶　コーポレーション（co-operation）※2

※１　例として記したものであり，これらが長音符号で記されることは稀である。
※２　辞書に長音符号で記されているものはそれに従う。

（２）臨時的な仮名の小書きあるいはその逆と元の形
原則として元の形を「語形」として立てる。

【例】　スィーツ／スイーツ　⟶　スイーツ
　　キヤノン／キャノン　⟶　キャノン　　シエア／シェア　⟶　シェア

臨時か否か迷う場合はまとめない。

【例】　ファン←→フアン

（３）表３．６の付表Ｂの仮名で記された出現形と本表の仮名で記された出現形
本表の仮名で記された形を「語形」として立てる。
具体的には次のとおり。

付表Ｂ「ヴァ」→本表「バ」	ヴァイオリン／バイオリン	⟶	バイオリン
付表Ｂ「ヴィ」→本表「ビ」	ヴィオラ／ビオラ	⟶	ビオラ
付表Ｂ「ヴ」　→本表「ブ」	ジュネーヴ／ジュネーブ	⟶	ジュネーブ
付表Ｂ「ヴェ」→本表「ベ」	ヴェール／ベール	⟶	ベール
付表Ｂ「ヴォ」→本表「ボ」	ヴォーカル／ボーカル	⟶	ボーカル
付表Ｂ「ヴュ」→本表「ビュ」	デジャヴュ／デジャビュ	⟶	デジャビュ
付表Ｂ「テュ」→本表「チュ」	テューバ／チューバ	⟶	チューバ
付表Ｂ「イェ」→本表「イエ」	イェーツ／イエーツ	⟶	イエーツ
付表Ｂ「クァ」→本表「クア」	クァルテット／クアルテット	⟶	クアルテット
付表Ｂ「クィ」→本表「クイ」	クィーン／クイーン	⟶	クイーン

付表Ｂ「クェ」→本表「クエ」　クェート／クエート　→　クエート
付表Ｂ「クォ」→本表「クオ」　クォーツ／クオーツ　→　クオーツ
付表Ｂ「グァ」→本表「グア」　グァム／グアム　→　グアム

（４）本表の仮名「ツァ」「ツェ」「デュ」「フュ」を含む出現形と本表の仮名「ツア」「チェ」「ジュ」「ヒュ」を含む出現形
辞書の見出しにある場合はその形を「語形」として立てる。
【例】　フューズ／ヒューズ　→　ヒューズ
デュース／ジュース　→　ジュース（jeuce）
フィレンツェ／フィレンチェ　→　フィレンツェ
モーツァルト／モーツアルト　→　モーツァルト

それ以外は原音に近い仮名を用いた形を「語形」として立てる。
【例】　フュージョニズム／ヒュージョニズム　→　フュージョニズム（fusionism）

（５）以下の仮名・記号（躍り字）で記された出現形と本表・付表Ａの仮名で記された出現形
本表・付表Ａの仮名で記された形を「語形」として立てる。具体的には以下のとおり。

「ヂ」　→　本表「ジ」
「ヅ」　→　本表「ズ」
「ヰ」　→　付表Ａ「ウィ」／本表「イ」（「ウ」が先行する場合）
「ヰ゛」　→　本表「ビ」
「ヱ」　→　付表Ａ「ウェ」／本表「エ」
「ヱ゛」　→　本表「ベ」
「ヲ」　→　付表Ａ「ウォ」／本表「オ」
「ヲ゛」　→　本表「ボ」
「ヽ」　→　前の文字を重ねる
「ヾ」　→　前の文字を濁音にして重ねる

（６）本表・付表にない小書きの仮名を含む出現形と本表・付表Ａの仮名で記された出現形

ａ．付表Ｂの仮名に関連する仮名
上記（３）に記す規定に準じ，本表の仮名で記された形を「語形」として立てる。

表外「グィ」→本表「グイ」　グィード／グイード　→　グイード
表外「グェ」→本表「グエ」　グェルフ／グエルフ　→　グエルフ
表外「グォ」→本表「グオ」　グォン／グオン　→　グオン
表外「ヴャ」→本表「ビャ」　ヴャチェスラフ／ビャチェスラフ→ビャチェスラフ
表外「ヴョ」→本表「ビョ」　ヴョールカ／ビョールカ　→　ビョールカ

ｂ．母音字「ア」「イ」「ウ」「エ」「オ」が臨時的に小書きされたとみなせるもの
小書きされた仮名に対応する母音字の書字のユレとみなした上で「語形」を定める。具体的には次のとおり。

小書きされた母音字が直前の母音と同じ場合，（１）の規定に従い原則として長音符号を用いた形を「語形」として立てる。
【例】　ゴォル　→　ゴール　　アンジィ　→　アンジー

それ以外については，母音字「ア」「イ」「ウ」「エ」「オ」を用いた形を「語形」として立てる。

【例】　グレィ　⟶　グレイ　　ハゥス　⟶　ハウス

c．拗音「ャ」「ュ」「ョ」の変わりにり臨時的に小書の母音字「ァ」「ゥ」「ォ」が用いられたとみなせるもの

「ャ」「ュ」「ョ」を用いた形を「語形」として立てる。

【例】　クリスチァン　⟶　クリスチャン　　テゥーバ　⟶　チューバ

d．上記以外

辞書の見出しにある場合はその形を「語形」として立てる。

【例】　キェルケゴール　⟶　キルケゴール

それ以外は，本表・付表Ａの仮名を用いた形を「語形」として立てる。

【例】　フョードル　⟶　ヒョードル

４．２　語形の表記

４．２．１　和語・漢語

和語・漢語は，片仮名を用いて，現代仮名遣い（1986年，内閣告示第１号・内閣訓令第１号）に基づき表記する。

【例】　縮む　⟶　チヂム
　　上積み　⟶　ウワヅミ
　　先生　⟶　センセイ
　　ですぅ　⟶　デスウ

拗音・促音は，小書きに統一する。

【例】　切手　⟶　キッテ
　　社会　⟶　シャカイ

現代仮名遣いでは，長音の表記に長音符号を用いないため，語形の表記でも長音符号を用いない。

【例】　そー（です）　⟶　○ ソウ　　× ソー
　　研究　⟶　○ ケンキュウ　　× ケンキュー

４．２．２　外来語

外来語は，表３．６に示した片仮名・符号を用いて表記する。個々の語の具体的な表記については，規定４．１．２を参照する。

５　「語彙素」の定め方及び表記

５．１　「語彙素」の定め方

「語形」を「語彙素」として立てる。

【例】　チヂム　⟶　縮む【チヂム】
　　ウワヅミ　⟶　上積み【ウワヅミ】
　　センセイ　⟶　先生【センセイ】

複数の「語形」を一つの「語彙素」にまとめる場合，以下の規定によって「語彙素」を定める。なお，「語形」が一つしかない場合でも，その「語形」が以下の規定に該当するものであれば，以下の規定に基づいて「語彙素」を定める。

【例】　アタクシ　⟶　ワタクシ【私】※

※　「アタクシ」は《語形》の（３）に該当する語であるので，「語形」に「アタクシ」のみが登録されている場合でも，「ワタクシ」を「語彙素」とする。

５．１．１　語形

５．１．１．１　和語・漢語

和語・漢語については，以下のとおりとする。

（１）清濁の差異及び濁音と半濁音との差異がある場合は，以下のとおりとする。

①濁音化・半濁音化が短単位の語頭で生じている場合，濁音化・半濁音化する前の元の形を「語彙素」として立てる。

【例】　（三）カイ／（三）ガイ　⟶　階【カイ】
　　ハコ／（道具）バコ　⟶　箱【ハコ】

②濁音化・半濁音化が短単位の語頭以外で生じている場合，「語彙素」は語ごとに定める。

【例】　レンチュウ／レンジュウ　⟶　連中【レンチュウ】
　　ナンビト／ナンピト　⟶　何人【ナンピト】

（２）語末長音の短呼形と元の形とがある場合，元の形を「語彙素」とする。

【例】　センセ／センセイ　⟶　先生【センセイ】
　　ニョウボ／ニョウボウ　⟶　女房【ニョウボウ】
　　モ（一つ）／モウ（一つ）　⟶　もう【モウ】

（３）音が弱まって母音音節となったものと元の形とがある場合，元の形を「語彙素」とする。

【例】　アタクシ／ワタクシ　⟶　私【ワタクシ】
　　ソイ（から）／ソレ（から）　⟶　其れ【ソレ】

（４）撥音化した形と元の形とがある場合，元の形を「語彙素」とする。

【例】　アンタ／アナタ　⟶　貴方【アナタ】
　　ソン（なら）／ソレ（なら）　⟶　其れ【ソレ】

（５）促音化した形と元の形とがある場合，元の形を「語彙素」とする。

【例】　アッタカイ／アタタカイ　⟶　暖かい【アタタカイ】
　　カッテ／カツテ　⟶　嘗て【カツテ】
　　（～な）コッ（た）／（～な）コト（だ）　⟶　事【コト】
　　テッカク／テキカク　⟶　的確【テキカク】

（６）撥音が挿入された形と元の形とがある場合，元の形を「語彙素」とする。

【例】　アンマリ／アマリ　⟶　余り【アマリ】
　　ミンナ／ミナ　⟶　皆【ミナ】
　　（見た）マンマ／（見た）ママ　⟶　侭【ママ】

（７）促音がある形とない形とがある場合，「語彙素」は語ごとに定める。
【例】　ケッシテ／ケシテ　⟶　決して【ケッシテ】
　　タダ／タッタ　⟶　唯【タダ】

（８）連声によって生じた形と元の形とがある場合，原則として連声によって生じた形を「語彙素」とする。
【例】　アンノン／アンオン　⟶　安穏【アンノン】
　　カンノン／カンオン　⟶　観音【カンノン】

※　短単位境界で連声が生じており，後続の短単位の語形が連声によって変化している場合，連声によって生じた形ではなく元の形を「語彙素」として立てる。
【例】　（三）ミ／（三）イ　⟶　位【イ】

（９）語末以外に長音がある形とない形とがある場合，「語彙素」は語ごとに定める。
【例】　シイカ／シカ　⟶　詩歌【シイカ】

（１０）サ行音がチ・チャ・チェ・チョ・ツァに交替した形と元の形とがある場合，元の形を「語彙素」とする。
【例】　チッチャイ／チイサイ　⟶　小さい【チイサイ】
　　ツァン／サン　⟶　さん【サン】

５．１．１．２　外来語
外来語については，以下のとおりとする。

（１）単数形と複数形がある場合は，原則として単数形を「語彙素」とする。
【例】　ブック／ブックス　⟶　ブック
　　ノート／ノーツ　⟶　ノート

複数形しか辞書の見出しにないものは複数形を「語彙素」とする。
【例】　データ／データム　⟶　データ

（２）連母音「アウ」「エイ」「オウ」と長音符号を用いた形がある場合は，原則として長音符号で記された形を「語彙素」とする。
【例】　メイル／メール　⟶　メール

辞書に母音字で記された形があればそれを「語彙素」とする。
【例】　ファウル／ファール　⟶　ファウル

（３）以下に記す差異がある場合，①②のとおり「語彙素」を定める。

「シェ・ジェ」と「セ・ゼ」
「ティ」と「チ」
「ティ・ディ」と「テ・デ」
「ディ」と「ジ」
「トゥ・ドゥ」と「ツ・ズ」
「ドゥ」と「ド」
「ファ・フィ・フェ・フォ」と「ハ・ヒ・ヘ・ホ」
「ツィ」と「チ」
「ウィ・ウェ・ウォ」と「ウイ・ウエ・ウオ」
「ウィ」と「イ・エ・オ」

「イエ」と「エ」
「クア・クイ・クエ・クオ」と「カ・キ・ケ・コ」

①辞書の見出しに後者の仮名で記された形がある場合は，それを「語彙素」とする。
【例】　ミルクシェーキ／ミルクセーキ　⟶　ミルクセーキ
　　ディレンマ／ジレンマ　⟶　ジレンマ
　　セロファン／セロハン　⟶　セロハン
　　スウィート／スイート　⟶　スイート

②それ以外は原則として前者の仮名で記された形を「語彙素」とする。
【例】　ウィーン／ウイーン　⟶　ウィーン
　　エリツィン／エリチン　⟶　エリツィン
　　ディファレンス／デファレンス　⟶　ディファレンス

（4）語末あるいは原語における子音に先行する位置で，「トゥ」「ドゥ」を用いた形と「ト」「ド」を用いた形との差異が見られる場合は，「ト」「ド」で記された形を「語彙素」とする。
【例】　カットゥ／カット　⟶　カット
　　ドゥライブ／ドライブ　⟶　ドライブ

（5）２．１．１．２に示した音の挿入・脱落・交替の差異が見られる場合は，原則として以下の方針に従い「語彙素」を定める。上記（3）（4）に相当するものはその方針に従う。

①辞書の見出しにある形を「語彙素」とする。

②以下の方針により「語彙素」を定めることができるものはそれに従う。
a．長音記号の有無：原則として長音符号を用いた形を「語彙素」とする
【例】　コンピューター／コンピュータ　⟶　コンピューター

b．イ段・エ段に後続する半母音/j/ の有無：原則として/j/のない形を「語彙素」とする
【例】　イタリア／イタリヤ　⟶　イタリア
　　エアコン／エヤコン　⟶　エアコン

c．語末が ″(i)um″ のものは，原則として「イウム」に相当する形を「語彙素」とする。
【例】　アルミニウム／アルミニューム　⟶　アルミニウム

d．それ以外で特に強い慣習があるもの：その慣習に従う形を「語彙素」とする。
【例】　レックス／レクス　⟶　レックス※

※　lex, fix, box のような形の場合は原音にない促音を入れる慣習があるなど。

③明らかに原音からの挿入・脱落・交替であることが分かる場合は，原音に近い仮名を「語彙素」とする。
【例】　マニュファクチュア／マニファクチュア　⟶　マニュファクチュア

④それ以外は語ごとに「語彙素」を定める。

５．１．２　活用型

活用型が異なる活用語のうち，次に挙げるものは同じ「語彙素」とする。

（１）文語活用の活用語と，それに対応する口語活用の活用語とがある場合，文語活用に対応する口語活用の活用語を「語彙素」とする。

【例】　す／する　　→　スル【為る】
　　少なし／少ない　→　スクナイ【少ない】

ただし，打ち消しの助動詞「ず」「ぬ」は，文語活用を「語彙素」とする。

　　ず／ぬ　　→　ズ【ず】

（２）サ行五段活用動詞と，その元になったサ行変格活用動詞とがある場合，サ行変格活用動詞を「語彙素」とする。

【例】　愛す／愛する　→　アイスル【愛する】
　　対す／対する　→　タイスル【対する】

（３）ザ行上一段活用動詞と，その元になったザ行変格活用動詞とがある場合，ザ行変格活用動詞を「語彙素」とする。

【例】　感じる／感ずる　→　カンズル【感ずる】
　　信じる／信ずる　→　シンズル【信ずる】

（４）可能動詞動詞と，その元になった五段活用動詞とがある場合，五段活用動詞を「語彙素」とする。

【例】　書く／書ける　→　カク【書く】
　　読める／読む　→　ヨム【読む】

（５）活用形を自動生成するために別の活用型を与えた活用語と，その元になった活用語とがある場合，その元になった活用語を「語彙素」とする。

【例】　ですぅ／です　→　デス【です】

５．１．３　方言形

方言形と，それに形の上で対応する口語の共通語形とがある場合，共通語形を「語彙素」とする。

【例】　オトロシイ／オソロシイ　→　オソロシイ【恐ろしい】

５．２　「語彙素読み」の表記

「語彙素読み」には，「語彙素」として立てることになった「語形」をそのまま登録する。したがって，その表記の仕方については，規定４．２を参照のこと。

５．３　「語彙素」の表記

（１）和語・漢語

付属語は平仮名表記とする。

自立語は原則として漢字表記とし，次に示す手順に従ってその漢字表記を定める。

①その語が『岩波国語辞典』第６版の見出しにあり，漢字表記されていれば，その漢字表記を「語彙素」とする。複数の漢字表記が挙げられている場合は，原則として最初に挙げられている漢字表記を「語彙素」とする。

②『岩波国語辞典』第６版の見出しにない語，及び『岩波国語辞典』第６版の見出しに

なっているが，語の一部又は全部が漢字表記されていない語については，『日本国語大辞典』第２版を参照する。
『日本国語大辞典』第２版の見出しにあり，漢字表記されていれば，その漢字表記を「語彙素」とする。複数の漢字表記が挙げられている場合は，原則として最初に挙げられている漢字表記を「語彙素」とする。

③『日本国語大辞典』第２版の見出しにない語，『日本国語大辞典』第２版の見出しにあるが，漢字表記されれていない語については，原則として「語彙素」を平仮名で表記する。

④常用漢字を用いて「語彙素」を表記する場合，送り仮名の付け方は次の基準に従う。
常用漢字表外の漢字を用いて「語彙素」を表記する場合も，送り仮名の付け方は，次に示す基準を準用する。

《活用のある語》
「送り仮名の付け方」（1973年，内閣告示第２号・内閣訓令第２号）の通則１，通則２，通則６の各本則に従って送り仮名を付ける。各通則の例外，許容は採用しない。

《活用のない語》
「送り仮名の付け方」の通則３の本則，通則４の本則・例外及び許容，通則５の本則及び許容，通則６の本則，通則７に従って送り仮名を付ける。

（２）外来語
外来語の「語彙素」には，「語彙素読み」をそのまま用いる。

細則１　名詞と接辞の判定基準（１）

意味に差異がない場合，接頭辞・接尾辞ではなく，できる限り名詞・形状詞・形容詞語幹に統合するのを原則とする。

判定に当たっての基本的な観点は，以下のとおりである。

Ⅰ　接頭辞に関するもの

（１）形容詞語幹に相当する最小単位が，後接の短単位（短単位の連続体を含む。）と結合する場合，その最小単位は接頭辞とせず形容詞とする。

【例】　粗（利益）　深（用心）　古（道具）　安（普請）

（２）地名を略してできた１字漢語は，接頭辞とせず名詞（普通名詞）とする。

【例】　米（政府）　露（皇帝）　英（会話）

（３）後接する短単位（短単位の連続体を含む。）を連体修飾するものは，接頭辞とせず名詞等とする。

【例】

名詞-普通名詞-一般	主（要因），他（言語），初（登場）， 平（社員），満（９歳）
名詞-普通名詞-形状詞可能	急（傾斜），逆（輸入）
形状詞-一般	直（輸入）

（４）上記の規定には当てはまらないが，一般に１字漢語として使われ得るもの（単独用法のあるもの）は，接頭辞とせず名詞とする。

【例】　強（母音）　残（日数）　禁（帯出）

Ⅱ　接尾辞に関するもの

（１）前接する短単位（短単位の連続体を含む。）の連体修飾を受けるものは，接尾辞とせず名詞とする。

【例】

名詞-普通名詞-一般　（訂正）箇所，（文字）列，（要約）文

（２）上記の規定には当てはまらないが，一般に１字漢語として使われ得るもの（単独用法のあるもの）は，接尾辞とせず名詞とする。

【例】　（被写）体

具体的な判定の基準及び語例は，以下のとおりである。

１　名詞とするもの

１）地名と結合した以下のもの

①　行政区画を表すもの

【例】

東京/都/　大阪/府/　パンジャーブ/州/

②　①以外のもの

【例】

表参道/駅/　西表/島(じま)/

2）その他

単独で用いられる時と読み方・意味が同じものは名詞とする。

【例】

箇所	不要/箇所/　訂正/箇所/
	cf.　二/ヶ所/　⇒　接尾辞-名詞的-助数詞
側	相手/側/
句	名詞/句/　引用/句/
座	主教/座/　（座る場所の意）
	cf.　ミラノ座　⇒　接尾辞-名詞的--一般
札	千円/札/
死	事故/死/　安楽/死/
式	方程/式/　予測/式/　（計算式の意）
	入学/式/　結婚/式/　（儀式の意）
	cf.　東京式　⇒　接尾辞-名詞的--一般
食	日本/食/　/食/中毒
職	管理/職/　事務/職/
数	従業員/数/　周波/数/
節	修飾/節/　名詞/節/
線	地平/線/　（境界の意）
	cf.　京王線　⇒　接尾辞-名詞的--一般
他	/他/言語　/他/地域
体	被写/体/　被験/体/
	cf.　集合体　⇒　接尾辞-名詞的--一般
地	観光/地/　発信/地/
点	問題/点/　調音/点/　（A エム;M）/点/　二/点/を結ぶ
	cf.　五/点/　⇒　接尾辞-名詞的-助数詞（得点，項目の数）
弁	関西/弁/　江戸/弁/
主	動作/主(ぬし)/
比	圧縮/比/　（A エス エヌ;ＳＮ）/比/
年	/年/会費/
場	温泉/場/　ごみ捨て/場/
拍	特殊/拍/
番	留守/番/
便	臨時/便/　直行/便/
文	会話/文/　要約/文/
法	少年/法/　（法律の意）
	cf.　分析法　⇒　接尾辞-名詞的--一般
元	遷移/元/　/元/同級生
率	合格/率/　認識/率/
類	魚介/類/　柑橘/類/
列	文字/列/　音素/列/
論	方法/論/　進化/論/

2　接辞とするもの

1）数詞と結合したもの

①　通貨の単位

【例】

円　ドル　バーツ

② 単位

【例】

カロリー　デシベル　ヘルツ

③ 序列・カウントを表すもの

【例】

回　行　件　粒　番　名　組み

④ 助数詞

【例】

個　本　枚　台　軒

2）「数詞＋接尾辞」と結合したもの

【例】

九/年/目/　三/回/生/　三/人/共/　五/人/用/　二/者/間/
二/年/後/　一/番/線/　六十/年/代/　二/個/組み

※ /一/軒/家/

一　名詞-数詞
軒　接尾辞-名詞的-助数詞
家　名詞-普通名詞-一般

3）その他

A 省略された形で元の意味を添加するもの

【例】

界	自然/界/	パチンコ業/界/	（ある世界）
金	援助/金/	入学/金/	（資金）
具	防寒/具/	文房/具/	（道具）
計	体重/計/	（計器）　/計/七/通り	（合計）
座	文学/座/	ミラノ/座/	（劇場，劇団を表す）
作	失敗/作/	感動/作/	（作品）
史	語彙/史/	古代/史/	（歴史）
紙	新聞/紙/	模造/紙/　方眼/紙/	（用紙）
式	東京/式/	ねじ/式/	（方式，方法）
質	神経/質/	筋肉/質/	（性質）
実	/実/時間	/実/世界	（実際，現実）
社	新聞/社/	旅行/社/　ニューロマグ/社/	（会社）
術	腹話/術/	健康/術/	（技術）
線	京王/線/	東武/線/	（路線）
体	構造/体/	自治/体/	（体系）
代	宿泊/代/	飛行機/代/	（代金）
調	上昇/調/	演説/調/	（調子）
堂	礼拝/堂/	公会/堂/	（建物を表す）
品	衣料/品/	骨董/品/	（品物）
法	改善/法/	分析/法/	（方法）
両	/両/側面	/両/情報	（両方）
録	議事/録/	（記録）	

B　単独で使われるときと読み方（音訓）の異なるもの

【例】

後	訓練/後/				
骨	尾てい/骨/				
時	反応/時/	/時/系列			
酒	日本/酒/	食前/酒/			
心	好奇/心/	信仰/心/			
物	目標/物/	特産/物/			
名	役職/名/	歌集/名/			

C　その他

【例】

軒	来来/軒/				
共	両方/共/	両親/共/			
部	経済学/部/	美術/部/	人事/部/	下線/部/	

細則２　名詞と接辞の判定基準（２）

複合語の末尾に位置する連用形転成名詞を接尾辞にするという規則に関連して実態を調査するとともに，どう扱うべきかについて規則を提示する。

1　用法および品詞付けの実態

代表形辞書から連用形転成名詞と見られる見出しを抽出し，その各々について，単独用法の有無，複合語の後要素となる用例，および後要素になった場合の品詞情報を調べた。後要素の用例がなくても，存在しうる場合には，作例を括弧付きで記入した。ただしその場合には，品詞欄は空欄となる。

見出し	単独用法の有無	現品詞	複合語末尾用法
扱い	○	接尾	助詞扱い，お客様扱い，特別扱い
誤り	○	名	湧き出し誤り，単語誤り，認識誤り
洗い	×	名	食器洗い
歩き	×	名	よちよち歩き
行き	○	名	沖縄行き，釧路行き
炒め	×	接尾	野菜炒め
入り	○	接尾	仲間入り，カルシウム入り
入れ	×	接尾	段ボール入れ
祝い	○	名	退院祝い
伺い	○		（進退伺い，ご機嫌伺い）
受け	○	名	郵便受け
売り	○	名	中国雷鳥売り
置き	×	混	五度おき，取っておき
踊り	○	名	阿波踊り
思い	○	名	子供思い，母親思い
下ろし	×	名	大根おろし
買い	×	名	衝動買い
替え	×	名	商売替え
帰り	○	名	学校帰り，仕事帰り
書き	×	名	箇条書き
絡み	×	名	情報処理絡み
狩り	×	名	潮干狩り
代わり	○	名	父親代わり，灰皿代わり
刻み	×	名	０．５刻み
切り	×		（単位切り）
切れ	×	名	時間切れ
暮らし	○	名	三人暮らし
繰り	×	名	資金繰り
込み	○	名	マスク値込み
探し	×	名	ミッキー探し，お墓探し
捌き	×	名	手綱捌き
騒ぎ	○		（火事騒ぎ）
凌ぎ	×	名	一時凌ぎ
調べ	○		（証拠調べ）

過ぎ	○	接尾	八時過ぎ
座り	×	名	体育座り
沿い	×	接尾	石神井川沿い，環八沿い，国境沿い
育ち	○	名	坊ちゃん育ち，北国育ち
染め	○	接尾	草木染め
建て	×	接尾	一戸建て，三階建て
立て	×	接尾	語義立て
頼り	○	接尾	耳頼り
違い	○	名	見当違い
遣い	×	接尾	仮名文字遣い，無駄遣い
付き	×	接尾	条件付き，朝食付き，括弧付き
作り	○	接尾	菓子作り，体力作り
付け	×	接尾	順序付け，意味付け，対応付け
続き	○	接尾	不運続き，連体続き
潰し	×	接尾	時間潰し
連れ	○	接尾	家族連れ
出	○	接尾	大学出
咎め	○		（言葉咎め）
飛び	×	名	一足飛び，二つ飛び
止まり	×	名	構築するというところ止まり
止め	×	接尾	体言止め，通行止め
取り	×	接尾	場所取り，音頭取り
泣かせ	×	接尾	調教師泣かせ，タクシー泣かせ
眺め	○		（模様眺め）
慣れ	○		（試験慣れ）
煮	×	接尾	砂糖煮，柚香煮
抜き	○	名	雑草抜き
願い	○	名	退職願い
狙い	○		（空き巣狙い）
乗り	×	接尾	八人乗り
外れ	○	接尾	常識外れ，仲間外れ
離れ	×	接尾	浮世離れ
払い	×	接尾	門前払い
晴れ	○		（五月晴れ）
化け	×	名	文字化け
歪み	○	名	量子化歪み
塞がり	×	名	八方塞がり
振る舞い	○	名	形容詞的振る舞い
惚れ	×	名	一目惚れ
参り	×	名	お寺参り
任せ	○	名	成り行き任せ
紛い	×	名	犯罪紛い
負け	○	名	根気負け
交じり	×	名	期待交じり，漢字仮名交じり
待ち	×	名	順番待ち，信号待ち，準急待ち
祭り	○	名	漫画祭り，七夕祭り
回り	×	接尾	シベリア回り
向き	○	接尾	後ろ下向き，若者向き
向け	×	接尾	子供向け，企業向け，ＣＥＬＰ向け
巡り	×	接尾	トイレチェック巡り

漏れ	○	名	検出漏れ
焼き	×	接尾	炉端焼き，お好み焼き
酔い	○	接尾	二日酔い
読み	○		（重箱読み）
別れ	○		（喧嘩別れ）
分け	×	接尾	のれん分け，分類分け
笑い	○		（愛想笑い）

2　品詞判別基準

一律に接尾辞にすることには抵抗があるので，以下のように名詞と接尾辞を分ける基準を考えた。

番号の若いものが優先する。

1）名詞とする条件

以下のいずれかに該当する

①　元の動詞の意味用法に照らして，「～すること」という意味をもつ

例：お客様扱い，食器洗い，よちよち歩き，仲間入り，衝動買い，商売替え，原稿書き，単位切り，時間切れ，資金繰り，年金暮らし，お墓探し，手綱捌き，一時凌ぎ，証拠調べ，体育座り，草木染め，語義立て，耳頼り，見当違い，無駄遣い，菓子作り，順序付け，意味付け，対応付け，不運続き，時間潰し，言葉咎め，一足飛び，体言止め，通行止め，場所取り，模様眺め，試験慣れ，雑草抜き，五人抜き，文字化け，浮世離れ，分割払い，門前払い，八方塞がり，一目惚れ，お寺参り，成り行き任せ，根気負け，順番待ち，札所巡り，放射能漏れ，チェック漏れ，野焼き，二日酔い，喧嘩別れ，のれん分け，愛想笑い

②　単独用法を有し，それと同じ意味を持つ

例：帰り（帰路）……仕事帰り，学校帰り
誤り……単語誤り，認識誤り
踊り……阿波踊り
狩り……潮干狩り
代わり……親代わり，灰皿代わり
騒ぎ……火事騒ぎ
育ち……坊ちゃん育ち，北国育ち
連れ……家族連れ
抜き……アルコール抜き
晴れ……五月晴れ
歪み……量子化歪み
振る舞い……形容詞的振る舞い
祭り……漫画祭り，七夕祭り
向き……下向き，若者向き
読み……重箱読み

2）接尾辞とする条件

①　行為・現象そのものでなく，生産物，人，道具，方式等を表わす

例：野菜炒め，大根おろし，砂糖煮，お好み焼き，一戸建て（生産物）
雷鳥売り，空き巣狙い（人）
郵便受け，段ボール入れ，退院祝い，進退伺い，退職願い（道具）
仮名遣い（方式）

② 複合語全体が状態・性質を表わす修飾語になりうる
例：カルシウム入り，情報処理絡み，沖縄行き，親思い，消費税込み，街道沿い，箇条書き，条件付き，大学出，課長止まり，タクシー泣かせ，常識外れ，犯罪紛い，漢字仮名交じり，シベリア回り，子供向け

③ 数詞に接続する
例：二日置き，０．５刻み，十時過ぎ，八人乗り

※ なお，上記の基準によると，同じ語が必ずしも同じ品詞をとることにならない。
例１　焼き：野焼き（名），お好み焼き（接尾）
例２　行き：沖縄行き〔が決定〕（名），沖縄行き〔の便〕（接尾）

細則３　助数詞の判定基準

１　名詞が助数詞的に用いられている場合でも，品詞は助数詞とせず名詞とする。
　【例】　県　都　道　箱　府　文

２　助数詞的に用いられている接尾辞のうち，次の各項に該当する語は助数詞とする。
２．１　『日本国語大辞典』第２版に助数詞としての記述があるもの。
　【例】　アール　インチ　ウオン　円　日（か）　回　階　回忌　海里　箇月

　※『日本国語大辞典』第２版の記述の例
　　アール〔名〕（{フランス}are）　メートル法の面積の単位。
　　かい【回】〔接尾〕数または順序に関する語に付いて，回数を表わすのにいう。
　　かん【巻】〔接尾〕①書籍，巻き物の数をかぞえるのに用いる。

２．２　『日本国語大辞典』第２版に立項されていない，若しくは立項されていても助数詞としての記述がないもののうち，『大辞林』第２版に助数詞としての記述があるもの。
　【例】　位　箇年　期　球　キロ　キロヘルツ　組　元　周　週　色
　　センチ　ダース　投　針　版　バーツ　筆　ＰＰＭ　ヘクトパスカル
　　ミリ　メガバイト　ｐｐｂ　エキュ　ナノセカンド　ベクレル
　　メガワット日

　※『大辞林』第２版の記述の例
　　かねん【箇年】（接尾）助数詞。年数を数えるのに用いる。
　　き【期】（接尾）（１）ある一定の時期。期間。名詞や数詞に付いて，接尾語的にも用いられる。「少年―」「第三―」
　　とう【投】（２）（接尾語的に用いて）投げた回数を表す。

　※『大辞林』第２版に立項されている助数詞のうち，あらかじめUniDicに登録すべきと判断したものについては，既にUniDicに登録した。現時点で，登録していないのは，次のような現代語では余り使用しないと考えられる語である。
　【例】　あた（咫）　上代の長さの単位。
　　けつ（頁）　文献などの紙面を数えるのに用いる。
　　くさ（種）　物の種類を数えるのに用いる。

２．３　２．１，２．２に該当しないもののうち単位を表すもの。
　【例】　ＥＲＢ　ＳＤＲ　オクターブ　日間　月　キロビット　ギガ
　　ギガバイト　ギガヘルツ

２．４　２．１から２．３に該当しないもののうち，特に助数詞と認め得るもの。
　　現時点では，下記の１０語のみ。
　【例】　課　箇国　品（しな）　玉　艇　店　袋　箇寺　箇村　分け

細則４　動詞連用形と動詞連用形転成名詞の判定基準

０　目的

品詞情報付与に当たって，動詞－連用形とするか，連用形転成名詞とするか，判断に苦しむ場合がある。その場合の判定の基準を明確にしたい。現在動詞連用形とされているもので，接続上問題ありと山口さんがみなしたものがリストアップされたので，それについて検討する。また逆に，名詞とされているものの中にも，動詞とすべきものがあるかもしれないので，それも併せて検討する。

１　現在動詞になっているもの

１．１　動詞の連用形が他の自立語を伴わずに文節を構成する場合

１）「～に行く，来る，走る，駆け付ける」など　……　動詞

①後続語が助詞「に」

②次の文節の先頭が動詞「行く」「来る」「走る」「駆け付ける」など
例：本を買いに行く，息子に会いに来た，助けに駆け付ける

［注］　「金策に走り回る」「救助に駆け付ける」の「金策」「救助」は名詞であるが，居体言の場合は，格要素，連用修飾要素を取りやすいので，動詞とする。
［参考］仲間を助けに駆け付ける，難破船の救助に駆け付ける

２）強調のために同じ動詞を繰り返す場合　……　動詞

①後続語が助詞「に」

②次の文節が同じ動詞の繰り返しである。
例：選りに選って，悩みに悩んで，ねばりにねばって

３）「～はしない」の類　……　動詞

①後続語が助詞ハ，モ，サエなど

②続く文節がスル，イタス，ナサルの否定形または仮定形
例：敬語を使いさえすればポライトか
正直に言えば咎めはしないよ
女房子供ほったらかして働きもせず

［注］　上の例は「使えば」「咎めない」「働かず」の強調形である。この種の「は」は「ありゃしない」「聞こえやしない」のように，融合や転訛を生じやすい。

４）敬語用法　……　動詞

①「お」＋動詞連用形＋「になる」（「する」「いたす」）
例：お使いになる，おいでになる，（お願いする，お答えする）

5）上記以外の敬語用法

「お」＋動詞連用形で，気持ちとしては（4）に似ているが，「になる」「する」を伴わず，名詞に似た接続関係を持つ。この類は統一が取れていない。「お＋動詞連用形」が長単位で名詞になるのなら，「お」なしで名詞になりうるもの以外はすべて動詞にしてもいいような気もするが，実際はゆれている。文脈的にも格要素をとる場合と，逆に連体修飾語を持つ場合とがあり，どちらか一方に統一するわけにはいかないようだ。

①格助詞・係助詞を後ろに従える：

浅草寺でお参りをして …… 名詞
びっくりしてそれからはお支払いが良くなる …… 名詞
声の小さい人とのおしゃべりはしづらい店です …… 名詞

②命令的用法：ただいま―お帰り，飲みにおいでよ …… 動詞

③「だ」「か」「と」「の」などを従える：

どの(A オーエス;ＯＳ)をお使いですか …… 動詞
この二つは絶対お勧めです …… 動詞
示さないことは大体既に見当がお付きであると …… 動詞
そういうことは古くさいようにお感じでしょうけど …… 動詞
先程のデータでもお分かりかと思う …… 動詞
またかと思われる方もおありと存じます …… 動詞
何で今更音素なんだと(F まー)お思いの方 …… 動詞
今(F あの)皆さんがお持ちの論文集 …… 動詞
お気に入りのカシミヤのセーター …… 動詞
ここは凄くやり易いというようなお褒めの言葉を …… 動詞

1．2．居体言が複合語の先頭または中間に位置する場合

6）動詞の連用形が後続の名詞の意味を限定する働きを持つ

これは動詞連用形が「～する人」「～する（ための）もの」「～する（ための）場所」…という感じで後続の名詞または名詞性接尾辞に係るものである。以下のものはすべて動詞として扱われている。その中で確かに名詞だと思われるのは「狭め」1語であるが，他にもあるかどうか検討を要する。

①動詞

遊び仲間，ありよう，居心地，書き起こし時，書き起こしテキスト，書き起こし例，書き換え箇所，書き間違い，掛け布団，変わり具合，頑張り所，頑張り屋，聞き取り試験，聞こえ具合，切り出し音素認識実験，切れ目，繰り返し演算，繰り返し語，お好み焼き，立て役者，例えよう，使い勝手，出不精，通し番号，入り放題，はやり言葉，選好振り向き法，褒め言葉，申し込み者，読み上げ音声，読み上げ原稿，（新聞記事）読み上げコーパス，（文章）読み上げシステム，カード読み上げ実験，文読み上げ方式，読み間違い，だし巻き卵，

②名詞

（声道の）狭め形成，

7）複合動詞の後ろ部分が付属要素（接尾的要素）で，かつそれが体言化して接尾辞となった場合

例：書き/始める/……「書き」「始める」いずれも動詞

書き/始め/から……「書き」が動詞，「始め」が接尾辞

見出し語は以下の通りである。
学び合い，書き終わり，問い掛け，働き掛け，歩き過ぎ，行き過ぎ，使い過ぎ
行き付け，書き始め

細則５　終止形・連体形の判定基準

０　概要

終止形と連体形を区別することは，基本的にはあまり問題がない。文の切れ目であるか，あるいは係り先が特定できるかで決まるわけである。とはいえ，話し言葉の性質上，実際には多少の疑問点が生ずるので，それについて述べる。

１　言い直しまたは繰り返し

少し表現を変えて言い直したり，全く同じ文句を繰り返したりした場合，先行用言の活用形を後続語の活用形に合わせる。

例１：一緒に住んで　＼いる＼　いたのですが(F その一)祖母はとても元気な人で　（連体形）

例２：それに対してクロマの正答率はかなり(F ま)内側に来て　＼いる＼　低くなっていることが分かります　（連体形）

例３：手話なんて(F その)　＼くたびれる＼　(F ま)(F その)覚えるのは大変だと思いますけれどもそんなに疲れるものじゃないと　（連体形）

例４：実際は(F ま)直接その先輩方から教えて　＼もらう＼　(D も)もらえるっていうことはないのですが　（終止形）

２　文の挿入

言い直しの一種だが，発言を明示的に取り消す文が挿入される場合は終止形とする。

例５：サーフィンやってヨットにヨットじゃ　＼ない＼　ボートに乗ったりして

例６：基本的に多分(D い)日本の日本じゃ　＼ない＼　東京の一大盛り場であった

３　指示詞挿入

終止連体形の直後に「そういう」「そういった」「その」などの指示詞が挿入される場合は，以下の基準にしたがって判定する。

判定の基準１：その用言の前から，用言の後ろに係るものがあれば連体形（例10）

判定の基準２：指示詞を除くか「ような」と置き換えて差支えない場合は連体形（例7・8・11）

判定の基準３：上記のいずれにも該当しない場合は終止形（例9・12）

例７：建具を制作っていう風に書くというところを建具制作って書いて　＼ある＼　(F ま)そういう例です　（連体形）

例８：それからずっと第四十九回まで十三年間(F んー)昭和十四年二月十八日だそうですがそこまではずっと(F あのー)山上会議所で開かれて　＼た＼　そういう時代があった訳です　（連体形）

例９：一人はやっぱしイタリア語の方が楽だっておっしゃっ　＼た＼　そのイタリア語の方が楽だって言った人は（終止形）

例10：ここで定例のこういうオーケストラ普段はオペラの伴奏してる人達が(F え)主役になっ　＼た＼　そういう催し物が(D (? あ))開かれる　（連体形）

例11：キーワードに　＼なる＼　そういう言葉が出てきます　（終止形）

例12：音韻韻律の情報を付けるとか色んなこと今までやっていただい　＼てる＼　そういうのを集めた形でこういう研究を進めていければ　（終止形）

4　格助詞・係助詞後続

後続語によって終止形か連体形かを判定する基準は，一部分規定されているが，それに含まれないものが少しある。「に」を除く格助詞・係助詞の例を挙げる。文語の場合には形の上から連体形になるものが多い。古風な言いまわしは文語に準じて連体形にしたが，格助詞「に」の前を終止形としたので，それとの関係でゆれが生じる。

例13：一見三の説を支持　＼する＼　がごとくでございます　（連体形）
例14：軒下でてんかん起こし　＼た＼　が為に(F その)要は出られなくて（連体形）
例15：言わ　＼ない＼　が故に自分の自分の気分の中で喋っていられる　（連体形）
例16：単語のリジェクションと　＼いう＼　を行なう時　（連体形）
例17：何よりの見物じゃと言うてみて音の　＼する＼　を蹴ると言うて　（連体形）
例18：その場合は収録作業の方を優先せ　＼ざる＼　を得ないだろう　（連体形）
例19：(0 髪末を切り　＼たる＼　はかぶろと言うなり　（連体形）
例20：注意す　＼べき＼　はその前に(F えー)丸四丸五に示しました　（連体形）
例21：早速イワシをよみ出し申し付か　＼るる＼　は云々　（連体形）
例22：進ま　＼ざる＼　は退転という言葉もありますんでね　（連体形）

5　言いさし

言いかけて途中で立ち消えになったばあい。

例23：で(F えっと)どう　＼いう＼　あんまり他に(?)類似の現象は観察されてないという風に思ってるんですが　（終止形）

細則６　出現形「に」の品詞分類

１　「に」の情報と先行語

「に」の代表形並びに品詞は，先行語の品詞によって決まる部分が大きい。すなわち先行語（フィラー，言いよどみを除く）の品詞が

１）	名詞・代名詞・副詞・記号ならば	格助詞ニ
２）	形状詞ならば	助動詞ダの連用形
３）	動詞・形容詞・助動詞の終止形ならば	格助詞ニ
４）	動詞・助動詞レル・ラレルの連用形ならば	格助詞ニ
４’）	助動詞「ず」の連用形ならば	格助詞ニ
５）	「か」「のみ」「だけ」「など」等の副助詞ならば	格助詞ニ
６）	格助詞「と」（並列）「から」ならば	格助詞ニ
７）	準体助詞「の」ならば	格助詞ニ
８）	文語形容詞連体形ならば（例：なきにしもあらず）	助動詞ナリの連用形

と解される。区別が問題になるのは主として上の①②であり，「に」の情報をきちんと付与するためには，名詞・形状詞・副詞の区分をきちんと定める必要がある。

２　品詞判別の手掛かり

以下の６項目を品詞判別の手掛かりとする。ただし，これは長単位での判定であり，「に」の直前の短単位の品詞は，必ずしも「に」の品詞と整合しない。

１）　主格・対格・与格に立つ。
２）　サ変語尾を伴って動詞になる。
３）　「な」を伴って連体修飾する。（「なの」「な訳」などを除く。）
４）　単独で連用修飾語になる。
５）　「の」を伴って連体修飾する。
６）　程度副詞を受ける。（例：非常に，すごい，あまり，とても，比較的）
７）　格助詞を支配する。（例：「と同様」「より簡単」「でいっぱい」「に独立」）
８）　副助詞・係助詞が付き得る。

	1	2	3	4	5	6	7	8
名　詞	○	○	×	×	○	×	×	○
形状詞	×	×	○	×	○	○	○	×
副　詞	×	○	×	○	○	○	×	○

メタ的に用いられた場合は，無論例外であるが，それ以外にも多少の例外は認めなければならない（例：もっと前）。⑤のように全部に○が付くのは一見無意味のようであるが，一つの代表形はなるべく一つの品詞にまとめたいので，その際の許容範囲を明示する意味で加えた。①②と③のように排他的な項目について両方の用例を持つものは，複数の品詞に分ける必要がある。その際，意味に余り差がなく，かつ形態論的にどちらでもよい例については，優先順を次のとおりとする。

1）助動詞「だ」「です」が付く場合は，形状詞，名詞，副詞の順
2）「に」「の」が付く場合も，明らかに格助詞と認められる場合を除き，形状詞，名詞，副詞の順（例外：必要に迫られる，無理のない計画）
3）上記以外（サ変語幹，複合語など）は名詞，形状詞，副詞の順

なお，品詞によって意味に多少のずれがある場合は，意味の近い方に寄せる（例５）。

例１：必要がある（名詞），必要な（形状詞），必要書類（名詞）
例２：共通する（名詞），共通な（形状詞），共通の(形状詞)，共通語（名詞）
例３：特別な（形状詞），特別歴史がある訳ではない（副詞），特別機（形状詞）
例４：わずかな（形状詞），わずかに（形状詞），わずか３例（副詞），わずかだけ開いてる（副詞）
例５：絶対諦めない（副詞），絶対音感（名詞），絶対に（副詞）
例６：幸い当選して（副詞），幸いなことに（形状詞），偶然が幸いして（名詞）

細則７　助詞「か」の分類基準

１　分類作業の基準

１．１　先頭に来る場合　……　終助詞
【例】　清楚で落ち着いた女性がいいと思いますがかと言って見合いは嫌だし

１．２　先行語が非活用語であるばあい

１．２．１　「か」が陳述性を持たないばあい　……　副助詞

１）不定称名詞に付いて名詞句または副詞句になる
誰か，何か，どこか，いつか，どちらか，幾らか，何らか，幾つか
【例】　誰かが頑張ってくれれば
何か事件が起きた
何回か演奏会重ねるうちに
わざわざどこかに出掛けて行かなくても
左右どちらかの一方だけの赤色ランプが点滅して

２）助詞，副詞その他連用修飾語に付く場合
とか，にか，でか，よりか，からか，てか
【例】　交通の便とか治安の良さ
面接とかして
ここの道路だけはどうにかしてほしいな
どういう風に繋げたらいいか分からないということでか落ちてしまう方が
防音塀というよりかはもうシェルターですね
どこからか寄ってきて
そのことも関係してかあんまり町が元気じゃない
もしかしたら
どうかうちで事務用品を買ってください

３）「なぜ」「せい」「わけ」など理由を表す名詞に付いた場合，又は「で」に置き換えられる場合
【例】　なぜか梯子が滑って
皮膚の皮が薄いせいかすぐ青あざになってしまうんです
どういう訳か気に入ってもらえなくてね
共産主義体制の影響か顔に表情を出さぬ

４）二者択一，三者択一の場合
【例】　視覚提示か聴覚提示かっていう
幸か不幸か女子校におりましたので
中学か高校でラテン語を習う
精度か(A エフ；F)尺度のいずれかを使用する
はいかいいえで答える

１．２．２　「か」が陳述性を持つばあい　……　終助詞

１）言い切り

【例】　誰を誘うのか
　　どれが一番近いのか

２）引用の助詞「と」，終助詞「な」「い」等が付く場合

【例】　ＥＲっていうドラマはどんなドラマかと言いますと
　　共通語のアクセント体系で正しいアクセントは何かというのも
　　どっちかって言うと
　　本当にそうかな
　　大丈夫かい

３）挿入

多く「のか」の形で現れる。

【例】　父親もわりと切り替えが早いのか今まで仕事人間だったのがね
　　大学生に見えたのか高校三年生でも雇ってもらえました

１．３　先行語が活用語である場合

１）「と」以外の格助詞，副助詞が後続する場合　……　副助詞

【例】　後続にどういう単語が来るかが重要です
　　みんなに私の血液型の標本と言うかが回されてしまった
　　ネガティブにあざ笑うかのようです
　　どこの部分にその腫ようが障るかで症状色々違うから
　　共通語っていうものをどういう風に捉えているかにもよります
　　何を手掛かりにしてるかは分かりません
　　例えがあんまり良くないかもしれないけど
　　位置がどう変化するかを観察し
　　何が起こるかよく分からないまんま

２）挿入句（除いても本筋に余り影響のないもの）　……　終助詞

【例】　幾つかの［モチーフって言うか］よく多用する小道具ってのがあるんです
　　車にぶつかって後ろの［何て言うんですか］バンパーの部分をへこまして
　　これを中学校の二年の時［十三歳ですか］の時に偶然本屋で手に取って
　　喉の方を［要するに舌ですかね］やられてたもんで

３）言い切り及び引用の「と」，終助詞「な」「ね」等が付く場合　……　終助詞

【例】　クリエーティブな使い方の側面だと言えるのではないでしょうか
　　表記についてどのような傾向があるかということ
　　駐車場まで運ぶのにどうしようかなって考えてると

１．４　二者択一，三者択一の場合　……　副助詞

１）典型例

【例】　聞き分け易さに影響を及ぼすかどうかについて
　　それがいいか悪いかということで
　　教えに来てるんだか教わってるんだか分からないけれども

2）余り典型的でない例

【例】　ある言語形式を美しいと思うか(副)醜いと思うか(副)あるいは好きか(副)嫌いか(副)っていったようなそういう評価意識

個々の音節が等間隔で発声される傾向があるか(終)あるいはモーラタイミングと言われている日本語に対して個々のモーラが等間隔で発話される傾向があるか(副)ないか(副)という研究

3）ただし以下のような例は，単なる疑問文の羅列と考えて終助詞とする。

【例】　なぜ訓練が必要なのか(終)訓練のメリットは何か(終)そしてスピーチ訓練を必要としているのは誰か(終)

何ていうお店でどんな料理を幾らくらいで出しているのか(終)おいしかったか(終)何を食べたか(終)店の雰囲気はどうだったか(終)

1．4．1　体言＋「か」を含め，「か」で終わる文が並列する場合

それぞれがセンテンスであっても，内容的に排他的である場合は副助詞とする。

【例】　必ずその子が来てる(D こお)来てるか（副）どうか（副）を確認してから自分の仕事をするっていう感じ

用法によって(F まー)連体修飾の〈ベル〉節を取るか（副）否（副）かということに明らかにこう違いが見られました

細則８　出現形「で」の品詞分類

０　目的

「で」という形で切り出された短単位語に品詞情報及び代表形を付与する際の基準を定める。

「で」の中には，接続詞や接続助詞「て」の連濁形，助動詞「てる」の未然形・連用形の連濁形などもあるが，形態上容易に判別できるものを除くと，残るのは格助詞「で」と助動詞「だ」の連用形「で」である。ここではその両者の仕分けに的を絞って記述する。出現形としては「で」と「は」の融合した「じゃ」というものもあるが，その判別法もこれに準ずる。

方法としては，まず助動詞とすべきものを規定し，そのいずれにも該当しないものを格助詞とする。したがって，格機能の判断に窮する例も出てくるがやむを得ない。下記の８規則は相互に排他的なものではないので，用例によっては複数の規則に該当するものもある。

１　形状詞に後続する「で」は，助動詞－連用形とする。

例１：構成がかなり複雑でインタビューなんかも入っているものです
例２：高校は好きなとこへばらばらで行く訳ですからね
例３：私自身は犬は好きで(F ま)(F その一)野犬もかわいがってたんですが
例４：そういう話を平気でできる年代なんで

◇そもそも助動詞「だ」の二つの連用形「で」と「に」の間には一応の役割分担がある。すなわち「で」は連用中止，「に」は連用修飾を担うはずである。したがって，例２・例４のように形状詞＋「で」が連用修飾語になる例は少なく，大体は連用中止となる。

◇先行語の品詞認定とも相互に影響しあうところがある。例えば例４については「平気な」という用例があるので「平気で」を形状詞＋助動詞としたが，そうでなければ，名詞＋格助詞とするところである。「で」の直前の語が格要素・修飾要素を伴っている場合（例：保証人に無断で），先行語が形状詞とみなされ，したがってその「で」は，助動詞－連用形となる。

２　「～＼で＼ある」「～＼で＼ない」「～＼で＼ございます」「～＼で＼いらっしゃる」「～＼で＼おる」「～＼で＼いる」に含まれる「で」は助動詞－連用形とする。

例５：距離の総和というものが閾値以下である場合に
例６：大事なのはこのコイルの配置でござい ます
例７：母は女の子は字が奇麗でなければいけないからと言って
例８：とにかくものを持たない主義でいます
例９：工場なんかを貸してる人なんかが親しいお得意さんでおりました

◇「で」と述語の間に係助詞・副助詞・副詞・フィラーが入る場合も同様である。

例10：ウェアラブルの環境でも音声認識が全て万能ということでは勿論ありません
例11：つげさんは(F あの一)妖怪漫画の(F あの)大御所で(F え)いらっしゃいます

3　原因・理由を表す「～の＼で＼」「～ん＼で＼」に含まれる「で」は助動詞－連用形とする。

例12：これは特に評価が高かったので日本で放送されました
例13：(F えーっと)カウントにミスがあったりしたので数字としては悪いんですが
例14：アクション映画で活躍してたんで(F ま)ダーティーハリーなんていう代表作がありますけれども

◇すべての「ので」ではなくて，「原因・理由を表わす」という限定が付く。一般的に例外は少ないが，「いうので」「いうんで」の場合には，「いう」が形式動詞であるため，他の用言の場合ほど明白に原因・理由とすることができず，判定にゆれが生じる。以下の例は比較的はっきりしたものであるが，そうでないものもある。

例15：馴染みのあるもの馴染みのないものっていうので検出速度に差が見られました　（格助詞）
例16：話者適応とかに比べると性能が悪いというので最近使われてない（助動詞）

◇これに似たものとして「～こと＼で＼」「～もの＼で＼」「～もん＼で＼」「～訳＼で」がある。特定の後続語に係るのかどうかがあまりはっきりしない場合が多く，人により時により判定のゆれるところであるが，上記に準じて，原因理由に近い「ことで」「もので」「もんで」「訳で」の「で」は助動詞にする。

例17：夕飯食べてないっていうことでね(F あの)(F ま)用意して待ってたんです
例18：疎開先の母の実家というのは農家じゃなかったもんでそんなに食糧が潤沢じゃなかったんです
例19：そういう訳で今日はこのドラマを紹介しようと思いました

4　「であり」「でして」「であって」「でありまして」「で，かつ」等に換言可能な「で」は，助動詞－連用形とする。
　これは典型的な連用中止ということである。ガ格が明示されていればもちろん，そうでなくても，想定できる場合はこれに該当するということになる。助動詞と判定される例の多くがこれに該当する。

例20：終戦後いち早く(F あの)できた商店街でその頃は東洋一のアーケード街と言われていたそうです
例21：リコール(A 零．六七；０．６７)(F えー)プレシジョン約(D ろ)約五割で(A エフ；Ｆ)バリューが(A 零．六；０．６)

5　同格の「で」は助動詞－連用形とする。
　これも「で，かつ」に換言可能ということで，４の一部と言えなくもない。

例22：旭川のスキー場で(F え)カムイスキーリンクスっていうところがあるんですけども
例23：キーワード以外で尤度最大となるような単語は

6　前後に来る語との連接関係上，助詞－格助詞とは解釈しにくい「で」は，助動詞－連用形とする。

これは多く「では」「でも」の形で格助詞「に」「と」「から」「へ」「で」，接続助詞「て」「ながら」などに後続するもので，全体で副助詞のように働く場合が多い。おおむね機械的に判定できるが，「と」に付く場合は，並列の「と」か純然たる格助詞かで異なってくる。

例24：最初単純に盗難届けはどこにでも出せるもんだと思ってたもんですから
例25：何としてでも一回戦を突破してベスト十六に入れば
例26：現存するタグ付きコーパスからでは量的に不十分であります
例27：初対面の人とでもそのように仲良くできたことで（助動詞）
例28：異なりと延べとで逆の様相を呈している（助詞）

7　例示を表す「でも」の「で」は，助動詞－連用形とする。

例29：それってどういうこと(F えー)途中でナンパでもするの
例30：靴箱にしては横幅が広くてお相撲さんの靴でも入れ(D る)たくなるような

8　「～べき＼で＼」「～はず＼で＼」「～そう＼で＼」　…　助動詞－連用形とする。
規則２又は４に含まれるものであるが，まず例外なしに助動詞になると思われるものを取り上げた。「そう」には名詞（例：降るそうだ）と形状詞（例：降りそうだ）の二通りがあるが，いずれも同じに扱う。

例31：れる・られる敬語が多いという点はやはり方言差と考えるべきであろうと
例32：何か百五十ぐらいお部屋があるそうで最近一般公開されたそうです

9　上記のいずれにも該当しないものは格助詞とする。ただし方言などで，特殊な形態を取るものについては，個別に検討する。

例33：(M (0 ありまっさかい))とか(0 着きますで)という（終助詞）

参考資料　助詞・助動詞接続一覧（終止形・連体形接続）

終止形・連体形の判別の参考に供するために，助詞・助動詞のうち活用語の終止形・連体形に接続するものを次に示す。文語の助詞・助動詞の接続は，口語と異なる場合にのみ記載した。

1　助詞（口語終止形接続）

口語		文語	
語彙素	接続	語彙素	接続
【格助】			
が	終止形		連体形
と	終止形		
に	終止形		連体形
へ	終止形		連体形
を	終止形		連体形
【接助】			
が	終止形		連体形
から	終止形		
けれど	終止形		
し	終止形		
と	終止形		形容詞型活用及び助動詞「ず」には連用形
とも	終止形，形容詞型活用の連用形		
なり	終止形		
【係助】			
こそ	終止形		連体形
なむ	終止形		連体形
は	終止形		連体形
も	終止形		連体形
【副助】			
か	終止形		
かしら	終止形		
きり	終止形		
さえ	終止形		連体形
しか	終止形		
たって	終止形		
だに	終止形		連体形
たら	終止形		
って	終止形		
など	終止形		連体形
なんて	終止形		
や	終止形		
【終助】			
い	終止形		
か	終止形，助動詞「べし」の連体形		連体形
かしら	終止形		
け	終止形		
さ	終止形		
ぜ	終止形		
ぞ	終止形		
たら	終止形		
な	終止形		
ね	終止形		
や	終止形		
よ	終止形		
わ	終止形		

2　助詞（口語連体形接続）

口　語		文　語	
語彙素	接　続	語彙素	接　続
【格助】 の	連体形，助動詞「だ」の終止形		連体形
より	連体形		
【接助】		に	連体形
		も	連体形
		を	連体形
【係助】		か	連体形
		ぞ	連体形
		や	終止形（文末用法）
【副助】 くらい	連体形		
だけ	連体形		
のみ	連体形		
ばかり	連体形		終止形（程度・範囲の意）
			連体形（限定の意）
まで	連体形		
どころ	連体形		
ほど	連体形		
		し	連体形
【終助】 の	連体形		
もの	連体形，助動詞「だ」「です」の終止形		

3　助動詞

口　語		文　語	
語彙素	接　続	語彙素	接　続
だ	終止形，助動詞「べし」の連体形		
です	終止形，助動詞「べし」の連体形		
べし	終止形		終止形，ラ変の連体形
らしい	終止形	らし	終止形，ラ変の連体形

参考文献

小椋秀樹・小木曽智信・小磯花絵・冨士池優美・相馬さつき（2007）「「現代日本語書き言葉均衡コーパス」の短単位解析について」『言語処理学会第13回年次大会発表論文集』, 720-723.

国立国語研究所(1962)『国立国語研究所報告21 現代雑誌九十種の用語用字(1)』秀英出版.

国立国語研究所(1987)『国立国語研究所報告89 雑誌用語の変遷』秀英出版.

国立国語研究所(1995)『国立国語研究所報告112 テレビ放送の語彙調査Ⅰ』秀英出版.

国立国語研究所(2006)『国立国語研究所報告124 日本語話し言葉コーパスの構築法』.

中野洋(1998)「言語の統計」『岩波講座言語の科学 9 言語情報処理』149-199, 岩波書店.

林大監修(1982)『角川小辞典 9 図説日本語』角川書店.

冨士池優美・小椋秀樹・小木曽智信・小磯花絵・内元清貴・相馬さつき・中村壮範(2008)「「現代日本語書き言葉均衡コーパス」の長単位認定基準について」『言語処理学会第14回年次大会発表論文集』.

前川喜久雄(2006)「特定領域研究「日本語コーパス」のめざすもの」『特定領域「日本語コーパス」平成18年度全体会議予稿集』, 1-8.

前川喜久雄(2008)「KOTONOHA『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の開発」『日本語の研究』4-1, 82-95.

前田富祺(1985)『国語語彙史研究』明治書院.

山崎誠(2007)「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の基本設計について」『特定領域「日本語コーパス」平成18年度公開ワークショップ（研究成果報告会）予稿集』127-136.

資 料　要注意語

「— が ～」

ID	代表形 代表表記	品詞 注記	活用型・その他	接続	異形態
568	アメガシタ 天が下	名詞			
660	アラシガオカ 嵐が丘	名詞 映画タイトル，書名。 映画「【嵐が丘】」に付けた音楽がＣＤ化された。			
569	カリガネ 雁が音	名詞			
570	キミガヨ 君が代	名詞 『岩波国語辞典』になし。			
571	ケンガミネ 剣が峰	名詞			
572	タカマガハラ 高天が原	名詞			
573	ホラガトウゲ 洞が峠	名詞			
574	マンガイチ 万が一	名詞 【万が一】リプレイハズシに失敗した場合			

「— の ～」

ID	代表形 代表表記	品詞 注記	活用型・その他	接続	異形態
315	アイノコ 合の子	名詞			
316	アイノテ 合の手	名詞			
317	アカノマンマ 赤の飯	名詞			

291 **アサノハ** 名詞
麻の葉
【麻の葉】とか七宝とか

292 **アジノモト** 名詞
味の素 『岩波国語辞典』になし。
アジシオとか【味の素】、タバスコなどを

318 **アトノマツリ** 名詞
後の祭り

319 **アマノガワ** 名詞
天の川
別るるや夢一筋の【天の川】

320 **アマノジャク** 名詞
天の邪鬼

663 **アマノハシダテ** 名詞
天の橋立
京都府宮津市の【天の橋立】などが有名。

321 **アマノハラ** 名詞
天の原

322 **アリノトウ** 名詞
蟻の塔

293 **アリノママ** 名詞
有りの儘
【ありのまま】のわんこを撮り続けて行きたい

323 **アンノジョウ** 名詞
案の定
【案の定】品切れで手に入りにくく、

324 **イエノコ** 名詞
家の子
自分の【家の子】を当てると言うもの。

325 **イキノネ** 名詞
息の根
たちどころに襲われて【息の根】をとめられる

326 **イタノマ** 名詞
板の間

327 **イチノゼン** 名詞
一の膳

328 イチノトリ　名詞
一の酉

329 イノフ　名詞
胃の腑

330 ウオノメ　名詞
魚の目

331 ウシノヒ　名詞
丑の日

332 ウソノカワ　名詞
嘘の皮

333 ウチノヒト　名詞
内の人

334 ウノケ　名詞
兎の毛

335 ウノハナ　名詞
卯の花
　楽浪の志賀の【卯の花】腐しかな

336 ウマノアシ　名詞
馬の足

337 ウマノホネ　名詞
馬の骨
　どこの【馬の骨】ともわからないような

338 ウミノオヤ　名詞
産みの親

339 ウミノコ　名詞
産みの子

340 ウワノソラ　名詞
上の空
　皆がわいわい言っている言葉を【上の空】で聞いていた。

341 ウンノツキ　名詞
運の尽き

342 エノアブラ　名詞
荏の油

294 エノグ　名詞
絵の具
白いエナメル【絵の具】で議員名を記す。

343 エンノシタ　名詞
縁の下
【縁の下】の力持ち登場！

344 オクノイン　名詞
奥の院

345 オクノテ　名詞
奥の手

346 オシエノニワ　名詞
教えの庭

347 オチャノコ　名詞
お茶の子

348 オテノモノ　名詞
お手の物

295 オトコノコ　名詞
男の子
天主の人らは【男の子】が出来た時だけ、

349 オノエ　名詞
尾の上

296 オモイノタケ　名詞
思いの丈
自由に【思いの丈】を書ける

297 オモイノホカ　名詞
思いの外
【思いのほか】落ち込む曲が多いと思ったし

298 オンナノコ　名詞
女の子
可愛い【女の子】と文通してみたいなあ。

350 オンノジ　名詞
御の字　「ありがたい」「しめたものだ」の意。

351 カイノクチ　名詞
貝の口

352 カギノテ　名詞
鉤の手

353 カゴノトリ　名詞
籠の鳥

354 カジノキ　名詞
梶の木

355 カズノコ　名詞
数の子

356 カゼノカミ　名詞
風の神

357 カゼノコ　名詞
風の子

358 カゼノタヨリ　名詞
風の便り

359 カタノゴトク　名詞
型の如く

360 カノコ　名詞
鹿の子

361 カバノキ　名詞
樺の木

362 カミノキ　名詞
紙の木

300 カミノク　名詞
上の句

299 カミノケ　名詞
髪の毛　『岩波国語辞典』になし。
あんなに【髪の毛】がワッサワッサしてたら

363 カメノコ　名詞
亀の子

364 カメノコウ　名詞
亀の甲

365 カモノハシ　名詞
鴨の嘴

366 カリノヨ　名詞
仮の世

367 カンノキ　名詞
貫の木

368 カンノムシ　名詞
疳の虫

369 キタノカタ　名詞
北の方

370 キタノマル　名詞
北の丸　『岩波国語辞典』になし。

371 キノカシラ　名詞
木の頭

372 キノクスリ　名詞
気の薬

373 キノジ　名詞
喜の字

301 キノドク　名詞
気の毒
　他の人たちは、【気の毒】だが

374 キノミ　名詞
木の実　『岩波国語辞典』になし。
　十月の草原で、【木の実】のかおりをかぎながら

302 キノメ　名詞
木の芽　サンショウの芽の意。
　【木の芽】を何か乗せると

375 キノヤマイ　名詞
気の病

376 グウノネ　名詞
ぐうの音
　【ぐうの音】もでなかった。

377 クサノイオリ　名詞
草の庵

378 **クサノネ** 名詞
草の根
【草の根】主義の成果だ

379 **クチノハ** 名詞
口の端

380 **クビノザ** 名詞
首の座

381 **クマノイ** 名詞
熊の胆

662 **クマノミ** 名詞
熊之実
ツノダシチョウチョウウオ【クマノミ】その他色々

382 **クモノウエ** 名詞
雲の上

383 **クモノミネ** 名詞
雲の峰
【雲の峰】ほどの思ひの我にあらば

384 **コウノモノ** 名詞
香の物

385 **コウノモノ** 名詞
剛の者

386 **コシノモノ** 名詞
腰の物

387 **コトノオ** 名詞
琴の緒

388 **コトノハ** 名詞
言の葉
【言の葉】のぴらぴら降れば

389 **コトノホカ** 名詞
殊の外
桜を【ことのほか】好きだったように思います。

303 **コノシタ** 名詞
木の下
桜散る【このした】風はさむからで

390 コノハ　　名詞
木の葉
主な食べ物は，【木の葉】や果実である。

391 コノマ　　名詞
木の間
【木の間】をビューッと吹き抜け。

392 コノミ　　名詞
木の実
植物は熟した【木の実】を必ず水の中に落とし

393 コノメ　　名詞
木の芽

394 サイノカワラ　　名詞
賽の河原

395 サイノメ　　名詞
采の目
クリームチーズを【さいの目】に切って

396 サキノヒ　　名詞
先の日
【先の日】に声をかけていただいた

397 サルノコシカケ　　名詞
猿の腰掛

398 サンノゼン　　名詞
三の膳

399 サンノトリ　　名詞
三の酉

400 サンノマル　　名詞
三の丸

401 シナノキ　　名詞
科の木

402 シノハイ　　名詞
死の灰

304 シモノク　　名詞
下の句
【下の句】が説明的で、

403 ジャノヒゲ　名詞
蛇の髭

404 ジャノメ　名詞
蛇の目

405 ジョノクチ　名詞
序の口

406 シラベノオ　名詞
調べの緒

407 スエノヨ　名詞
末の世
【末の世】のかなしき麦を打ちにけり

661 スズカケノキ　名詞
篠懸の木

408 スノコ　名詞
簀の子

409 スノモノ　名詞
酢の物
【酢の物】として食べるのが定番

410 セキノヤマ　名詞
関の山

411 セノキミ　名詞
兄の君

412 ソデノシタ　名詞
袖の下

413 ダイノジ　名詞
大の字

414 タケノコ　名詞
竹の子

415 タコノキ　名詞
蛸の木

416 タツノオトシゴ　名詞
竜の落とし子

417 タノモ　名詞
田の面

418 タビノソラ　名詞
旅の空

419 タマノアセ　名詞
玉の汗

420 タマノオ　名詞
玉の緒

421 タマノコシ　名詞
玉の輿
求婚されて【玉の輿】に乗るのです

422 タラノキ　名詞
たらの木

423 タラノコ　名詞
鱈の子

424 チノアメ　名詞
血の雨

425 チノイケ　名詞
血の池

426 チノウミ　名詞
血の海
自動車の中は【血の海】で、どこもかしこも粘っていた

427 チノケ　名詞
血の気
ハリファの顔から【血の気】が失せた。

428 チノナミダ　名詞
血の涙

429 チノミチ　名詞
血の道

430 チノメグリ　名詞
血の巡り

431 チノリ　名詞
地の利
あの【地の利】で、他と比べて一番安い駐車場

432 チノワ　名詞
茅の輪
たましひのかたちを想ふ【茅の輪】かな

433 チャノコ　名詞
茶の子

305 チャノマ　名詞
茶の間
高度成長期の【茶の間】を再現。

434 チャノユ　名詞
茶の湯
【茶の湯】のたしなみのない人もその風流な雰囲気に

435 ツカノマ　名詞
束の間
【束の間】の船長気分を堪能。

436 ツキノカツラ　名詞
月の桂

437 ツキノサワリ　名詞
月の障り

438 ツギノマ　名詞
次の間

439 ツキノモノ　名詞
月の物

440 ツキノワ　名詞
月の輪

441 ツラノカワ　名詞
面の皮

442 デクノボウ　名詞
木偶の坊

443 テツノハイ　名詞
鉄の肺

444 テノウチ　名詞
手の内

445 テノウラ　名詞
手の裏

446 テノコウ　名詞
手の甲
ほお紅下地を【手の甲】に取り

447 テノスジ　名詞
手の筋

448 テノヒラ　名詞
掌
【掌】で包んだ湯飲みを見つめ、

449 テノモノ　名詞
手の者

450 テノモノ　名詞
手の物

451 ドウノマ　名詞
胴の間

452 トキノコエ　名詞
鬨の声

453 トキノマ　名詞
時の間

454 トコノマ　名詞
床の間
正面の【床の間】を背にして座った白鳥医師を中心に

455 トシノイチ　名詞
年の市

456 トシノウチ　名詞
年の内

457 トシノクレ　名詞
年の暮れ
この【年の暮れ】にＧＣＳＢ職員が

458 トシノコウ　名詞
年の功
さすが【年の功】、誌面にしっくりなじんでいる。

459 トシノセ　名詞
年の瀬
【年の瀬】も押し詰まったこの時期の

460 トチノキ　名詞
栃の木

461 トドノツマリ　名詞
とどの詰まり
【とどのつまり】、デュプレは職を失った。

462 トノコ　名詞
砥の粉

463 トノモ　名詞
外の面

464 トビノウオ　名詞
飛びの魚

465 トビノモノ　名詞
鳶の者

466 トラノオ　名詞
虎の尾

467 トラノコ　名詞
虎の子
４１兆円の【虎の子】の税金からいただくのだ。

468 トラノマキ　名詞
虎の巻

469 トリノイチ　名詞
酉の市

470 トリノコ　名詞
鳥の子

471 トリノマチ　名詞
酉の待

472 ナカノクチ　名詞
中の口

473 ナカノマ　名詞
中の間
宴会に備えての準備を指図して【中の間】に入り

474 ナキノナミダ　名詞
泣きの涙

475 ナゴリノツキ　名詞
名残の月

476 ナナツノウミ　名詞
七つの海

477 ナノハナ　名詞
菜の花
ゴールデンウイークは【菜の花】、桜が見頃。

478 ナミノハナ　名詞
波の花

479 ナミノホ　名詞
波の穂

480 ナレノハテ　名詞
成れの果て

481 ニシノウチ　名詞
西の内

482 ニノアシ　名詞
二の足
開発には【二の足】を踏んだかもしれない

483 ニノウデ　名詞
二の腕
たかの友梨に行って美しい【二の腕】に仕上げなきゃ

484 ニノカワリ　名詞
二の替わり

485 ニノク　名詞
二の句

486 ニノゼン　名詞
二の膳

487 ニノツギ　名詞
二の次

488 ニノトリ　名詞
二の酉

489 ニノマイ　名詞
二の舞
父の【二の舞い】にならないとは限らない。

490 ニノマル　名詞
二の丸

491 ニノヤ　名詞
二の矢

306 ネンノタメ　名詞
念の為
【念のため】にここまでお供いたしましたが

492 ノチノヨ　名詞
後の世
【後の世】に逢はば二本の氷柱かな

493 ノミノイチ　名詞
蚤の市

494 バケノカワ　名詞
化けの皮

495 ハチノアタマ　名詞
蜂の頭

496 ハチノコ　名詞
鉢の子

497 ハチノス　名詞
蜂の巣

498 ハツヒノデ　名詞
初日の出

499 ハラノムシ　名詞
腹の虫

500 ハリノキ　名詞
榛の木

501 ハンノキ　名詞
榛の木

502 パンノキ　名詞
パンの木

503 ヒノイリ　名詞
日の入り
【日の入り】時間のチェックをお忘れなく。

504 **ヒノクルマ** 名詞
火の車

お隣りは外車で我が家【火の車】

505 **ヒノケ** 名詞
火の気

【火の気】のないテントの中は寒く、

506 **ヒノコ** 名詞
火の粉

507 **ヒノタマ** 名詞
火の玉

508 **ヒノテ** 名詞
火の手

307 **ヒノデ** 名詞
日の出

【日の出】を迎えることができた。

509 **ヒノバン** 名詞
火の番

510 **ヒノマル** 名詞
日の丸

ロビーに【日の丸】を掲げるように要求した

511 **ヒノミ** 名詞
火の見

512 **ヒノメ** 名詞
日の目

【日の目】を見なかったかつての極秘文書をベースに

513 **ヒノモト** 名詞
日の本

514 **ヒノモト** 名詞
火の元

515 **フキノトウ** 名詞
蕗の薹

516 **フクノカミ** 名詞
福の神

家族は「素行の悪い、【福の神】」と呼んでいる

517 フシノキ　名詞
五倍子の木

518 ヘソノオ　名詞
臍の緒

第一の誕生の際に【臍の緒】の代わりとなった母乳は、

519 ホオノキ　名詞
朴の木

520 ホゾノオ　名詞
臍の緒

521 ホトケノザ　名詞
仏の座

522 ホノジ　名詞
ほの字　『岩波国語辞典』になし。

523 ボンノクボ　名詞
盆の窪

524 マクノウチ　名詞
幕の内

525 マゴノテ　名詞
孫の手

526 マタノナ　名詞
又の名

527 マタノヒ　名詞
又の日

528 マツノウチ　名詞
松の内

308 マノアタリ　名詞
目の当たり

現実を【目の当たり】にしていたのである

529 ミズノアワ　名詞
水の泡

530 ミズノテ　名詞
水の手

531 ミチノベ　名詞
道の辺

532 ミナノシュウ　名詞
皆の衆

309 ミノウエ　名詞
身の上
いまひとつ役割に恵まれない【身の上】を、

533 ミノケ　名詞
身の毛

534 ミノシロ　名詞
身の代
【身の代】金目的略取等,

535 ミノタケ　名詞
身の丈

310 ミノホド　名詞
身の程
人間は【身の程】を知るべきです

311 ミノマワリ　名詞
身の回り
われわれの【身のまわり】は、

536 ムカウノサト　名詞
無何有の郷

537 ムギノアキ　名詞
麦の秋

538 ムクノキ　名詞
椋の木

539 ムシノイキ　名詞
虫の息

540 ムスビノカミ　名詞
結びの神

312 メノカタキ　名詞
目の敵
伝統芸能まで【目の敵】にするような

541 メノコ　名詞
目の子

542 メノシタ　名詞
目の下

543 メノタマ　名詞
目の玉
二つの【目の玉】が飛び出してしもうての、

544 モチノキ　名詞
黐の木

545 モッテノホカ　名詞
以ての外
「魚を裏返すなど【もってのほか】！」とエキサイト。

546 モノノカズ　名詞
物の数

547 モノノグ　名詞
物の具

548 モノノケ　名詞
物の気

549 モノノホン　名詞
物の本

550 ヤノジ　名詞
やの字

551 ヤノネ　名詞
矢の根

552 ヤブノナカ　名詞
藪の中

553 ヤマノイモ　名詞
山の芋

554 ヤマノカミ　名詞
山の神

555 ヤマノサチ　名詞
山の幸

313 ヤマノテ　名詞
山の手
【山の手】の閑静な雰囲気を漂わせている

556 ヤマノハ　名詞
山の端
ビルのかなたの【山の端】

557 ユキノシタ　名詞
雪の下

558 ユノハナ　名詞
湯の花

559 ヨイノクチ　名詞
宵の口

560 ヨノギ　名詞
余の儀

561 ヨノツネ　名詞
世の常

314 ヨノナカ　名詞
世の中
【世の中】で色々なことが起きている

562 ヨノナライ　名詞
世の習い

563 ヨノメ　名詞
夜の目

564 リュウノヒゲ　名詞
竜の鬚

565 ロウノキ　名詞
蝋の木

566 ワキノシタ　名詞
脇の下
体温計は、耳式と通常の【脇の下】や舌先で測定できる

567 ワタノハラ　名詞
海の原

助詞

ID	代表形 代表表記	品詞 注記	活用型・その他	接続	異形態
158	イ い	助詞	終助詞	活用語には終止形，命令形	

「一緒に来るか【い】」，
あとをつけているんだ【い】？
ほう、そうか【い】。これは恐れ入りました。

159	カ か	助詞	副助詞	活用語には終止形，助動詞「べし」には連体形	

何と【か】ならないものだろうか。
文化的な背景と【か】、
本物【か】どう【か】の疑問が残る。

160	カ か	助詞	終助詞	活用語には終止形，ただし助動詞「べし」には連体形。	

/か/い[終助詞]/，/か/な[終助詞]/，/か/も[副助詞]/

【か】と言って、相手の言いなりになって
チョウチョ【か】な？
配合がうまくいったの【か】も。

161	ガ が	助詞	格助詞		

認定委員会【が】認めた

162	ガ が	助詞	接続助詞	活用語には終止形	

印象しかないんだろう【が】、
だ【が】東欧加盟の見通しは険しい。

163	カシラ かしら	助詞	副助詞	活用語には終止形	

何【かしら】の情報はつかめるし、

164	カシラ かしら	助詞	終助詞	活用語には終止形	

どのくらい変わっている【かしら】？
なにをしようとしているの【かしら】？

165	カラ から	助詞	格助詞		

その動機【から】して
それ【から】もう一人、

166	カラ から	助詞	接続助詞	活用語には終止形	

だ【から】、肌にうるおいも出てきます。
此処を真如堂と言う【から】には
仲介に乗り出す【から】

167 キリ　　助詞　　副助詞　　活用語には終止形　　ッキリ
きり

あれ【っきり】、旅宿中は、
二人【きり】になりたいとか思って、
寝た【きり】の状態でありながら

168 クライ　　助詞　　副助詞　　活用語には連体形　　グライ
くらい

どの【くらい】効果があるの？
目標は２５位としていた【くらい】だから、
選挙区が三十八万人【ぐらい】いて、

169 ケ　　助詞　　終助詞　　活用語には終止形　　ッケ
け

えーと誰だ【っけ】
フォールの操作はどうだった【っけ】？

170 ケレド　　助詞　　接続助詞　　活用語には終止形　　ケド
けれど　　/けれど/も[副助詞]/, /けど/も[副助詞]/

私は質問を避けません【けれど】も、
最近買ったわけではない【けど】
部門にもよるだろう【けど】も、

171 コソ　　助詞　　副助詞
こそ

世界にも例のないほどの多雨【こそ】が、
スクリーンへよう【こそ】

172 サ　　助詞　　終助詞　　活用語には終止形
さ

今日の午後持ってくるから【さ】。
見事当選しましたと【さ】

173 サエ　　助詞　　副助詞
さえ

ストロボ位置【さえ】連動範囲を保てば、
楽しみのひとつで【さえ】ある。

174 サカイ　　助詞　　接続助詞　　活用語には終止形
さかい　　方言

175 シ　　助詞　　接続助詞　　活用語には終止形
し

かむと味がある【し】、腹もちもいい。
自覚していた【し】、

176 シカ　　助詞　　副助詞　　活用語には終止形
しか

まだ４７名の合格者【しか】いない。
海底１万ｍの間ぐらいに【しか】

177 シモ　　助詞　　副助詞
しも

誰【しも】すぐ思い浮べるのは
必ず【しも】現実的とはいえない
なきに【しも】あらずだったように思います

178 ズツ　　助詞　　副助詞
ずつ

ひとり【ずつ】洗顔し、素顔の状態で測定。
少し【ずつ】慣れて、最後は４０分に短縮できた。

179 スラ　　助詞　　副助詞
すら

駆け出しの若い指揮者たち【すら】、
包囲網は狭まりつつある感【すら】ある。

180 ゼ　　助詞　　終助詞　　活用語には終止形
ぜ

起きて準備して出掛けよう【ぜ】！

181 ゾ　　助詞　　副助詞
ぞ

知る人【ぞ】知る、フレンチの隠れた名店
これ【ぞ】わが社のＵＤ商品

182 ゾ　　助詞　　終助詞　　活用語には終止形
ぞ

誇り高き福溝一族の末裔だ【ぞ】！

183 ダケ　　助詞　　副助詞　　活用語には連体形
だけ

できる【だけ】自然な言語生活を示すように
医療機関を選択するときに有用な【だけ】でなく、
給付水準の調整【だけ】でも早めに終え、

184 タッテ　　助詞　　副助詞　　活用語には連用形，終止形，命令形　　ッタッテ
たって

どんなにくやしがっ【たって】、
安く【たって】キュートで優秀なコスメがいっぱい！
すぐしろ【たって】

185 タラ　　助詞　　副助詞　　活用語には終止形　　ッタラ
たら

いやだー、先生【ったら】。

何【たら】プリンターというのが

186 タラ たら　助詞　終助詞　活用語には終止形　ッタラ

もういい【ったら】

187 タリ たり　助詞　副助詞　連用形

下を向い【たり】、涙を流し【たり】するのに、
日本でミュージカルの話題になっ【たり】すると、

188 ツ つ　助詞　副助詞　連用形　ズ

抜き【つ】抜かれ【つ】の関係だったんですが
組ん【ず】ほぐれ【つ】

189 ツツ つつ　助詞　接続助詞　連用形

『補闕記』『伝暦』を念頭に置き【つつ】、
資産デフレ対策を短期的に打ち【つつ】、

190 ッテ って　助詞　副助詞　活用語には終止形　テ

やつが戻ってきたらおれが何【て】言うか
腰が痛い〜【って】言ってた。
阪神【って】チームは

191 テ て　助詞　接続助詞　連用形

彼女をどうし【て】も許すことができなかった。
音とし【て】もラグに新しい世界を与えましたよね。
人工酵素の開発が進ん【で】いる

192 デ で　助詞　格助詞

それ【で】日記に書いていたのであるが、
ところ【で】なんで卓球部だったの？
衆院本会議【で】所信表明演説に立つ小泉首相

193 デ で　助詞　接続助詞　文語の活用語の未然形
文語

３Ｄなら【で】はの表現を生かして

194 ト と　助詞　格助詞　ット

前接の活用語の活用形を連体形とするのは，助動詞「だ」など
終止形と連体形とで語形が異なる場合のみ。

派遣指導員【と】いう形で

山風にはらはら【と】紅葉が舞った後

195 ト と　助詞　接続助詞　終止形　ット

チャーハンやとろろ丼にする【と】
誰が何をいおう【と】ダメです！

196 **ドコロ** 助詞 副助詞 活用語には連体形
どころ

それ【どころ】か子どもたちはいつも
月【どころ】か星も見えない。

197 **トモ** 助詞 接続助詞 動詞・動詞型活用の助動詞の終止形，形容詞・形容詞型活用の助動詞の連用形
とも

今の日本円で少なく【とも】六億円
二〇〇四年度中に多少なり【とも】

198 **ナ** 助詞 終助詞 活用語には終止形 ナア
な

なるほど、こうすれば、いいんだ【な】。
前転はスポーツか【なあ】
時間につぶされる【な】、

199 **ナガラ** 助詞 接続助詞 連用形
ながら

残念【ながら】現代人のなかには、
しかし【ながら】、表１は仮想的な推計に過ぎません。
これからは試合を生で見【ながら】、

200 **ナゾ** 助詞 副助詞
なぞ

友達の友達【なぞ】は酔っぱらって

201 **ナド** 助詞 副助詞 活用語には終止形
など

十年債【など】に集中する

202 **ナラ** 助詞 副助詞
なら

203 **ナリ** 助詞 副助詞
なり

撫でつける【なり】なん【なり】できるでしょう。
きちんとした法律【なり】条例【なり】を

204 **ナリ** 助詞 接続助詞 活用語には終止形
なり

クルマに乗る【なり】話しかけた。

205 **ナンカ** 助詞 副助詞
なんか 「なにか」の転

太って【なんか】ないじゃないですか

206 ナンテ　助詞　副助詞　活用語には終止形
なんて　「などと」の転

自分に話したいこと【なんて】、
魚がこんなに勢いよく暴れる【なんて】！

207 ニ　助詞　格助詞　活用語には終止形
に

適正値を得る【に】はまずシャッター速度を
ランク【に】ついては行列の教科書を参照
実際【に】は所管官庁ＯＢの天下りも多い。

208 ネ　助詞　終助詞　活用語には終止形　ネエ
ね

よく泊めてくれますよ【ね】

209 ノ　助詞　格助詞　活用語には連体形　ン
の

ここ【ん】とこの解き方、
薫製だ【の】煮込み料理だ【の】を食べたいかといったら

210 ノ　助詞　準体助詞　活用語には連体形　ン
の

手がかりを教えられてきた【の】である。
いったいどれだけバットを振ってきた【の】か
バランスをとる【の】に役立っているようだ。

211 ノ　助詞　終助詞　活用語には連体形　ン
の

優勝セールをしていて、こんなのいつ着る【の】？

212 ノミ　助詞　副助詞　活用語には連体形
のみ

米国が多者会談に【のみ】固執するなら、

213 ハ　助詞　係助詞
は

それからお菓子【は】色々ドイツのシュトーレンですとか

214 バ　助詞　接続助詞
ば

浴衣風に着れ【ば】街着っぽく。

215 バカリ　助詞　副助詞　活用語には連体形　バッカリ
ばかり

笑みを浮かべる【ばかり】だった。
ことさら強調したい【ばかり】に

216 ヘ　助詞　格助詞
へ

翌日からすぐに、ふだんの食事【へ】戻りました。

217 ホド　　助詞　　副助詞　　活用語には連体形
ほど

それ【ほど】難しいとは感じない。

218 マデ　　助詞　　副助詞　　活用語には連体形
まで

被写体【まで】の距離が
これほど【まで】に歴史の痕跡が、
１２月末【まで】の予定だったが、

219 モ　　助詞　　副助詞
も

二十代と言って【も】おかしくない
「イラク難民」とは言うけれど【も】、

220 モノ　　助詞　　終助詞　　活用語には連体形
もの

おのれ風情に偽りなんぞいう【もん】か。
太平洋戦争中も漫画を描き続けた人です【もの】。

221 ヤ　　助詞　　副助詞
や

金融機関から債券【や】手形を買い、
またも【や】ハッサニは半翳りの微笑を
「りそな国有化」でさらに下落かと思いき【や】、

222 ヤ　　助詞　　終助詞　　活用語には終止形
や

どうにかすればいい【や】、と思っているだけだ。

223 ヤラ　　助詞　　副助詞
やら

どう【やら】画期的な疱瘡予防法である
おかしい【やら】、懐かしい【やら】。

224 ヨ　　助詞　　終助詞　　終止形・命令形　　ヨウ
よ

もっとしっかりしろ【よ】」といっても、
打ち方をしていないからかもしれません【よ】。

225 ヨリ　　助詞　　格助詞　　活用語には連体形
より

何【より】の証拠だ。
現状【より】はるかに大量に買い入れる
日本【よ】かストレスが溜まる

226 ワ　　助詞　　終助詞　　活用語には終止形
わ

構わない【わ】よ、
俺にしがみついてくる【わ】、乗っかってくる【わ】で、

227 ヲ
を
助詞　格助詞

手拭いで手【を】ふきながら、
やむ【を】得ずフリーターをしている若者たち

助動詞

ID	代表形 代表表記	品詞 注記	活用型・その他	接続	異形態
249	ウ う	助動詞 意志・推量	口語型	五段・形容詞・助動詞「だ」の未然形	

共同の仲間と一緒にやろ【う】という態勢を作って
どういう感情を持つだろ【う】か

267	ウズ うず	助動詞 意志・推量	文語型	未然形	
270	キ き	助動詞 過去・完了	文語型	連用形	

アイドルセイントフォーのような映画かと思い【き】や
あり【し】日の祖父の話をするようになって

271	ケリ けり	助動詞 過去・完了	文語型	連用形	

柚の実のかたえは青く冬去りに【けり】

286	ゴトシ ごとし	助動詞 比況	文語型	名詞＋助詞「の」，代名詞＋助詞「が」，連体形，連体形＋助詞「の」	

当然の【ごとく】座るんですね
怒とうの【ごとき】そのエネルギーに押されるように

229	サセル させる	助動詞 使役	口語型	五段・サ変以外の未然形	

言葉を覚え【させ】たいんだと言って
その友達に電話を掛け【さし】て
いわゆる暗記とかを【させる】んじゃなくて

244	ザマス ざます	助動詞 断定	口語型	体言	

遊女語【ざます】と類似性があり

289	ジ じ	助動詞 打ち消し推量	文語型	未然形	

Ｊリーグに負け【じ】といろいろな改革を

279 シム　　助動詞　　文語型　　未然形
しむ　　使役

230 シメル　　助動詞　　口語型　　未然形
しめる　　使役
極論を言わ【しめ】ないよう

238 ジャ　　助動詞　　口語型　　体言，連体形＋助詞「の」，助動詞「べし」の連体形
じゃ　　断定
今初めて読んでも何【じゃ】こりゃって

264 シャル　　助動詞　　口語型　　未然形
しゃる　　尊敬
お行きやす行か【っしゃる】という助動詞としての

247 ズ　　助動詞　　口語型　　未然形　　ぬ
ず　　打ち消し
庶務的業務にも力も出せ【ず】にあまり興味も持たずに
これが問題にならないように憲法を改め【ざる】を得ない訳です
その子の病気は気管支炎ではありませ【ん】でした

228 セル　　助動詞　　口語型　　五段・サ変の未然形
せる　　使役
いわゆる暗記とかをさ【せる】んじゃなくて
期待に胸を膨らま【し】てて凄くわくわくした気持ちで

248 タ　　助動詞　　口語型　　連用形
た　　過去・完了
安く泊まりたいんだっ【たら】朝食は(D つ)(D つ)付けなくて
以前の病院とは違ってウイルスが全然出なかっ【た】ことを
その部屋に何と駆け込ん【だ】んですね

239 ダ　　助動詞　　口語型　　体言，連体形＋助詞「の」，助動詞「べし」の連体形
だ　　断定，いわゆる形容動詞及び形容動詞活用型の助動詞の活用語尾を含む。
予想されるところは眼前の評価【で】ありますし
ひょっとしたら難しいのかなというよう【な】ことも
近似的【に】やる手はあるんですけれどもね

280 タイ　　助動詞　　口語型　　連用形
たい　　希望
電車賃をけちり【たかっ】たちゅうのが
待遇表現行動ということをこう考えてみ【たい】

235 タガル　　助動詞　　口語型　　連用形
たがる　　希望
寂しいところに旅に行き【たがる】傾向がありまして
O型は目立ち【たがり】屋A型は神経質

260 タゲル　　助動詞　　口語型　　動詞の連用形
たげる　　補助動詞縮約形，「てあげる」の縮約形
ファックスで送っ【たげ】たりして

284 タシ　　助動詞　　文語型　　連用形
たし　　希望

276 タリ　　助動詞　　文語型　　体言
たり　　断定
フクロウの声は思想家【たら】しめる
酒造りは食文化の最【たる】もの。
確固【たる】信念による行動であったり

261 タル　　助動詞　　口語型　　動詞の連用形
たる　　補助動詞縮約形，「てやる」の縮約形
殴っ【たっ】てんという風に

258 チマウ　　助動詞　　口語型　　動詞の連用形
ちまう　　補助動詞縮約形，「てしまう」の縮約形
水蒸気か酸素どっちか取っ【ちまえ】ばいい

259 チャウ　　助動詞　　口語型　　動詞の連用形
ちゃう　　補助動詞縮約形，「てしまう」の縮約形
身振り手振りのコミュニケーションという感じになっ【ちゃっ】た
好きだった子が死ん【じゃう】かもっていう風に思ったのが

262 チャル　　助動詞　　口語型　　動詞の連用形
ちゃる　　補助動詞縮約形，「てやる」の縮約形

272 ツ　　助動詞　　文語型　　連用形
つ　　過去・完了

263 ツウ　　助動詞　　口語型　　動詞の連用形，助動詞「べし」の連体形　　っつう・（っ）ちゅう
つう　　補助動詞縮約形，「という」の縮約形
会社に何て言うの【っつっ】て
どっちか【っつう】と派手な時計なんですね
当然ながら働く【っちゅう】意欲がそこに出てくるはずだ

253 テク　　助動詞　　口語型　　動詞の連用形
てく　　補助動詞縮約形，「ていく」の縮約形
そっちのルートに持っ【てか】れた訳です
善福寺川に土手沿いに下り【てっ】て

254 テケル　　助動詞　　口語型　　動詞の連用形
てける　　補助動詞縮約形，「ていける」の縮約形
調子悪くて連れ【てけ】ないということで

240 デス　　助動詞　　口語型　　体言，連体形＋助詞「の」，終止形，助動詞「べし」の連体形
です
断定
三人しかいません【でし】て
写真で見てた風景という感じなん【でしょ】うか

252 テラッシャル　　助動詞　　口語型　　動詞の連用形
てらっしゃる　　補助動詞縮約形，「ていらっしゃる」の縮約形
隣り合わせの方も一人で参加し【てらっしゃい】ました
安全に心配なく住ん【でらっしゃる】ことと思います

251 テル　　助動詞　　口語型　　動詞の連用形
てる　　補助動詞縮約形，「ている」の縮約形
社会的に問題になっ【て】ますけれども
その時の印象として覚え【てる】のは
話し合いは済ん【で】たんですけれども

255 トク　　助動詞　　口語型　　動詞の連用形
とく　　補助動詞縮約形，「ておく」の縮約形
予め申し上げ【とき】ますけれども
玄関の前に駐車させ【とい】て

256 トケル　　助動詞　　口語型　　動詞の連用形
とける　　補助動詞縮約形，「ておける」の縮約形
結局(F あのー)ほっ【とけ】ないというところで

241 ドス　　助動詞　　口語型　　体言，連体形＋助詞「の」，助動詞「べし」の連体形
どす
断定

257 トル　　助動詞　　口語型　　動詞の連用形
とる　　補助動詞縮約形，「ておる」の縮約形
標準体重ということになっ【とり】まして

281 ナイ　　助動詞　　口語型　　未然形
ない　　打ち消し
よくある話題かもしれ【ない】んですけれども
家を改造し【なきゃ】いけないとは

275 ナリ　　助動詞　　文語型　　体言，連体形
なり　　断定
浅草【なら】ではと思うのはですね

273 ヌ　　助動詞　　文語型　　連用形
ぬ　　過去・完了
さもあり【な】んとの気にもなる
風と共に去り【ぬ】というミュージカルでした

246 ネン　　助動詞　　口語型　　終止形
ねん　　断定
これは上方歌舞伎から出た言葉です【ねん】
曲がん【ねん】かあっていうのがあり

243 ハル　　助動詞　　口語型　　未然形，連用形
はる　　尊敬
京都が行か【はる】で大阪行きはるだっていう
京都奈良は大阪兵庫よりも【はる】敬語の使用が多い

285 ベシ　　助動詞　　文語型　　終止形
べし　　推量
策を練り行動す【べき】であると思いますが
働かざる者食う【べから】ずっちゅう

269 ベラナリ　　助動詞　　文語型　　終止形，ラ変の動詞・ラ変型活用の助動詞には連体形
べらなり　　推量

283 マイ　　助動詞　　口語型　　五段の終止形，五段以外には未然形
まい　　打ち消し意志・打ち消し推量
もう帰りのことは考え【まい】と振り切るようにして

288 マジ　　助動詞　　文語型　　終止形，ラ変・形容詞・ラ変型活用の助動詞には連体形
まじ　　打ち消し推量

236 マス　　助動詞　　口語型　　連用形
ます　　丁寧
足を取られて転倒したことがござい【ます】

265 ム　　助動詞　　文語型　　未然形
む　　意志・推量
さもありな【ん】との気にもなる

268 メリ　　助動詞　　文語型　　終止形
めり　　推量

245 ヤ　　助動詞　　口語型　　体言，連体形＋助詞「の」，終止形，助動詞「べし」の連体形
や　　断定
だからなん【や】ねん。
へそくりはどうなる【やろ】か死んだ時

242 ヤス　　助動詞　　口語型　　連用形
やす　　丁寧

250 ヨウ
よう
助動詞　口語型　五段・形容詞・助動詞「だ」以外の未然形
意志・推量
やっぱり出題をしてみ【よう】と思って

287 ラシ
らし
助動詞　文語型　ラ変・形容詞・ラ変型活用の助動詞の連体形，それ以外には終止形
推量
治療【らしき】ものはなく
長男【らしから】ぬ気楽な人間なんです

282 ラシイ
らしい
助動詞　口語型　体言，形状詞，終止形
推量
ローマ人の町という意味【らしい】です
保育園の排水溝【らしき】ところかな

266 ラム
らむ
助動詞　文語型　終止形
現在推量
印なく濡る【らん】袖を交わしつつ思うにひつる我も儚し

278 ラル
らる
助動詞　文語型　未然形
受身・可能・自発・尊敬

234 ラレル
られる
助動詞　口語型　五段・サ変以外の未然形
受身・可能・自発・尊敬
それはもう日本人には考え【られ】ない贅沢な食事です
目の前で猫に食べ【られ】ちゃったんだけど

274 リ
り
助動詞　文語型　サ変の未然形，四段の命令形
完了・存続
大学院におけ【る】教育実習の在り方について考えたい
自分の持て【る】知識を全て総動員して

277 ル
る
助動詞　文語型　未然形
受身・可能・自発・尊敬
泣くというては憎ま【るる】

233 レル
れる
助動詞　口語型　五段・サ変の未然形
受身・可能・自発・尊敬
凄く看護婦さんとかに怒ら【れ】て
基礎練習ってのが非常に重要視さ【れ】ておりまして

237 ンス
んす
助動詞　口語型　四段・ナ変の未然形
丁寧
とぼされるにはあき【んし】た

接頭的要素

ID	代表形 代表表記	品詞 注記	活用型・その他	接続	異形態

1 アイ
相

接頭辞

「相」と１最小単位との結合体が名詞である場合は除く。（相=乗り，相=討ち）

本書の他の論文と【相】まって、
カモフラ柄って【相】変わらず人気ですね。
東京の玄関とも言える地に昨年【相】次いで開業し

2 オ
御

接頭辞

次に挙げるものは，後の部分と併せて1最小単位とする。［御足，お家（芸・流），お薄，おかか，お鏡，おかき，御陰，おかず，お河童，おかま，御上，おから，おかわ，お冠，御髪，お好み（焼き），おこわ，お下げ（髪），御座なり，おざぶ，おしっこ，おしめ，おじや，お釈迦，お洒落，お節，お宅，お尋ね（者），お多福，お陀仏，お玉，お手（上げ），おでき，お手の物，お転婆，お伽（話），お腹，お握り，お主，お寝しょ，お萩，お払い（箱），おひたし，お冷や，お袋，御前，おまけ，おまる，お巡り，お目見え］

書き言葉と話し言葉は、【お】互いにとても異なっています。
また新たな部屋になった時、もう一度【お】願いします。
いつもは寡黙な【お】父さんが大活躍するのよ

3 オン
御

接頭辞

次に挙げるものは，後の部分と併せて1最小単位とする。［御曹司，御大，御身］

篤種公、【御】年、五十ノ冬
【御】礼申し上げます

4 カク
各

接頭辞

漢語の1最小単位と結合したものは除く。（各=国，各=地）

【各】ユニットが市松模様のように並ぶ構成が現れる。
【各】スロットにメモリーカードを入れ

6 ゴ
御

接頭辞

次に挙げるものは，後の部分と併せて1最小単位とする。［御供（ごく），御所，御仁，御神火，御前，御託，御殿，御飯，御免，御覧］

ジュンプランニングの【御】存じ
おゆるしのほどを…して、【御】用は？

5 コン
今

接頭辞

漢語の1最小単位と結合したものは除く。（今=回，今=度）

【今】プロジェクトの計画研究メンバー１０人のうち
【今】シーズンは計約４トンの出荷を見込んでいる。

7 ショ
諸

接頭辞

漢語の1最小単位と結合したものは除く。（諸=国，諸=所）

【諸】届けとか融資など

8 ゼン　　接頭辞
全　　漢語の1最小単位と結合したものは除く。（全=国，全=社）
【全】キャリアおよび全機種に対応している。

9 タイ　　名詞
対　　漢語の1最小単位と結合したものは除く。（対=米，対=人）
あらゆる書類や【対】マスコミ用の原稿が
「【対】北」世論が左右

10 ホン　　接頭辞
本　　「この」の意。漢語の1最小単位と結合したものは除く。（本件）
【本】ページの下を参照のこと。
【本】カレンダーは日本車両が２５年以上の歴史を誇る

11 ミ　　接頭辞
御　　次に挙げるものは，後の部分と併せて1最小単位とする。［大御，御門，御酒，御鑞，御子，御輿，御霊，御幸］
【御】仏

接尾的要素

ID	代表形 代表表記	品詞 注記	活用型・その他	接続	異形態
13	アガリ 上がり	接尾辞 前にその職業・身分だった者の意。			
	アイドル【上がり】なんですけど				
14	アグネル あぐねる	動詞	ナ行下一段	動詞連用形	
	信直が納得すまい、と考え【あぐね】ているうちに、 多くの国会議員が答えを出し【あぐね】、				
664	アソバス 遊ばす	動詞	サ行五段（文語サ行四段）	動詞連用形，体言	
	三十七生害に及びし跡にて、御尋ね【あそばし】、				
665	アタウ 能う	動詞 動作・状態の継続・進行を表す。	ワア行五段（文語ハ行四段）	活用語の連用形・連体形	
	余輩をして唯だ語り【能ふ】所を語らしめよ 之を明にする【能は】ずと雖も、				
659	アタリ 当たり	接尾辞			
	一人【当たり】十五文ずつ発声していただき 生起確立を文字【当たり】ので平均化したものの				

15 **アテ**
宛　　接尾辞

名あての意。「名宛(人)」の「宛」は除く。

下院議員に立候補し落選した時に娘【宛】に出した
沼さんから私【あて】に解任状が届きました。

16 **アテ**
宛　　接尾辞

「～に対して」の意。

ひとり【宛】五個

666 **アル**
有る　　動詞　　ラ行五段（文語ラ行変格）　動詞の連用形に接続。

動作・状態の継続・進行を表す。

試作報告用紙に掲げ【ある】事項を記入して
紙の張り【ある】板何枚かをひつくり返して

17 **イタス**
致す　　動詞　　サ行五段（文語サ行四段）

先生にお預け【いたし】ます。
応募者全員にプレゼント【いたし】ます！！
手術が無事成功し、安堵【いたし】ました。

667 **イル**
居る　　動詞　　ア行上一段（文語ワ行上一段）　動詞連用形

朝寒の庭掃く男變り【居】し
一民族を以て一國民となし【居る】ものは無い。

18 **ウエ**
上　　接尾辞

「決して父【上】を煩さぬ」と覚悟を決めていた。
作者の母【上】の「ありがたいありがたい」にも、

19 **エル**
得る　　動詞　　ア行下一段（文語ア行下二段）　動詞連用形　　ウル

「～することができる」の意。

青山を語る補助線となり【得る】ものなのだ。
コレはあり【得る】注目株！
政権を担い【得る】政党として国民から認知された

20 **オエル**
終える　　動詞　　ア行下一段（文語ハ行下二段）　動詞連用形

チョウの図鑑を回し【終え】た
書き【終え】てからは当分音楽を聴かなかったほどです。
うまいタイトルだなあと、読み【終え】て納得。

21 **オオセル**
果せる　　動詞　　サ行下一段（文語サ行下二段）

「すっかり終える」の意。

隠し【おおせる】

22 **オクレル**　動詞　ラ行下一段（文語ラ行下二段）　動詞連用形
遅れる

終電に乗り【遅れ】た。
わが国が立ち【遅れ】ている分野について
二塁打は振り【遅れ】だが、

668 **オル**　動詞　ラ行五段（文語ラ行変格）　動詞連用形
居る
動作・状態の継続・進行を表す。
世の物議を醸し【居れ】るに、今一朝にして
『今日も存命であるか、證人は存じ【居ら】ぬか？』

669 **オワス**　動詞　サ行変格　動詞連用形
御座す
動作・状態の継続・進行を表す。
御衣ぞの袖を引きまさぐりなどしつつ、紛らはし【おはす】。

23 **オワル**　動詞　ラ行五段（文語ラ行四段）　動詞連用形
終わる

部屋の反対側まで歩き【終わる】と

24 **カ**　接尾辞
化
漢語の１最小単位と結合したものは除く。（特=化，液=化）
グローバル【化】・少子高齢【化】などの
ガリウムのワックス【化】へのきっかけには
１９７１年にテレビ【化】され、

26 **ガカル**　接尾辞

ベージュ【がかっ】たパールだから
芝居【がかっ】た演出をしたり

29 **カタ**　接尾辞
方
「仕方」の「方」は除く。
体育遊びのあり【方】や、
大好きな海での過ごし【方】なんだけどさ。
円高になるとの見【方】が大勢だ。

30 **ガタ**　接尾辞
型
和語・漢語の１最小単位と結合したものは除く。（朝=型，中=型）
グリップ【型】にできる
特に草履【型】のトングサンダルは、

31 **ガタ**　接尾辞
方
複数を表す。
医学館の先生【方】に診察していただき、
あなた【方】

32 **ガタ**　　接尾辞
方　　おおよそそのぐらいであることを表す。
マーカーがないものが三割【方】ですね

33 **ガタイ**　　接尾辞　　口語形容詞型（文語形容詞型１）　動詞連用形
難い

よほど扱い【難い】
手がかからなくて、有り【難い】のですが
何物にも代え【難い】存在だった。

34 **ガタガタ**　　接尾辞
方々
見舞い【かたがた】庚申堂を訪れると、

35 **ガチ**　　接尾辞
勝ち
結果オーライになり【がち】で
太陽政策に傾き【がち】な韓国政府を
意欲も薄れ【がち】です。

36 **ガテラ**　　接尾辞
がてら
紅葉狩り【がてら】楽しめるのが
あいさつ【がてら】のまくらで

37 **カネル**　　接尾辞　　ナ行下一段（文語ナ行下二段）　動詞連用形
兼ねる

まことに申し【兼ね】ますが
お待ち【かね】の“ハリポタ”最新ニュースを
悪影響が広がり【かね】ない。

39 **ガル**　　接尾辞　　ラ行五段（文語ラ行四段）　形容詞・形状詞接続
がる
助動詞「たがる」の「がる」は除く。
祖母のかわい【がり】ようが尋常でなく
藻を怖【がる】なんて、
写真を飾るのは嫌【がっ】ていたんだが

40 **カワス**　　動詞　　サ行五段（文語サ行四段）　動詞連用形
交わす
「互いに～する」の意。
泰安相手に酒を酌み【交わし】ていた。

41 **カン**　　接尾辞
間　　漢語の1最小単位と結合したものは除く。（空=間，車=間）
サーバ【間】の情報交換に使用される
具体的なデータ【間】の因果関係は
ブランド【間】の価格格差が一段と進む

42 ギミ　　接尾辞
君

姫【君】
母【君】

43 キル　　動詞　　ラ行五段（文語ラ行四段）　動詞連用形
切る

「すっかり～し終える」の意。

すでに大半を使い【きっ】てしまい、
パワーを使い【切っ】て走る爽快感あり
チケットが売り【切れ】ている場合もあります。

44 クサイ　　接尾辞　　口語形容詞型（文語形容詞型１）
臭い

「～めいた感じがする」という意。望ましくない意を強める用法。「かび臭い」「焦げ臭い」の「くさい」は除く。

青【くさい】ほど未熟な私に
照れ【くさく】て言えなかった「ありがとう」。
米国よりずっと古【くさく】なってしまった。

45 クダサル　　動詞　　ラ行五段（文語ラ行四段）
下さる

ギブミーレターをご覧【下さい】ね。
ご意見、ご感想をお寄せ【下さい】。

46 グルミ　　接尾辞
ぐるみ

身【ぐるみ】剥がされちまうなんて
国家【ぐるみ】の犯罪や脅威から

47 クン　　接尾辞
君

ワジム【君】たちの力強い協力であった。
Y【君】からのメールでした。
外野手の桑原将太【君】は天然芝について

48 ゲ　　接尾辞
気

闇夜の怖ろし【げ】な海は
やや寂し【げ】なタイトルであるが、
何【げ】ない一言から偶然始まった。

49 ケイ　　接尾辞
系

漢語の1最小単位と結合したものは除く。（文=系，日=系）

フローラル【系】の香水を使って
懐かし系から超ハイテク【系】トイまで
癒やし【系】、癒やし顔。

50 ゲル　　接尾辞　　ガ行下一段
げる

『バカ【げ】た事を』と言われたのだ。

51 ゴ　　接尾辞
後　　漢語の1最小単位と結合したものは除く。（戦=後，老=後）
ストレッチ【後】は体がほのかに温まり、
ゲーム【後】の胃腸には負担となり
プレス試写【後】の記者会見では

52 ゴ　　接尾辞
御
姉【御】肌の人が凄く多いなっていう

53 コト　　名詞
事
ヘコキムシ【こと】ミイデラゴミムシは黄色と黒の模様。
私【こと】

54 ゴト　　接尾辞
ごと　　「～も一緒に」の意。
そのまま丸【ごと】預託したものであり
滝【ごと】持って帰りたいところだが、
１冊丸【ごと】学校に関係ある

55 ゴト　　接尾辞
毎　　そのもの一つ一つ，その時その時の意。
国【ごと】に違うということであろう
ナンバー【ごと】の細部の変化は
章【ごと】に文体が変わり、

56 コナス　　動詞　　サ行五段（文語サ行四段）　動詞連用形
熟す
「うまく～する」の意。
着【こなし】も上品に。
２人乗りでコンパクトに乗り【こなせる】。
美しく澄んだ高音で歌い【こなし】ている。

57 サ　　接尾辞
さ　　「そうだ」が接続するときの「なさ」「良さ」の「さ」，ケシ型形容詞に直接する「さ」は除く。
比類のない深【さ】はそこから生まれている。
ステレオ欲し【さ】に応募して、
～なりた【さ】

58 サマ　　接尾辞
様
地域の皆【様】はじめ全ての方々から
それが神【様】の目からの評価だから、真実なのだ。
『志村けんのバカ殿【様】』に腰元役として出演。

59 サン　　接尾辞
さん

皆【さん】すでにご承知のごとく、
島田【さん】の奥さん手製の
お巡り【さん】なのに茶髪で、

60 ジ　　接尾辞
時　　漢語の1最小単位と結合したものは除く。（戦=時）
コミュニケーション【時】に観察され

61 シキ　　接尾辞
式　　形式・方法などの意。漢語の1最小単位と結合したものは除く。（洋=式，正=式）
最近ではプッシュ【式】の電話機をよくみかけますが、
シルバーのスプレー【式】ペイントで
北部九州で「夜臼１【式】」と呼ばれる土器が

62 シナ　　接尾辞
しな
帰り【しな】に一撃されて

63 ジミル　　接尾辞　　マ行上一段
染みる
子供【じみ】た正義感を感じなくもない

64 ジュウ　　接尾辞
中
部屋【中】何時もちらかっていて
体【中】に生えているトゲで攻撃してくるはりせんぼん。

65 ジョウ　　接尾辞
上　　漢語の1最小単位と結合したものは除く。（機=上，車=上）
パープレキシティー【上】は最適化されてることは

66 ジョウ　　接尾辞
状　　「～の形・有り様」の意。漢語の1最小単位と結合したものは除く。（液=状）
粒【状】若しくは粉【状】
今日の当番表の紙を手の中で筒【状】に丸め、
主役は霧【状】にして吸い込むステロイドを使う治療だ。

67 スギル　　動詞　　ガ行上一段（文語　動詞連用形ガ行上二段）
過ぎる

背景が明る【過ぎ】たりする。
こり【過ぎ】て当時の歌手たちが歌えず、

68 ズク　　接尾辞
尽く
力【ずく】で戦争して、

69 ズクメ　　接尾辞
尽くめ
裏の活動をするバリスが黒【ずくめ】で

珍し【ずくめ】の応酬

70 **スル**
為る　動詞　サ行変格（文語サ行変格）

漢語の1最小単位と結合したものは除く（対=する，信=ずる）。
「～んずる」という形式は除く（甘ん=ずる，重ん=ずる）。

アドバイス【する】役割もあり、
対応関係ははっきり【し】ていない。
来場者の移動手段と【し】て導入される。

71 **セイ**
性　接尾辞

物事の性質・傾向の意。漢語の1最小単位と結合したものは除く。（特=性，急=性）

枝が水平に伸びるもの、枝垂れ【性】のものなど、
ブラックベリーはつる【性】の植物なので、

72 **ソウ**
そう　形状詞

様態の助動詞「そうだ」の語幹に当たるもの。

けだる【そう】に行列してゆくところだった。
慢性的な肺の病気の発症には関係がなさ【そう】です。
わかりにくい仕組みだと言え【そう】です。

73 **ソウ**
そう　名詞

伝聞の助動詞「そうだ」の語幹に当たるもの。

コラーゲンの量やキメの細かさまで分かる【そう】
「マジシャン」というニックネームで呼ばれている【そう】だが、
四十四年もかかる【そう】です。

74 **ソコナウ**
損なう　動詞　ワア行五段（文語ハ行四段）　動詞連用形

神になり【損なっ】た男の、
日本株を売り【損なっ】たと話したら、

75 **ソビレル**
そびれる　動詞　ラ行下一段（文語ラ行下二段）　動詞連用形

きちんと届いたかどうかも聞き【そびれ】た。

76 **ソンズル**
損ずる　動詞　ザ行変格（文語サ行変格）　動詞連用形

駆け落をし【損じ】たるは櫻頃
急いては事を仕【損じる】よ。

77 **タイ**
対　名詞

1【対】1で戦う試合。
神【対】巨

78 ダス　　動詞　　サ行五段（文語サ行四段）　動詞連用形
出す

「～し始める」という意。

背中を押されるようにして歩き【だす】。
最前列では子供たちが踊り【だし】た
無口な少年スキッパーがスラスラと話し【だし】、

79 タチ　　接尾辞
達

私【達】は真剣に自分で考えるべきだ。
あなた【達】はバンドを始めた時共同生活していたそうですね。
保護者の方【たち】も親切にしてくれるようになり、

670 タテマツル　　動詞　　ラ行五段（ラ行四段）　動詞連用形
奉る

年のはじめの栄えに見【奉る】。

80 タマウ　　動詞　　ワア行五段（文語ハ行四段）　動詞連用形
給う

篤道公、喜バレ【給フ】。
天が許し【給う】

81 ダラケ　　接尾辞
だらけ

埃【だらけ】の棚隅のいびつな土甕に
岩【だらけ】のけわしい土地は
タバコのヤニ【だらけ】の、

83 チャン　　接尾辞
ちゃん

ワン【ちゃん】も寒いと思いますよ。
私もお母【ちゃん】って、呼んでもいい？
おじい【ちゃん】のモリゾーと、

84 チュウ　　接尾辞
中　　漢語の1最小単位と結合したものは除く。（空=中）

高層階からの夜景を仕事【中】に観ると、
休み【中】

85 ツイデ　　接尾辞
ついで

開き直り【ついで】におデコにこんなマークを入れたら？
くたびれ【ついで】

87 ツキ　　接尾辞
付き

デザート、コーヒー【付き】で１５００円
材料費込み、おやつ【付き】。

86 ツクス　動詞　サ行五段（文語サ行四段）　動詞連用形
尽くす

「すっかり～する」という意。

野外会場を埋め【尽くし】た数千人のファンに
新しいものは出【尽くし】てしまった

88 ツケル　動詞　カ行下一段（文語カ行下二段）　動詞連用形
付ける

習慣の意。

行き【つけ】の雀荘で仕入れた情報を

89 ッコ　接尾辞
っこ

「～すること」の意。

つかまり【っこ】ないから。
失礼はいい【っこ】なし！
ＧＨＱ（連合国軍総司令部）がいる間は勝て【っこ】ない。

90 ッコ　接尾辞
っこ

「～比べ」「互いに～する」という意。

お馬のかけ【っこ】

92 ツヅク　動詞　カ行五段（文語カ行四段）　動詞連用形
続く

夜が明けるまで降り【続き】そうな勢いだ。

93 ツヅケル　動詞　カ行下一段（文語カ行下二段）　動詞連用形
続ける

限界になるまで黙々と働き【続ける】ので、
信念を持ち【続け】た。
同じように給料を払い【続け】ていれば、

94 ヅライ　接尾辞　口語形容詞型（文語形容詞型１）
辛い

人間にはわかり【づらい】ですが、
元の位置に戻り【づらく】なってしまうので
意見聴取を進めるほど、結論が出し【づらく】なる

95 テキ　接尾辞
的

漢語の1最小単位と結合したものは除く。（人=的，端=的）

個々のゲリラ【的】な周旋活動になった。
たしかにスケジュール【的】にはすごい過酷で、

97 デキル　動詞　カ行上一段
出来る

売店や茶屋があるのでのんびり【できる】。
今晩、シングルを一部屋お願い【でき】ますか。
あまり票読み【できる】人っていないと思うのね。

98 トウ　　接尾辞
等

テレビ【等】でも宣伝され、
各紙のインタビュー【等】に応じている。
世界的なイベント【等】で極少量の農産物輸出はあったものの、

99 ドウシ　　接尾辞
同士

妻【同士】が同じ英会話学校に通っていて
大人【同士】の対立軸ではなく、

100 トオス　　接尾辞　　サ行五段（文語サ行四段）　動詞連用形
通す

彼らは一晩中歩き【通し】だった。
たくさんあって読み【通す】のが大変でした。
ライブをやり【通し】た彼らは、

102 ドノ　　接尾辞
殿

昨日杉田【殿】の孫に施した種痘は、
むこ【殿】

103 トモ　　接尾辞
共　　全部の意。

二人【とも】宵越しの金は持たない主義で、
両作【とも】指示代名詞やあいまいな言語を多用する。

104 トモ　　接尾辞
共　　それを含めての意。

送料【とも】
住所・氏名【とも】

105 ドモ　　接尾辞
共

ガキ【ども】を締め上げて

106 ドモ　　接尾辞
共

それを踏まえて私【ども】でも

107 ナイ　　接尾辞
内　　漢語の1最小単位と結合したものは除く。（室=内，社=内）

タワー下のビル【内】には
場外からリング【内】に入るときの

108 ナガラ　　接尾辞
乍ら

市長に涙【ながら】に訴えにいき
昔【ながら】の民家を改造した

109 **ナサル**　　動詞　　ラ行五段（文語ラ行四段）
為さる

おなかいっぱい食べ【なさい】といいますね。
言えなかった「ごめん【なさい】」。

671 **ナサル**　　動詞　　ラ行五段（ラ行四段）　動詞連用形，名詞
為さる

そこに試しに行き【なさい】ってあまりにしつこいんで

110 **ナミ**　　接尾辞
並み　　その類と同じ，又は同じ程度であることを表す。
人に対して思いやりの心だけは人【並み】以上に持っていたと思うけれど
一般的な腕時計【並み】の薄さも実現している。
日本やアメリカ【並み】のビデオ文化が訪れたかという感がある。

111 **ナリ**　　接尾辞
形　　そのもの相応である様の意。
低い価格設定には低い【なり】の理由があります。
それ【なり】の役目を与えて投げさせたいと思うよ。
不調【なり】に試合をつくり、

112 **ナリ**　　接尾辞
形　　「～するまま」「～するに従う様」の意。
やっぱりアメリカの言い【なり】！？

113 **ナレル**　　動詞　　ラ行下一段（文語ラ行下二段）　動詞連用形
慣れる

風景の一部として見ているから見【慣れ】てしまった。
カラーマスカラをつけ【慣れ】ていない人もつかいやすい
通い【慣れ】た青山一帯の江戸時代の風景が、

114 **ニクイ**　　接尾辞　　口語形容詞型（文語形容詞型１）
難い
醜悪の意の「醜い」は除く。
ライフスタイルの改善だけでは効果は出【にくい】もの。
ハイテク株だけが物色される相場は考え【にくい】。
美化されると、問題が直視し【にくく】なるのです

115 **ヌク**　　動詞　　カ行五段（文語カ行四段）　動詞連用形
抜く
「終わりまでする」という意。
「笑顔で耐え【抜く】しかないな」
熟練した技と、磨き【抜か】れたセンスをもって作り出される料理
日本全体の利益はどこにあるかを考え【抜か】なければ、

116 **ハジメル**　　動詞　　マ行下一段（文語マ行下二段）　動詞連用形
始める

九郎は小社の裏手を抜ける参道を拝殿に向かって歩き【始め】た。
徳利のままグイグイ飲み【はじめ】てしまったんです。
好調だったブランド品の売れ行きに陰りが見え【はじめ】たのか。

117 **ハタス**
果たす　動詞　サ行五段（文語サ行四段）　動詞連用形

「すっかり～し終える」の意。

使ひ【果し】てしまはなければならぬ。

118 **ハテル**
果てる　動詞　タ行下一段（文語タ行下二段）　動詞連用形

「すっかり～する」「～し終わる」という意。

形骸化した官僚主義的機関と成り【果て】ており、
疲れ【果て】て眠り込んだ矢先のことだった。
地域一帯が荒れ【果てる】という、

119 **ハナシ**
放し　接尾辞　ッパナシ

腰板障子戸を開け【っ放し】にしており、
試合中はずっと走り【っぱなし】で疲れましたが、
１２時間預け【放し】の親、

120 **バム**
ばむ　接尾辞　マ行五段（文語マ行四段）

地に積もる黄【ばむ】孔あく病葉の量
日向は汗【ばむ】程の気候。

121 **バン**
版　接尾辞

漢語の1最小単位と結合したものは除く。（新=版）

ロシア語【版】の表紙には、
オリジナルの字幕【版】と

122 **フウ**
風　接尾辞

様子の意。漢語の1最小単位と結合したものは除く。（和=風，古=風）

スタンダード仕立て【風】の樹形にすることができます。
もう一方は寅さん【風】のテキ屋スタイル。

123 **ブリ**
振り　接尾辞

それだけの時間が過ぎたという意を表す。

久し【ぶり】の出勤に自分も気分が高揚している。
プロ野球では今年、１８年【ぶり】に阪神タイガースがリーグ優勝し、

124 **ブリ**
振り　接尾辞

様子・状態の意。

その若者は、急にぞんざいな口【ぶり】になった。
これで女【っぷり】が上がります！
依田の打ち【ぶり】に感心しきりだった。

125 **ブル**　　接尾辞　　ラ行五段（文語ラ行四段）
振る

「そのように振る舞う」という意。

「そんな、もったい【ぶら】ないで、頼みますよ」
悪【ぶっ】てはいるが、実は心がやさしく、おひとよし。

126 **ブン**　　接尾辞
分

３週間【分】の発芽玄米と、食事記録用紙を渡して、
それが連中の取り【分】で、
その年俸【分】を他の選手の増額に振り向けられる。

127 **ポイ**　　接尾辞　　口語形容詞型　　名詞　　ッポイ
ぽい

形容詞語幹に接続する「ぽい」は除く。「いがらっぽい」の「ぽい」は除く。

タイトスカートで大人【っぽい】着こなしに
空気が湿【っぽく】ムッとしている。
いたずら【っぽく】笑った。

128 **ポッチ**　　接尾辞　　ッポッチ
ぽっち

これ【っぽっち】も思っていなかった。

129 **マエ**　　名詞
前

テスト【前】の忙しい時間に

130 **マクル**　　動詞　　ラ行五段（文語ラ行四段）　動詞連用形
捲る

午後一杯を費やして匿名の発言を読み【まくっ】た。
２年間ほど本を読み【まくり】知識を得たつもりですが、
ＤＪブースに近い参加者ほど、楽しそうに踊り【まくる】。

133 **マワリ**　　接尾辞
周り

「おなか【まわり】がスッキリした」
門【まわり】に１本、ポーチわきに１本、

134 **ミタイ**　　形状詞
みたい

海水で腹を膨らませたクラゲ【みたい】だと清は思った。
必ずそういう状態になる【みたい】ですけど。
そう言う、うねり【みたい】なものは地方にも出てきている。

135 **ムキ**　　接尾辞
向き

辛口テーストが大人【向き】

136 **ムケ**　　接尾辞
向け

この髪型は、丸顔の人【向け】です。
ジーン・バトラーが子供【向け】のワークショップを開催。
夏【向け】に、前回より怖い作品を目指すという。

137 メ　接尾辞
奴　ののしる語。
ああ恐ろしい女子【奴】！

138 メ　接尾辞
奴　謙そんの意。
私【め】はこの度お願い申し上げました

139 メ　接尾辞
目　順序を表す。
兄弟のうち二人【目】の中学進学である。
４回【目】の対決となる今回は、
１日【目】は、首席指揮者ロジャー・ノリントン率いる、

143 メク　接尾辞　カ行五段（文語カ行四段）
めく　擬態語的なものの「めく」は除く。（きら=めく，ざわ=めく）
謎【めかし】ていった。
とき【めく】

672 モウス　動詞　サ行五段（サ行四段）　動詞連用形
申す

あはれにうれしくも会ひ【申し】たるかな。

144 ヤガル　接尾辞　ラ行五段　動詞連用形
やがる
馬鹿にし【やがっ】て！
なにを言い【やがる】。

145 ヤスイ　接尾辞　口語形容詞型（文語形容詞型１）　動詞連用形
易い

住み【やすい】住環境を提案する
かわいくって履き【やすい】バブーシュは

146 ヨイ　形容詞　口語形容詞型（文語形容詞型１）　動詞連用形　イイ
良い

これからも住み【良い】社会に少しでも近付くよう、

147 ヨウ　形状詞
様　助動詞「ようだ」の語幹に当たるもの。
解釈がやっと見直される【よう】になり、
ミリアリアの【よう】な女の子が
日本のラグビーは日本経済と同じ【よう】に、

148 ヨウ　　接尾辞
様　　方法の意。
やり【よう】によってはすごいオイシイ役なんですよ。
天性の能力としか言い【よう】がありません。

149 ヨウ　　接尾辞
用　　漢語の1最小単位と結合したものは除く。（学=用）
賄い【用】にと、鰰の自分の取り分まで渡してくれた
ひとり【用】七輪とびの魚を焼く

150 ラ　　接尾辞
等　　複数を表す。
これ【ら】が改善されると、
彼【ら】に希望を託していく。
イラクの子ども【ら】の惨状を理解する

151 ラ　　接尾辞
等　　事物をおおよそに指す。
余はなん【ら】の肩書を必要としない。
そこ【ら】のショップとはひと味違う、

152 ラシイ　　接尾辞　　口語形容詞型（文語形容詞型２）
らしい
助動詞「らしい」は除く。
わざと【らしい】くらいにお金を掛けた作り
“夏【らしい】”体験もしているようで…。
女性【らしい】印象を作り上げる。

153 リュウ　　接尾辞
流　　流派の意。
ニイチェ【流】の「健康への意志」を呼びさました。
ピンキー【流】「コマダム」スタイルにちゅーもく！

154 ルイ　　接尾辞
類　　漢語の1最小単位と結合したものは除く。（人=類）
貝塚中の貝【類】の組成が、
しめじ【類】
卵や麦【類】をはじめ、

155 ワスレル　　動詞　　ラ行下一段（文語ラ行下二段）　　動詞連用形
忘れる

お誕生日やご住所を書き【忘れる】方が、
しかも財布を置き【忘れ】、

156 ワタル　　動詞　　ラ行五段（文語ラ行四段）　　動詞連用形
渡る
「辺り一面に～する」という意。
眼鏡から覗く双眼は澄み【渡っ】ていた。
心に染み【渡る】ような洗練された，
企業までお金が行き【渡ら】ない。

157 ワタル　動詞　ラ行五段（文語ラ行四段）　動詞連用形
渡る

「徹底的に～する」という意。

さえ【わたる】

全体で１最小単位とするもの

ID	代表形 代表表記	品詞 注記	活用型・その他	接続	異形態

626 アッケラカン　副詞　その他
あっけらかん

啓太は【あっけらかん】としていた。

627 アノヨ　名詞　その他
彼の世

日向ぼこ【あの世】さみしきかも知れぬ

577 イカニ　副詞　ニ型
如何に

現場の光を【いかに】有効に使えるかがポイントだ。
【いかに】もぬった感がなくてつかいやすい」
【いかに】技術者が独りよがりに車をつくっていたかを痛感した。

630 イタルトコロ　名詞　その他
至る所

あるタイプの指揮者が【いたるところ】で活躍していた。
植物が【いたるところ】にたれ下がっていた。
市内の【いたるところ】で、石油をくみ上げるポンプが動く。

631 イッショクタ　名詞　その他
一緒くた

語的情報というのを区別しないでもう【一緒くた】にしてですね

578 オオイニ　副詞　ニ型
大いに

【大いに】時間の節約になることを教えてやろうか。
舞台人としても花開くか、【大いに】注目されるところ。
ラグビー人気を【大いに】高める効果があった。

636 オモナ　連体詞　その他
主な

中性脂肪値やコレステロール値が下がっていることが【主な】要因。
キノボリカンガルーの【主な】食べ物は，木の葉や果実である。
米景気を下降させる【主な】リスクと考えている。

579 オモニ　副詞　ニ型
主に

ヒカゲチョウの仲間は【主に】後翅に顕著な眼状斑を持っています。
梅干しの酸っぱさは【主に】クエン酸によるもの。

580 **ゲニ**　　副詞　　ニ型
実に

大晦日　ミソ一文字でミソをつけ　【げに】恐ろしきかなゴマミソズイ

581 **ゲンニ**　　副詞　　ニ型
現に

【現に】啓太が、信吉とサハシさんの行動を見ていた。
【現に】船籍国が現に必要な規制を及ぼさない場合

582 **コトニ**　　副詞　　ニ型
殊に

【殊に】パリでは、街頭のドル買ひにだまされ、
ローマやマドリッドにおいて、【殊に】鮮やかであった。

637 **コノカタ**　　名詞　　その他
此の方

瓜人先生羽化【このかた】の大霞

638 **コノカタ**　　代名詞　　その他
此の方

今回のベスト５を制したのは…【この方】でした～！

639 **コノゴロ**　　名詞　　その他
此の頃

ヤンさんは【このごろ】学校に来ませんね。
はっきりしないお天気に、いまいちノリノリになれない今日【この頃】。
「【このごろ】不況のせいか、カットだけでシャンプーいいですっていう

640 **コノホウ**　　代名詞　　その他
此の方

641 **コノヨ**　　名詞　　その他
此の世

その上で【この世】の地獄を見せてやるのだ。
【この世】では、ちょっとしたコトバの積み重ねが人生を大きく変えていく。
２６歳で【この世】を去った童謡詩人

643 **サラナル**　　連体詞　　その他
更なる

今後の課題であり、【さらなる】努力工夫が望まれる。
【さらなる】使いやすさを実現しています。
三月十八日にの夜、【さらなる】悲劇が起こった。

583 **サラニ**　　副詞　　ニ型
更に

【さらに】成長しようというエネルギーを
皮肉なことに【更に】楽しみが増えたのである。
【さらに】警察庁は、新潟県警を中心に港などで警備活動にあたる。

584 スデニ　　副詞　　ニ型
既に

自動車を破壊されたとき、【すでに】すべての味方を失ったのである。
現段階で【既に】、頭の中はハムレットでいっぱいなんですね。
【すでに】戦争のむごたらしい実相は、日々次々とあらわになっている。

585 セツニ　　副詞　　ニ型
切に

再生と再建に取り組んでいただくことを【切に】願う
保護者のみなさまのご協力を【切に】お願いするところで、ございます。

645 ソノホウ　　代名詞　　その他
其の方

646 タイシタ　　連体詞　　その他
大した

【たいした】泳ぎ手だとごじまんじゃなかったのかい？
こまかな表現は，【大した】問題ではない。
それがほんとうなら、【たいした】ものだ。

648 タンナル　　連体詞　　その他
単なる

そう自分を呼ぶのは【単なる】愛称かと思っていた。
僕なんて【単なる】音楽好きのガキだったわけだし。
名匠による武侠映画は、【単なる】チャンバラ映画ではない。

586 タンニ　　副詞　　ニ型
単に

【単に】単にダンディだというだけで近衛連隊へと登用された
【単に】「手ブレ補正バンザイ！」と唱える気はまったくない。
【単に】芸術的に味わうだけでは、その力を受け止められない。

587 ツイニ　　副詞　　ニ型
遂に

その想いが【ついに】叶うことはなかった。
コトブキヤから【遂に】フィギュアで登場する。
【ついに】国債発行額が３６兆５９００億円と過去最高になった。

649 トアル　　連体詞　　その他
とある

私は、長男を育てるに当たって、【とある】実験をした。
【とある】ロードスター耐久レースの前の１コマ。

588 トクニ　　副詞　　ニ型
特に

あなたの説明に【特に】付け足すことはありません。
作家や職人さんによる器など、食まわりのものが【とくに】充実している。
【特に】、４４道府県議選のうち、３５が戦後最低だった

589 **トミニ** 副詞 ニ型
頓に

楽しいような町作りに最近【とみに】またなってきてますでもう一つ

590 **ヒトエニ** 副詞 ニ型
偏に

その目的は【ひとえに】基本的人権を保障するための装置を
【ひとえに】瀬在総長のお力によるところが大きい

652 **ヒョンナ** 連体詞 その他
ひょんな

その前に【ひょんな】きっかけで野党の知るところとなり、

653 **ホンノ** 連体詞 その他
本の

フォルカークとエジンバラは【ほんの】三十分の距離なのだ。
最新アイテムの中から、【ほんの】少しだけご紹介、
【ほんの】人生のひとコマを切り取った言葉がつづられているのに、

591 **マサニ** 副詞 ニ型
正に

それはそれらが【正に】異なった種類の事物だからである。
限定グッズをプレゼント、【まさに】いたれりつくせりです。
追い打ちをかけるのが、【まさに】魅力的な色彩と構図の絵です。

592 **ユウニ** 副詞 ニ型
優に

寒暖計を読むまでもなく、【ゆうに】四十五度は越えているにちがいはない。

654 **ロクナ** 連体詞 その他
碌な

「サイフ持つと【ろくな】ことはない」
自分が関わると【碌な】ことはあるまい、とまで思う

593 **ロクニ** 副詞 ニ型
碌に

ジョゼフィーヌのほうは【ろくに】読みもしないで
【ろくに】準備もしないで、ステージに立たなきゃいけなくなったし、

655 **ワガイ** 名詞 その他
我が意

【我が意】をえたりという面持ちでこう語った。

656 **ワガハイ** 代名詞 その他
我が輩

657 **ワガママ** 形状詞 その他
我侭

人間として不遜で【わがまま】だったかを、
あまり【わがまま】なことも言えなかった。

ひよわで【わがまま】な現代っ子だ。

658 ワガヤ 名詞 その他
我が家

この問題を抱える【我が家】は現代の最前線だ
【我が家】では、賞与の半額以上を住宅ローンにあてています。

研究開発部門言語資源グループ（形態論情報サブグループ）

小椋秀樹*　（研究開発部門研究員）
小磯花絵*　（研究開発部門研究員）
小木曽智信　（研究開発部門研究員）
冨士池優美*　（研究開発部門特別奨励研究員）
渡部涼子　（研究開発部門研究補佐員）
服部龍太郎　（研究開発部門研究補佐員）
竹内ゆかり　（研究開発部門研究補佐員）
原裕*　（研究開発部門非常勤研究員）
中村壮範　（派遣社員，株式会社インテリジェンス）

（＊印は執筆者）

国立国語研究所内部報告書(LR-CCG-07-04)
『現代日本語書き言葉均衡コーパス』
形態論情報規程集

平成２０年３月２１日
執筆者　小椋秀樹　小磯花絵　冨士池優美　原裕
発行者　独立行政法人国立国語研究所
〒190-8561　東京都立川市緑町10番地の2
電話　042（540）4300（代表）

©2008 独立行政法人国立国語研究所　（平19-12）

国立国語研究所